筑波大学
ダイバーシティ

平成29年度活動報告書

国立大学法人筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ部門

Diversity Division
Center for Diversity,
Accessibility and Career Development
University of Tsukuba

筑波大学
ダイバーシティ

平成29年度活動報告書

国立大学法人筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ部門

Diversity Division
Center for Diversity,
Accessibility and Career Development
University of Tsukuba

CONTENTS

4 ダイバーシティの推進を目指して

5 Ⅰ 筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針・行動計画

6 筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針

7 筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針（英語版）

7 筑波大学ダイバーシティ推進行動計画

9 ダイバーシティ部門構成員

11 Ⅱ ダイバーシティ推進事業

12 1．ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（牽引型）

12 ①概要

13 ②シンポジウム「チャレンジ～未来を拓く一歩～」

15 ③外部評価委員会

16 2．つくば女性研究者支援協議会

16 ①「つくば女性研究者支援協議会」会議

20 ②「つくば女性研究者支援ネットワーク憲章」の制定

21 ③「つくば女性研究者支援協議会」会員

22 ④「つくば女性研究者支援協議会」パンフレット

23 3．意識啓発事業

23 ①学長・副学長と女性研究者との懇談会

24 ②ダイバーシティリーダー育成講座

30 ③アンコンシャス・バイアスに関する講演会

31 ④ダイバーシティセミナー

41 4．環境整備

41 ①育児等との両立のための研究・業務補助者雇用経費助成制度

42 ②ベビーシッター割引券

42 ③ライフイベントからの研究復帰支援事業

43 ④ダイバーシティ推進関連企画に対する支援事業

43 ⑤不妊治療動画の公開

44 ⑥ダイバーシティ推進のための取り組み説明会

45 ⑦支援制度利用者ヒアリング

46 **5．相談事業**
46 ①相談室“あう”
48 ②キャリア相談
50 ③LGBT相談
52 ④アカデミック・メンター制度
53 ⑤相談窓口総覧

54 **6．裾野拡大・次世代育成事業**
54 ①女子中高生向け理系進路選択支援事業
59 ②「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」連絡協議会（報告資料）
62 ③リケジョ応援カフェ
63 ④学群総合科目・大学院共通科目
67 ⑤次世代キャリア支援セミナー
69 ⑥博士・ポスドクのためのキャリアデザインイベント

71 **7．LGBT等への対応**

79 **8．他機関・他部局との連携**
80 ①男女共同参画推進フォーラム（国立女性教育会館）、つくば男・女のつどい2017
82 ②学生支援FDの開催

87 **Ⅲ 参考資料**
88 ①ワークライフ支援ガイド（下敷き形）
89 ②女子中高生の理系進路選択支援プログラム追跡調査の結果概要
91 ③育児休業制度利用の手引き
93 ④ロールモデル集
94 ⑤新聞掲載記事
100 ⑥プレスリリース 「輝く女性の活躍を加速する 男性リーダーの会」行動宣言の賛同

ダイバーシティの推進を目指して

筑波大学のダイバーシティ推進への取り組みは、平成９年に女性教員有志による「筑波大学女性教官懇話会」から始まり、平成20年に「男女共同参画室」が設置されました。平成27年には、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが発足し、障がいをもつ学生の支援、学生のキャリア形成を担う部門と連携してダイバーシティの推進に取り組めるようになりました。そして、平成28年には、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、日本IBMと産業技術総合研究所と連携し、女性研究者・技術者の活躍を加速するための「３つの土台（環境支援・意識啓発・研究力向上）」と「３つの柱（次世代キャリア支援・上位層育成・研究活動再開支援）」となる取り組みを実施し、産学官の多様な視点に基づいて女性研究者・技術者を牽引することで、イノベーション創出を目指す取り組みを進めています。

平成29年度は、２年目となる「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業として、３回のリーダー育成講座とシンポジウムを行い、異なる組織の女性たちが抱えている課題や進んで行くべき方向性についてワークを行いました。３回目には各組織の意思決定者に向けて報告プレゼンテーション及び提言しました。提言された内容は、女性に限らず、現代社会が抱えている課題でもあり、女性からの問題提起が、男女を問わず人が輝く社会をつくることに寄与するであろうことを改めて実感できました。

平成25年度から採択された科学技術振興機構の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」では、今年度も全国から100名以上の中高生が筑波大学に集まり、理系の研究者や大学生、仲間と交流を深めました。保護者向けにも、就職先など将来に向けた漠然とした不安を払拭していただき、子供たちの夢に向かう背中を押していただけるようなセミナーを行いました。

また、ダイバーシティ基本理念に基づき、平成27年度よりLGBT等（Lesbian・Gay・Bisexual・Transgender及び他のセクシュアリティを含む）の学生および教職員への支援体制の構築を進め、本学におけるLGBT等に関する基本理念及び対応ガイドラインを作成し、公表しました。今年度は、企業などのLGBT施策を評価し、表彰などを行う「work with Pride 2017」においてゴールドを受賞することができました。教職員や学生を含む全員を対象にLGBTに対する差別の禁止や解消を明文化したことが高く評価されました。

ダイバーシティへの取り組みは、一歩ずつ着実に進んでいるという思いと同時に、思うように進まない焦燥感が交錯しますが、様々な事業を通じて出会う人たちのエネルギーと強い思いに力をいただいています。平昌オリンピック・パラリンピックではアスリートたちの活躍に思わず背筋を伸ばしました。結果が全てではありませんが、結果を出すことが圧倒的な説得力を持つことも間違いありません。今後もスタッフ一同、ダイバーシティの実現に向けて努めてまいりますので皆様にもご協力、ご支援を賜りますようにお願いを申し上げます。

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ部門長
山口　香

I

筑波大学ダイバーシティ推進
基本理念・基本方針・行動計画

Ⅰ 筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針・行動計画

筑波大学では平成20年に「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念・基本方針」を策定し、同理念・方針に則って男女共同参画室を中心に本学におけるダイバーシティ推進を行ってきた。平成24年には、それまでの男女共同参画を更に拡充するため、「ダイバーシティ基本理念・基本方針」を策定し、「男女共同参画推進室」から「ダイバーシティ推進室」と名称を改め、平成25年には「筑波大学ダイバーシティ推進行動計画」を策定した。更に平成27年には、「筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター」※ のダイバーシティ部門へと再編され、包括的な視点から本学のダイバーシティ推進に取り組んでいる。

※筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターは、従来のダイバーシティ推進室、障害学生支援室、キャリア支援室を有機的に統合し、多様化する学生及び教職員への包括的な支援を目的として設置されたセンターである。ダイバーシティ部門は、性別、国籍、年齢及び障がいの有無等にかかわらない、幅広いダイバーシティの推進を目指し、活動に取り組んでいる。

筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針

【基本理念】

筑波大学は、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず人間の可能性と多様性を尊重し、ダイバーシティ文化の醸成に努めるとともに、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作りあげるため、以下の理念のもとに、男女共同参画社会及びダイバーシティ社会の形成に積極的に寄与する。

1．性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず、すべての人の人権の尊重、個人の尊厳の確立
2．性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわりなく個人としての個性と能力発揮の機会の確保
3．あらゆる分野における諸施策の企画・立案及び決定において、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわりない対等な参画の推進
4．男女共同参画社会、及びダイバーシティ社会の実現に向けた国際協力の推進

【基本方針】

基本理念に基づき、次に示す基本方針に沿って行動する。

1．男女共同参画、及びダイバーシティの視点に立った教育・研究・就業の確立
2．教育・研究・就業と家庭生活との両立支援
3．若手、女性、外国人等（注）増加のための施策の推進
4．若手、女性、外国人等の役職、及び施策決定に関与する委員会への登用の促進
5．教職員・学生への啓発活動の推進
6．地域社会・国際社会との連携を通じての男女共同参画、及びダイバーシティの推進

（注）「若手、女性、外国人等」とは、左記に掲げた人々のみならず、性別、年齢、国籍や障がいの有無を超えた多種多様な人々を指す。

筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針　英語版

Basic Principles

University of Tsukuba commits itself to actively contributing to the formation of a society founded on human equality and gender equality in accordance with the following principles, thereby becoming a university where human potential and diversity are respected and all stakeholders can experience pride and joy in their work:

1. Respect of the human rights regardless of age, gender, nationality, or disability and the stablishment of the dignity of the individual
2. Creation of opportunities for all people to realize their full individuality and potential regardless of age, gender, nationality, or disability
3. Promotion of equal participation regardless of age, gender, nationality, or disability in planning, development, and decision-making for policies in every area of campus life and administration
4. Promotion of international cooperation in the service of achieving a society founded on gender equality and diversity

Basic Policies

The University of Tsukuba shall act in accordance with the following Basic Policies, which embody the Basic Principles described above:

1. Pursuit of education, research, or work from the perspective of gender equality and diversity
2. Offering of assistance in the balancing of education, research, or work with family life
3. Expansion of an open recruitment system in order to increase the number of young, female, or foreign faculty members
4. Promotion of young, female, or foreign faculty members to administrative positions
5. Pursuit of awareness-raising activities targeting faculty members and students
6. Pursuit of gender equality and diversity through partnerships with the local community and international society

Note: The term “young, female, or foreign” refers to individuals regardless of age, gender, nationality, or disability.

筑波大学ダイバーシティ推進行動計画

筑波大学は、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず人間の可能性と多様性を尊重し、男女共同参画社会などのダイバーシティ社会の形成に努めるとともに、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作りあげるため、「国立大学法人筑波大学中期目標・中期計画」、及び「筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針」に基づき、その具体化に向けて、「筑波大学ダイバーシティ推進行動計画」を策定する。

本行動計画の実施期間は、2013（平成25）年度から2018（平成30）年度までの６年間とし、年度ごとに進捗状況を精査しながら以下の施策に取り組む。

筑波大学ダイバーシティ推進行動計画

１．大学運営におけるダイバーシティの推進

（1）大学の施策決定に関与する役職者や委員会におけるダイバーシティ・バランスの配慮

（2）若手・女性・外国人等の積極的登用・昇進

（3）各系における女性、外国人、障がい者等の採用数値目標と採用計画の策定支援

2．教育・研究・就業と家庭生活との両立支援

(1) ライフステージに対応した勤務制度の拡充
(2) 出産、育児環境の拡充
(3) 介護環境の充実
(4) 相談窓口の拡充
(5) インターネットによる在宅研究支援の拡充
(6) 両立支援のための経費助成の拡充
(7) 両立支援のための情報交換の推進

3．ダイバーシティ実現のための裾野拡大

(1) 女性研究者等の裾野拡大施策の拡充
(2) 外国人等の裾野拡大施策の導入
(3) 障がいをもつ方の裾野拡大施策の導入
(4) ダイバーシティの視点からの学内設備・建物の見直し
(5) アカデミック・メンター制度の拡充

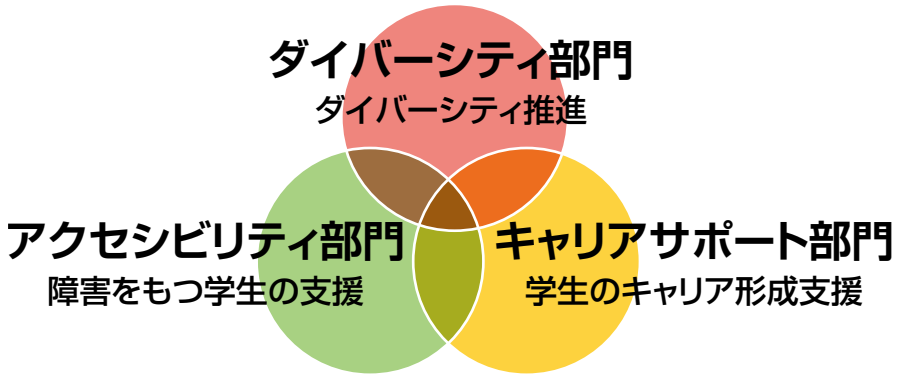
4．教職員・学生への啓発活動の推進

(1) 教職員を対象とした啓発活動
(2) 学群生・大学院生等への啓発活動
(3) 定期的なニーズアンケート調査の実施
(4) ダイバーシティを推進するための広報活動（ウェブサイト、リーフレット等）の拡充
(5) 就業・修学環境の悪化へと繋がるハラスメントの防止対策
(6) ダイバーシティの視点を取り入れた災害対策

5．地域社会・国際社会との連携を通じたダイバーシティの推進

(1) 筑波研究学園都市内の研究機関、及びダイバーシティを推進する他大学との連携
(2) 茨城県やつくば市をはじめとする地方自治体との連携
(3) 企業との連携
(4) 初等中等教育機関との連携
(5) 国際社会の取組との連携
(6) ダイバーシティ推進を率先して実施している大学として、ダイバーシティ教育・研究の充実を行う

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター



ダイバーシティ部門構成員

平成29年度

氏名	所属	職名
山口　香（ヤマグチ　カオリ）	体育系	部門長・准教授
河野　禎之（カワノ　ヨシユキ）	ダイバーシティ部門	副部門長・助教
秋保　さやか（アキホ）	ダイバーシティ部門	助教
中泉　章（ナカイズミ　アキラ）	学生部就職課　DACセンター	係長
三浦　博子（ミウラ　ヒロコ）	学生部就職課　DACセンター	一般職員
松島　尚子（マツシマ　ナオコ）	ダイバーシティ部門	コーディネーター
石井　万里子（イシイ　マリコ）	ダイバーシティ部門	一般係員
福田　千里（フクダ　チサト）	ダイバーシティ部門	事務補佐員
黒木　教子（クロキ　ノリコ）	ダイバーシティ部門	事務補佐員
平田　しのぶ（ヒラタ）	ダイバーシティ部門	キャリアカウンセラー
山田　典子（ヤマダ　ノリコ）	ダイバーシティ部門	事務補佐員
柴　智美（シバ　トモミ）	ダイバーシティ部門	事務補佐員
後沢　有紀（ゴザワ　ユキ）	ダイバーシティ部門	事務補佐員

アドバイザー

溝上　智恵子（ミゾウエ　チエコ）	図書館情報系	教授
吉瀬　章子（ヨシセ　アキコ）	システム情報系	教授
庄司　一子（ショウジ　イチコ）	人間系	教授

Ⅱ

ダイバーシティ推進事業

Ⅱ ダイバーシティ推進事業

1. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（牽引型）

①概要

筑波大学、日本IBM、産業技術総合研究所の３機関は、産学官の多様な視点に基づく女性研究者・技術者支援を牽引するため、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に協働して取り組みます。本事業を通して産学官の３機関が協働することにより、各機関及び地域や分野における女性研究者・技術者の一層の活躍を推進します。

－「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」－

研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、各機関・地域の特色を踏まえた、女性研究者の活躍推進に向けた機関としての目標・行動計画を設定・公表することを要件とし、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組及び女性研究者の積極採用や上位職への積極登用に向けた取組を支援する、文部科学省科学技術人材育成費補助事業です[1]。

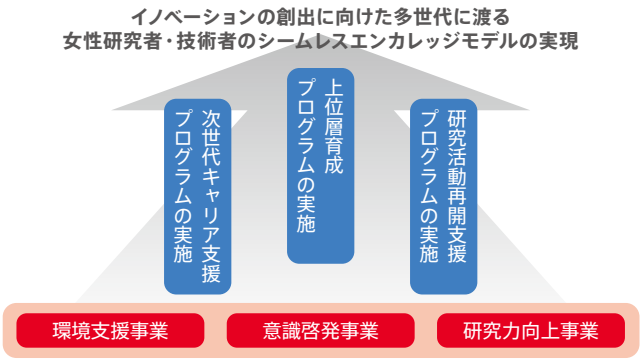
特に「牽引型」は、大学や研究機関が企業等と連携し、連携する各機関はもとより、その他の機関を含めた地域や分野における女性研究者の活躍促進を牽引する取組です[1]。

[1] 文部科学省・科学技術振興機構「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」HP 参照
（http://www.jst.go.jp/shincho/josei_shien/index.html）

実施目的

筑波大・日本IBM・産総研が連携して女性研究者･技術者の採用や活躍を加速するための「３つの柱」と「３つの土台」となる取組を実施し、産学官の多様な視点に基づく女性研究者・技術者支援を牽引することで、イノベーション創出に向けた「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現」を目指します。

取組の全体像（３つの土台と柱）



本事業のロゴマーク

TIDE

TIDE：Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environmentとは、筑波大学、日本アイ・ビー・エム株式会社、産業技術総合研究所による平成28年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の活動名「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現を目指して」の略称です。

②シンポジウム「チャレンジ～未来を拓く一歩～」

シンポジウム実施報告

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	平成29年度TIDEシンポジウム【チャレンジ～未来を拓く一歩～】
実施日	2017年12月６日（水）13:00～14:30
場所	筑波大学東京キャンパス　文京校舎　134教室
形式	一般公開・(シンポジウム)・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般)(研究者)(学生（大学院生）)　その他（　　）
来場者	人数：120名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	特別講演には、麓 幸子氏（日経BP執行役員、日経BP総研副所長、日経BP総研マーケティング戦略研究所長）をお迎えして、「私たちが変革を起こそう～We are Change Makers!」と題したご講演をいただきました。 女性リーダーへの取材から得た知見、研究者としての理論、そして長年に亘るご自身の経験も加えながら、これからの時代に何が必要なのか、どう生きるのかをお話し下さいました。中でも、今まさに女性の社会進出にとって、これまでに無いチャンスが訪れていること、そして、人生100年時代、諦めずにチャレンジを続けることの重要性など、たくさんの勇気が出る力強いメッセージがありました。 終了後のアンケートには、「役割葛藤に悩んでおりましたが、自分の人生も大切にしながら、社会貢献もできるのではないか？と頑張る元気をいただきました。」 「キャリア戦略とその中の市場性のあるスキルや資格よりも、継続的に自分のスキルを高めていくことができるという思考、行動特性「キャリアコンピタンシー」の重要性、などが、印象に残りました。自分でキャリアを作ることを考えました。」 男性参加者の方からも、「女性メンバーをさらに理解しようと思った。」 「自然と固定観念に縛られている自分がいると認識しました。」 など、麓氏に共感された感想が多数寄せられました。 女性だけでなく男性の参加者も多く、また年齢層も幅広く集まり、盛会となりました。

平成28～33年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

平成29年度 TIDEシンポジウム

チャレンジ ―未来を拓く一歩―

平成29年

12/6(水)

13:00 開演

会場 筑波大学東京キャンパス 文京校舎 134教室

参加費無料
当日参加もできます。
託児有
託児希望の方は11/24（金）までにお申込みください。

●プログラム

12:30 受付開始
13:00 シンポジウム開始
開会の挨拶 永田 恭介 氏（筑波大学学長）
13:05 来賓挨拶 甲田 彰 氏（国立研究開発法人科学技術振興機構理事）
13:15 特別講演 麓 幸子 氏（日経BP 執行役員、日経BP 総研副所長、日経BP 総研マーケティング戦略研究所長）
「私たちが変革を起こそう ～ We are Change Makers!」
14:15 閉会の挨拶 五十嵐 浩也 氏（ダイバーシティ・アクセシビリティー・キャリアセンター長）
14:20 休憩
14:30 ワークショップ
「ダイバーシティリーダー育成講座・特別企画」（関係者様限定）
17:00 終了

●特別講演 講師プロフィール

麓 幸子 氏
Sachiko Fumoto
日経BP 社 執行役員

1984年筑波大学卒業。同年日経BP社入社。88年日経ウーマンの創刊メンバーとなる。06年日経ウーマン編集長。12年ビズライフ局長。日経ウーマン、日経ヘルスなど3媒体の発行人となる。14年日経BPヒット総合研究所長・執行役員。15年日経BP総研副所長。16年現職。2014年法政大学大学院経営学研究科修士課程修了。内閣府、林野庁、経団連・21世紀政策研究所研究委員などを歴任。筑波大学非常勤講師。一男一女の母。

申込み 下記のURLからお申込み下さい。筑波大学ダイバーシティ部門HPからもお申込みいただけます。参加費無料。
当日参加可
https://goo.gl/Q8oyQa

託児（無料） 事前のお申込みが必要です。上記参加申込みフォーム託児希望欄よりお申込み下さい。
締め切り：11/24（金）

お問い合わせ 国立大学法人 筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ部門
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL：029-853-6418
FAX：029-853-6505
URL：http://diversity.tsukuba.ac.jp/
または 筑波大学 ダイバーシティ で 検索
E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp

会場案内図

◆丸ノ内線茗荷谷（みょうがだに）駅下車「出口1」徒歩5分程度

主催：国立大学法人筑波大学　日本アイ・ビー・エム株式会社　国立研究開発法人産業技術総合研究所
共催：つくば女性研究者支援協議会

筑波大学第12回全学FD研修会

TIDE：Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environment

③外部評価委員会

第１回会議実施報告

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第１回外部評価委員会
実施日	2018年２月21日（水）10:45～12:15
場所	筑波大学　スチューデントプラザ　２階
出席者	山岸裕美（アサヒビール）、安部　久（森林総合研）、井手ゆかり（産総研）、武仲能子（産総研）、塚崎あゆみ（産総研）、沢田十和子（つくば市）、梅田恵（IBM）、五十嵐浩也、山口　香、河野禎之、秋保さやか、事務局４名
議事	・ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の取り組みの報告と評価
1.報告事項	・代表実施機関及び共同実施機関における平成29年度の取組状況 ・代表実施機関及び共同実施機関における今後の予定
2.審議事項	・各種取組に関する課題点、改善点の確認 ・各種取組に関する評価
3.決定事項	・平成28年度の取組に関する課題点、改善点について外部評価委員から指摘があり、今後の取組に随時反映させていくことが確認された。 ・平成29年度の取組について、外部評価委員より高い評価を受けるとともに、引き続き３機関による産学官の視点を生かした取組を継続・発展させることが確認された。
4.今後の進め方	・平成30年度は特に共同研究とリターンシッププログラムに力を入れていく。 ・３機関で情報共有を図りながら、１つの取組で複数の目的が達成できるよう効率的に取組を進めていく。

2. つくば女性研究者支援協議会

①「つくば女性研究者支援協議会」会議

第１回会議実施報告

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第１回つくば女性研究者支援協議会
実施日	2017年６月５日（月）14:00～17:00
場所	筑波大学　学生生活支援室　３階会議室
出席者	山末進一（筑波技術大学）、山岸裕美（アサヒビール）、戒能真人（エーザイ）、岸川勝哉（小野薬品）、安部　久（森林総合研）、沢田十和子、久保田博之（つくば市）、廣瀬史明、石川友子（茨城県）、兼松聡子（農研機構）、五十嵐浩也、山口　香、河野禎之、秋保さやか、事務局２名
議事	・前回（平成28年度）第４回議事要旨案の確認 ・茨城県の本協議会への入会について ・平成29年度女子中高生の理系進路選択支援プログラムについて
1.報告事項	・理工系女子応援シンポジウムの開催について（茨城県） ・各機関の平成29年度の取組予定 ・平成29年度の取組における連携・協力について
2.審議事項	・平成28年度第４回協議会議事要旨（案）について ・つくば市の本協議会への入会について
3.決定事項	・平成28年度第４回協議会議事要旨（案）について、承認された。 ・茨城県の本協議会への入会が承認された。
4.今後の進め方	・次年度も引き続き各機関の連携・協力を深めながら取組を進めることが確認された。 ・次回協議会会議は2017年９月を予定
特記事項	・休憩をはさみ、ポジティブインタビュー（AI）を実践するワークショップが開催された。身近な人間関係を構築する際には、相手を良く知る事が大事なステップである。相互に自分自身の大切な体験を傾聴し、しっかりと認め評価し合う体験をすることで、自らをポジティブに捕らえることができ、更には双方向に良好な関係が生じる事を体験した。 本協議会自体にも新規メンバーを迎え、相互理解を深める助けとなると同時に、ダイバーシティ推進の研修として、各機関で取り組みのヒントになるよう設定した。 参加者からは大変好評な感想が寄せられた。

第２回会議実施報告

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第２回つくば女性研究者支援協議会
実施日	2017年９月４日（月）14:00～14:45
場所	筑波大学　総合研究棟Ａ　108
出席者	古家晴美（筑波学院大学）、原田朋美（茨城県立医療大学）、沼口知恵子（茨城県立医療大学）山岸裕美（アサヒビール）、戒能真人（エーザイ）、福地由希菜（小野薬品）、梅田　恵（IBM）、安部　久（森林総合研）、岩澤明美（物材研）、沢田十和子（つくば市）、石川友子（茨城県）、五十嵐浩也、山口　香、河野禎之、秋保さやか、事務局３名
議事	・平成29年度第１回協議会議事要旨（案）について ・DSOとの女性研究者支援に関する連携協定の延長について ・平成29年度リケジョサイエンスカフェの開催について ・平成29年度シンポジウム開催について
1.報告事項	・茨城県の本協議会への入会について -理工系女子応援シンポジウムの開催通知（茨城県） ・各機関の平成29年度の取組報告
2.審議事項	・平成29年度第１回協議会議事要旨（案）について
3.決定事項	・平成29年度第１回協議会議事要旨（案）について、承認された。 ・茨城県の本協議会への入会が承認された事が正式に確認された。
4.今後の進め方	・次年度も引き続き各機関の連携・協力を深めながら取組を進めることが確認された。 ・次回協議会会議は2017年11月１日を予定

第３回会議実施報告

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第３回つくば女性研究者支援協議会
実施日	2017年11月１日（水）14:00～14:45
場所	筑波大学　総合研究棟Ａ　108
出席者	古家晴美（筑波学院大学）、山岸裕美（アサヒビール）、戒能真人（エーザイ）、安部久（森林総合研）、竹内孝夫（物材研）、岩澤明美（物材研）、井手ゆかり（産総研）、武仲能子（産総研）、兼松聡子（農・食産総研）、沢田十和子（つくば市）、石川友子（茨城県）、五十嵐浩也、山口　香、河野禎之、秋保さやか、事務局３名
議事	下記、１審議事項、２報告事項
1.報告事項	・理工系女子応援シンポジウムについて ・各機関から、これまでの取り組み報告と周知 ・その他　報告事項
2.審議事項	１）平成29年度第２回つくば女性研究者支援協議会議事要旨（案）の確認 ２）リケジョサイエンスカフェの開催（12/27）について ３）ダイバーシティ・リーダー育成講座Ⅱの開催（11/16）について ４）TIDEシンポジウムの開催（12/6）について ５）ダイバーシティ・リーダー育成講座Ⅲの開催について ６）博士人材と企業との交流会（仮）について ７）その他
3.決定事項	６）筑波大学から：インターンシッププログラムについて内容の説明があった。 ２月20日、もしくは21日を予定している。 ダイバーシティ推進に力を入れている研究所、企業として参加をお願いしたい。 詳細については後日メールでのご案内をする。「博士」以外の学生も参加する。
4.今後の進め方	次回第４回は、２月に開催予定

第４回会議実施報告

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第４回つくば女性研究者支援協議会
実施日	2018年２月21日（水）9:30～10:30
場所	筑波大学　スチューデントプラザ　２階
出席者	古家晴美（筑波学院大学）、山岸裕美（アサヒビール）、安部　久（森林総合研）、竹内孝夫（物材研）、井手ゆかり（産総研）、武仲能子（産総研）、塚崎あゆみ（産総研）、沢田十和子（つくば市）、沼口知恵子（茨城県立医療大学）、桜井直美（茨城県立医療大学）、梅田恵（IBM）、五十嵐浩也、山口　香、河野禎之、秋保さやか、事務局３名
議事	下記、１審議事項、２報告事項
1.報告事項	（１）リケジョ冬季サイエンスカフェと成果報告について （２）TIDEシンポジウム（12/6開催）について （３）ダイバーシティ・リーダー育成講座Ⅲ（1/29開催）について （４）各機関のこれまでの取組報告と周知 （５）その他
2.審議事項	（１）平成29年度第３回つくば女性研究者支援協議会議事要旨（案）の確認 （２）平成30年度リケジョ合宿について （３）その他
3.決定事項	平成29年度第３回つくば女性研究者支援協議会議事要旨が承認された。
4.今後の進め方	つくば女性研究者支援協議会全体の方向について 次年度以降の活動が実りあるものになるよう、次回の会議では協議会の具体的な活動内容についての議論を行う。

②「つくば女性研究者支援ネットワーク憲章」の制定

つくば女性研究者支援ネットワーク憲章

2015年11月10日

つくば女性研究者支援協議会（以下「本協議会」という。）は、筑波研究学園都市及びその近隣等にある国及び独立行政法人の研究機関、大学、大学共同利用機関法人、地方自治体、公益法人、民間の研究機関や企業等又はそれらの内部組織（以下「機関等」という。）の女性研究者が、出産・子育て等のライフイベントと研究の両立を図りながら、その能力を最大限発揮できるよう、女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援環境のさらなる向上にむけた普及啓発・推進活動の連携を図ることを目的としている。

この憲章は、男女共同参画社会基本法（平成11年法律第78号）に基づく男女共同参画及びダイバーシティ推進の精神に基づき、本協議会が女性研究者の支援に関するネットワーク（つくば女性研究者支援ネットワーク）を構築し、関係する全ての女性研究者支援の向上・充実を図るための基本的な理念を共有するためのものである。

1. 女性研究者が性別を理由に教育・研究及び就業上の制限を受けることがないよう、これらの機会の確保に向けた支援のための連携を図る。

2. 女性研究者が教育・研究及び就業と家庭生活を両立できるよう、積極的な支援のための連携を図る。

3. 女性研究者及び女性研究リーダー増加のための施策や、女性研究者のスキルアップのための施策の推進に向けた連携を図る。

4. 女性研究者支援を通じ、性別、国籍、年齢および障がいの有無にかかわらず、人間の可能性と多様性を尊重したダイバーシティ推進に向けた連携を図る。

③「つくば女性研究者支援協議会」会員

つくば女性研究者支援協議会

所属機関名	氏名
筑波技術大学	安達　理佳
筑波技術大学	山末　進一
筑波学院大学	古家　晴美
茨城県立医療大学	原田　朋美
茨城県立医療大学	沼口　知恵子
小野薬品工業株式会社	岸川　勝哉
小野薬品工業株式会社	福地　由希菜
エーザイ株式会社	戒能　真人
大鵬薬品工業株式会社	桐井　利夫
大鵬薬品工業株式会社	石田　史明
大鵬薬品工業株式会社	清水　晶子
アステラス製薬株式会社	鈴木　恵子
株式会社生体分子計測研究所	岡田　孝夫
株式会社生体分子計測研究所	杉山　幸宏
株式会社生体分子計測研究所	高野　光彦
日本IBM株式会社	梅田　　恵
アサヒビール株式会社	山岸　裕美
インテル株式会社	白川　　篤
つくば市	沢田　十和子
つくば市	久保田　博之
茨城県	廣瀬　史明
茨城県	石川　友子
筑波大学	稲垣　敏之
筑波大学	五十嵐　浩也
筑波大学	山口　　香
筑波大学	河野　禎之
筑波大学	秋保　さやか

【アドバイザー】

所属機関名	部署名
森林総合研究所	安部　　久
物質・材料研究機構	竹内　孝夫
物質・材料研究機構	吉野　雄介
物質・材料研究機構	岩澤　明美
産業技術総合研究所	井手　ゆかり
産業技術総合研究所	武仲　能子
農業・食品産業技術総合研究機構	兼松　聡子

（敬称略）

④「つくば女性研究者支援協議会」パンフレット

つくば女性研究者支援協議会をご活用ください。

- 女性にもっともっと活躍して欲しい
- 女性研究者やリーダーを育てたい
- 女性研究者のワーク・ライフ・バランスをさらに支援したい
- 女性研究者のモチベーションを高めるノウハウが知りたい

くるみんマーク　トモニンマーク

For Supporting Women Researchers

みなさまのご入会をお待ちしております。

入会は企業、団体、機関全体として入会いただくことも可能ですし、一部署、機関の一部（企業の中の研究所のみ等）でも可能です。

［入会のお申し込み先］
つくば女性研究者支援協議会
つくば市天王台1-1-1
筑波大学ダイバーシティ推進室内
Tel＆Fax：029-853-8504/8505

会　員

astellas　IND
RIBM ライフイベント支援企業 株式会社生体分子計測研究所　★輝け！女性研究者★ ～子育てしやすい感謝づくり～
エーザイ株式会社
茨城県立医療大学 保健・医療に女性パワーを！ 地域の保健医療を担い活躍する人材育成
Women's Empowerment 筑波学院大学
筑波技術大学
IBM
小野薬品工業株式会社
DIVERSITY MANAGEMENT SELECTION 100 アサヒビール株式会社
茨城県　TSUKUBA
筑波大学 University of Tsukuba　持続的・包括的な女性研究者支援 ～人間の可能性と多様性の尊重～

連携機関

DSOでは、全国の研究教育機関が連携してダイバーシティ・男女共同参画を推進しています。

平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」

世界で活躍する女性研究者を つくば地域から

For Supporting Women Researchers

つくば女性研究者支援協議会

活動内容

本協議会は、上記の目的を達成するために、下記に掲げる女性研究者の研究活動を支援するための事業を行っています。

1. 参加機関の連絡提携、情報交換
2. 女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援活動
3. 女性研究者のキャリア形成支援活動
4. 各機関及び社会に向けた男女共同参画とダイバーシティ推進啓発活動
5. その他

主な活動実績

・意識啓発シンポジウムの開催
　平成26年2月19日、10月3日筑波大学において開催
・セミナー/勉強会の開催
　女性のためのリーダー研修、外部資金獲得セミナー、アサーティブコミュニケーションセミナー等の開催
・ロールモデル集の作成
・協議会の開催と情報交換
・ワークライフバランスガイドの作成

参加機関（平成27年3月現在）

筑波大学、アステラス製薬、日本IBM、エーザイ、筑波技術大学、筑波学院大学、茨城県立医療大学、生体分子計測研究所、小野薬品工業、アサヒビール　ほか

連携機関

ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）

会　則

（名称）
第１条　本会は、つくば女性研究者支援協議会（以下「本協議会」という。）と称する。

（目的）
第２条　本協議会は、筑波研究学園都市及びその近隣等にある国及び独立行政法人の研究機関、大学、大学共同利用機関法人、地方自治体、公益法人、民間の研究機関や企業等又はそれらの内部組織（以下「機関等」という。）の女性研究者が、出産・子育て等のライフイベントと研究の両立を図りながら、その能力を最大限発揮できるよう、女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援環境のさらなる向上にむけた普及啓発・推進活動の連携を図ることを目的とする。

（用語の定義）
第３条　本会則において、「女性研究者」とは、学問分野を問わず、事物・機能・現象等について新しい知識を得るために、又は既存の知識の新しい活用の道を開くために、特定の研究テーマをもって創造的な努力及び探求を行う女性を指すものとする。

（事業）
第４条　本協議会は、第2条の目的を達成するために、次の各号に掲げる女性研究者研究活動を支援するための事業（以下「本事業」という。）を行う。
(1)　機関等の連絡提携、情報交換
(2)　女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援活動
(3)　女性研究者のキャリア形成支援活動
(4)　機関等及び社会に向けた男女共同参画とダイバーシティ推進啓発活動
(5)　その他本協議会の目的達成に必要な事業

（構成員）
第５条　本協議会の構成員は、第2条の目的に賛同して入会手続きを行い、入会の承認を受けた機関等（以下「会員」という。）とする。

（会員の入退会）
第６条　本協議会の入退会については、次の各号のとおりとする。
(1)　本協議会に入会を希望する機関等は、所定の様式により会長宛に届出し、承認を得るものとする。
(2)　本協議会を退会する際には、理由を付した退会届を会長宛に提出し、当該退会届を受理した上で、会長がこれを承認するものとする。

（会員の権利・義務）
第７条　会員は次の各号の権利及び義務を有する。
(1)　会員は、本協議会が実施する各種活動に構成員として参加することができる。
(2)　会員は、会議への参加及び議決権を行使することができる。
(3)　会員は、それぞれ一個の議決権を有し、その議決権を行使し、本協議会の事業について説明を求めることができる。
(4)　会員は、本会則及び会議の議決を遵守する。
(5)　会員は、本協議会の目的を達成するために、本協議会の活動に積極的に参加する。
(6)　会員は、本協議会の入会時に届出た内容に変更が生じたときは、本協議会事務局へ通知しなければならない。

（会長）
第８条　本協議会の会長は、原則として筑波大学ダイバーシティ担当副学長がその任に就く。

（事務局）
第９条　本協議会の事務局は、筑波大学ダイバーシティ推進室内に置く。
2　事務局は、本協議会の運営実務を行う。

（会議）
第10条　本協議会の会議は会長が招集し、毎年定期的に開催する。
2　会議では、事業報告、事業計画、本会則の改正、本協議会の事業に関する提案・情報提供など、協議会の事業内容について審議し決定する。
3　会議における議決は、本会則に別段の定めのある場合のほか、会議に出席した会員の議決権の過半数で議決する。

（その他）
第11条　本会則に定めるもののほか、協議会の運営及び運営経費について必要な事項は別に定める。

附則
本会則は、平成26年12月12日から施行する。

3. 意識啓発事業

①学長・副学長と女性研究者との懇談会

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	学長・副学長と女性研究者との懇談会
実施日	2017年10月30日（月）
場所	筑波大学
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・(その他（　　）)
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	一般　(研究者)　学生（大学院生）　その他（　　）
来場者	人数：30名（内訳　執行部11名　女性研究者９名　事務局10名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	女性研究者の研究活動のさらなる推進をめざし、本学の女性研究者の研究活動やワークライフバランス、キャリア等に関する現状と課題について、意見交換を行いました。 計10の系（研究機関）から各１名の女性研究者を募り、予めアンケートに答えていただいた内容に沿って、意見交換を行いました。 支援制度の情報が利用者に上手く伝わっていない現状が確認され、規制が多く使い辛い支援については、執行部からすぐに聞き取り調査を行うように指示があるなど、迅速な対応が見られました。 各系の抱える具体的な問題も提示され、執行部と研究者の間で貴重な情報共有の場となりました。 研究者の授業や研究の補助や育児支援などに関し、大学の制度そのものからの変更を提案するなど、女性研究者の支援を考えることで、女性に限らずすべての人にとってより働きやすい環境を考え、提案する場ともなりました。 今後の活動に反映が期待されます。

②ダイバーシティリーダー育成講座

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティリーダー育成講座Ⅰ 「女性のネットワーキング・組織化と活用～COSMOSの歴史から学ぶ～」
実施日	2017年７月20日（木）14:00～17:00
場所	日本IBM　箱崎本社
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般)　(研究者)　学生（大学院生）　(その他（つくば女性研究者支援協議会）)
来場者	人数：48名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	ダイバーシティリーダー育成講座は、全４回の構成で企画しており、初回となる今回は、第１部に「日本IBM COSMOSの歴史から学ぶ」と題し、女性研究職・技術職の活躍を支援、育成する全社横断的なコミュニティーグループ「COSMOS」のこれまでの活動から、女性ネットワークの持つ役割と活用、維持、キャリアアップとの関係について、レクチャーを行いました。 第２部では、女性ネットワークの意義や、女性コミュニティのメリット、活性化や維持、社会貢献などについてワールドカフェ方式でグループワークを行いました。 それぞれ異なる分野で活躍する40名が５つのグループに分かれ、意見交換を行うことで、別の視点からの活発な意見が飛び交い、刺激的な議論からは、新たな発見や発想が生まれたとの反響が多く寄せられました。 本日の結果を受け、第２回11月16日（木）、特別編12月６日（水）、第３回１月19日（金）には、問題解決から上層部への政策提言へとステップを進めて行く予定です。

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティリーダー育成講座Ⅱ 「女性研究者・技術者がリーダーシップを発揮する活動テーマとチームを組織横断で生み出そう！」
実施日	2017年11月16日（木）14:00～17:00
場所	日本IBM　箱崎本社
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・(ワークショップ)・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般) (研究者)　学生（大学院生）　(その他（つくば女性研究者支援協議会）)
来場者	人数：42名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP) (メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	第２回になる今回は、ファシリテーターに株式会社フューチャーセッションズの芝池玲奈さんをお招きし、ワークショップを行いました。 個々の研究・仕事を通して、自組織や社会にどのような影響を与えたいかを未来思考で考えていきました。 ワークショップの前半は、ワールドカフェ方式で、それぞれの思いや考えをブレストし、全員で共有しました。後半はブレストしたものをもとに、自分が共感し一緒に活動して行きたいと思う仲間が集まり、６チームが形成されました。各チームが取り組みたいテーマを掲げ、活動を具体化する作業を行っていき、最後にチームの活動テーマについてプレゼンテーションを行いました。わくわくする未来から描いたこと（未来思考）により、活動テーマも現実的でありながらも希望、期待感あふれるものとなりました。今後は、12月６日（水）には、これらを更に具体化していきます。

平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

ダイバーシティリーダー育成講座Ⅱ

産官学の組織横断的なネットワーキングと組織・社会の未来をつくる問題解決型ワークショップを開催します！

日時 平成29年11月16日(木)14:00～17:00

会場 日本IBM箱崎本社
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町１９−２１
東京メトロ半蔵門線 水天宮前2番出口 徒歩3分
東京メトロ東西線／日比谷線 茅場町駅4番出口 徒歩7分

対象者 筑波大、産総研、日本IBM及び、
つくば女性研究者支援協議会関連機関の女性研究者、技術者、人事担当者

申込み 参加申込はこちらのQRコードから
参加費無料　応募者多数の場合、抽選とさせていただきます。

連絡先 筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ部門　TEL:029-853-6418

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティリーダー育成講座　特別企画 「Design Thinking」
実施日	2017年12月６日（水）14:30～17:00
場所	筑波大学東京キャンパス　文京校舎　134教室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・(ワークショップ)・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般)(研究者・技術者)(学生（大学院生）)(その他（つくば女性研究者支援協議会）)
来場者	人数：40名（内訳　研究者・大学院生・教職員・一般）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	今回は、日本IBMの女性研究者・技術者グループであるCOSMOSの皆さんにファシリテーターをしていただき、Design Thinking ワークショップを行いました。 第２回で、筑波大学・日本IBM・産総研の女性研究者・技術者が組織の壁を越えて、実現したい未来をイメージしてできあがった６チームに分かれ、より具体的に、それらを実現していくために障害となっている課題を分析し、解決策とアクションプランを作成しました。 大学・研究所・企業の垣根を越えたチームが形成されたことで、より思考、視野が広がり、さまざまな課題解決策が発案されました。 １月29日（月）に行われるリーダー育成講座Ⅲで、学長を始め、各機関の上層部に向けプレゼンと提言を行う予定です。

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティリーダー育成講座Ⅲ 「成果発表会」
実施日	2018年１月29日（月）14:30～17:00
場所	筑波大学　本部棟５F　大会議室
形式	(一般公開)・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（　　）
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般)　(研究者)　学生（大学院生）　その他（　　）
来場者	人数：60名（内女性：43名）、（内訳　執行部10名　研究者40名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	講座最終回となる今回は、これまでの参加者に加えて各機関の執行部も参加し、取り組みの成果を発表、執行部への提言を行いました。まず、これまでの講座の振り返りを行い、６チームのうち３チームがそれぞれに資料を加え、これまで明らかになった課題とその具体的な解決策について、訴えかけました。 発表を受けて五十嵐DACセンター長から、６チームのテーマの共通点として「女性リーダー育成」「ネットワーク形成」「働き方改革」の３つの課題が挙げられる事、それに対して活動を進めなければならないアクションを、「ダイバーシティ推進のための提言」として発表しました。 これに対して各機関の執行部から意見や提案があり、課題と解決策を参加者と共有する場となりました。 外部からのオブザーバーや記者も参加し、複数の視点からのコメントが寄せられ、研究者自身、また各組織の執行部にとっても気づきの多い報告会となりました。 来年度は、より具体的な活動に向けて引き続き取り組んでいきます。

＜ダイバーシティリーダー育成の取り組みと成果＞

筑波大学では、女性リーダー育成やダイバーシティ推進に関する様々な企画や制度づくり等を行ってきた。しかし、管理職にはなりたくない女性が多く、年々女性管理者層の数は減少傾向にある。

そこで、全４回連続のダイバーシティリーダー育成講座を実施し、女性研究者自身がどのように働き、研究したいのかを考え、それを実現するため、「自分ごと」として関われるコミュニティづくりをすすめると同時に、そこでの議論から抽出された課題を学長・副学長に向けた提言を行った。

管理職につきたい女性が少ないと思われていたが、リーダー育成講座への参加者からは、業務量の改善、評価制度の環境が整えば、リーダーにも挑戦してみたいという声があがった。また、IBMの女性技術者コミュニティCOSMOSとの協働から、多様な人材の能力にあったポジションに配置し、挑戦を続けられる環境づくり（ダイバーシティ・マネジメント）が既に実施されていること、そしてコミュニティへの参加や周囲の者への経験・能力の還元が人事評価の項目に組み込まれていることを学んだ。

そこで、本学からIBMに人材を派遣し、ダイバーシティ・マネジメントの仕組みを学び、そのチャレンジを学内で評価する仕組みや環境をつくれば、管理職を希望する女性も増えるのではないか、と考え、DACセンターから次のような提言を学長・副学長に向けて行った。

①ダイバーシティ推進のための提言：評価制度

・人事評価に「コミュニティ活動」や「ダイバーシティ推進」に関する取り組みについて記載する項目を設ける：業績（論文執筆数）以外の評価項目を導入する。
・ダイバーシティ推進に関する取り組みを表彰するファカルティ賞の新設：素晴らしい活動を行った研究者に対して、学長から表彰する。

②ダイバーシティ推進のための提言：人的交流の促進

・組織を超えた定期的な交流機会の創出：seeds交換会など、各組織や個人が持つノウハウ・知見を持ち寄り、交流する場を、ダイバーシティ部門が主催して定期開催。IBMへの人材派遣に向け、まずは３組織の人的交流を促進する。

③ダイバーシティ推進のための提言：働き方改革の推進

・IT活用による業務生産性向上：情報処理・共有、会議進行等において、IT活用による業務生産性向上を目指す。各系にニーズ調査を行い、上層部とシステム導入を協議する。また、本取組を担当する部署も同時に検討する。

上記の提言に対し、学長・副学長から前向きなコメントが寄せられ、次年度以降も、女性研究者・技術者のコミュニティ活動展開を支援すると同時に、執行部とさらに連携を深めながら、女性研究者・技術者がそれぞれの能力を発揮し、活躍する環境づくりを進めていくことが確認された。

③アンコンシャス・バイアスに関する講演会

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	アンコンシャス・バイアスのインパクトとマネジメント DVD上映会＆ワークショップ
実施日	2017年９月23日（土）10:15～15:00
場所	筑波大学東京キャンパス　119講義室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・(講演会)・(ワークショップ)・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　(ビデオ上映)　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般)　(研究者)　(学生（大学院生）)　その他（　　）
来場者	人数：42名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信)
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	本講演会は、①Susan Fiske教授による「アンコンシャス・バイアス」に関するDVD上映会、②三木ひろみ教授による解説、③ワークショップという構成で行われました。 見えないバイアスとそれによる行動、特に「慈悲的性差別」と呼ばれ、良かれと思って行われてきた対応が、女性の成長を奪っている現実や、各自が無意識的に持ってしまっている固定観念について、実験にもとづくデータの提示や簡単なテストを通じて認識を深めていきました。 まずは日常に潜むアンコンシャス・バイアスに気がつき、それに伴う影響について互いに話し、考えていただきました。次に、それとどう向き合い乗り越えていくのか、といったテーマで具体的な事例にもとづくワークショップを行いました。ワークショップ終了後も主催者と参加者の間で活発な意見交換が続くなど、興味関心の高さが伺えました。 参加者がそれぞれの生活や職場環境における無意識的偏見に気づき、より良い環境作りのための活動につながる機会となったようです。 ５月～９月の間、同様の上映＆勉強会を都内各地で４回開催しました。いずれの会においても、参加者同士の活発な意見交換が行われるなど反響も大きく、また外部からも多くの問い合わせがありました。

④ダイバーシティセミナー

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティセミナーⅠ 研究力向上セミナー 「サイエンス　ビジュアリゼーション」
実施日	2017年７月21日（金）14:00～15:30
場所	筑波大学　２Ｂ棟　412教室
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（懇談会） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般)　(研究者)　(学生（大学院生）)　(教職員)
来場者	人数：76名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	講師に有賀雅奈さん（東北大学研究推進・支援機構URAセンター 特任助教）をお招きし、研究を進めていく上で欠かせない「伝える」ためのビジュアリゼーションについてお話をいただきました。 頭の中にあるアイディアをどう絵図に落とし込むことができるか、また、その絵図をより分かりやすい資料にし、頭の中のイメージをどう伝えることができるかを、実践を交えながら行いました。 すぐに使える図解の材料を多数紹介いただいた他、色使いの失敗事例をどのように改善していくかなど、具体的に示しながらのアドバイスがあり、理解し易い内容でした。 アンケートからは、講義の内容についての満足度が94.3%、今後役に立つかどうかについては97.1%が高評価をつけており、全体に満足度の高いセミナーとなりました。参加者の方からは、「解りやすく伝えることを具体的にイメージできた」、「図解の重要性を実感できた」などの感想をいただきました。

平成 28 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
平成 29 年度研究力向上セミナー

研究力向上セミナー

サイエンス ビジュアリゼーション
Science Visualization

研究を進めていく上で欠かせない「伝える」ためのビジュアリゼーションについてお話を聞いてみませんか？

「アイデアがまとまらない！」　「頭の中でもやもやしてるアイデアをどう形にしたら良いの！？」これら日々の問題をどうすれば、ブラッシュアップできわかりやすい絵図に落とし込むことができるかというプロセスについて講演します。

このプロセスを理解した後、その絵図をよりわかりやすい資料にするための「伝え方」についてお伝えします。今抱えているお悩みの解消に、これから先きっと役立つヒントを見つけに、是非ご参加ください。

日　時　平成２９年7月２１日（金）１４：００－１５：３０

場　所　筑波大学 ２B棟 ４１２教室

対　象　筑波大学の教職員、大学院生および学群生、
つくば近隣の他機関の研究者

講　師　東北大学研究推進・支援機構 URA センター
特任助教　有賀　雅奈

申込方法　希望者は下記の申込みフォーム、またはダイバーシティ部門のホームページにある申込みフォームからお申し込みください。

申込 URL　https://goo.gl/forms/lPwvUeYV92e73QV82
※モバイルの場合、右の QR コードからでもアクセス可

締　切　平成２９年７月１８日（火）
（当日の参加も歓迎しますが、資料準備の都合上事前登録をお願いいたします。）

問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門
TEL：029-853-8504／FAX: 029-853-8505　　共催：URA 研究戦略推進室
Mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL：http://diversity.tsukuba.ac.jp

筑波大学　ダイバーシティ　検索

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティセミナーⅡ 「多様な人材を活かす組織マネジメント～イクボスが果たす役割とは～」
実施日	2017年９月４日（月）15:00～17:00
場所	筑波大学　総合研究棟　A棟107（プレゼンテーションルーム）
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	(一般)(研究者)(学生（大学院生）)　その他（　　）
来場者	人数：36名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	企業や自治体等のダイバーシティ推進事業で活躍する宮原淳二氏（株式会社東レ経営研究所）を講師としてお招きし、特に管理職や男性の関与に焦点を当てた取組について、たくさんのスライドやDVD上映などを交えてご講演いただきました。 部下の能力を活かし、育てるための具体的でわかりやすいお話や映像に加え、参加者同士にディスカッションの場を設けるなど、理解を深める講義となりました。 学内外から集った36名の参加者からは、「職場環境の維持、向上を図ることの重要性を再確認した」、「女性の活躍を推進するためには、男性管理職の意識改革が不可欠と認識した」、「広範囲に渡る内容で具体的でわかりやすかった。是非わが社で講演をお願いしたい」などの声が寄せられました。

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターFD研修会　　共催：つくば女性研究者支援協議会
筑波大学「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」「イクボス宣言」セミナー

多様な人材を活かした組織マネジメント

～イクボスが果たす役割とは～

日時：平成 29年 9月 4日（月）15時～17時
会場：総合研究棟 A棟 107（プレゼンテーションルーム）

講師　宮原淳二　（株）東レ経営研究所 ダイバーシティ＆ワーク・ライフ・バランス推進部長

大手化粧品会社の資生堂に21年間勤務し多岐に亘る業務を経験。人事労務全般に携わる期間が長く、人事制度企画から採用・研修まで幅広く担当。男女共同参画・WLBの分野では社内で中心的な役割を担い、社員の意識調査や他社事例などを研究し実践。2005年度には男性として育児休業を取得。また労組専従も経験。管理職として多くの短時間勤務者を部下に持ち、ネジメント経験も豊富。2011年1月より東レ経営研究所に転職し、現在に至る。
社外活動として、内閣官房すべての女性が輝く社会づくり推進本部「暮らしの質」向上検討会・座長。文部科学省中央教育審議会・専門委員、厚生労働省委託事業「短時間正社員制度研究会」委員、経団連「少子化対策委会」委員、東京商工会議所「多様な人材活躍」委員、鳥取県県政アドバイザリースタッフ。中央職業能率開発協会委員、国立市男女平等推進委員（有識者）等。有名大学での「キャリア講座」を数多く務める。２級キャリア・コンサルティング技能士（国家資格）保持。

- 労働力人口が漸減する中、女性や高齢者等、多様な人材に労働参画してもらうことが急務です。以前に比べ、夫婦共働きが増え、女性が働きやすい環境整備や男性の育児参画の視点を学びます
- 時間制約のない社員を中心とした組織運営から、制約を抱える社員をどう活かしていくか、イクボスにスポットを当てます。また夫の立場から妻の就業支援を考えます
- 最後に「あ・うんの呼吸」で業務を遂行してきた日本の組織風土の問題点について学びます

★ 会場までのアクセス例（詳細は大学HPにてご確認ください）
つくば駅（つくばセンター）より、バス乗り場６番から「筑波大学中央行き」か「筑波大学循環バス（左回り・右回り）」に乗り「筑波大学中央」で下車。バス停から案内板に従って西へ進んでください。

申　込： 下記ダイバーシティ部門HPにある申込フォーム、QRコード（右記）にて
締　切： 8月31日（木）当日参加歓迎（資料準備の都合により事前予約をお願いしています）
対象者： 筑波大学教職員、学生、つくば女性研究者支援協議会参加・連携機関、一般の方も歓迎します
※筑波大学輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会やイクボス宣言登録者の方は是非ご参加ください

問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティセミナーⅢ 「SOGI/LGBTとダイバーシティ」
実施日	2017年９月12日（火）14:00～15:30
場所	筑波大学　３Ｂ棟　２階213（プレゼンテーションルーム）
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般)(研究者)(学生（大学院生）)　その他（　　）
来場者	人数：60名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	松中 権氏（認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ代表）を講師にお招きし、SOGI/LGBTの当事者の視点から、これまでの御自身の経験や心の状態などを詳しくお話しいただきました。 御本人も初めてとおっしゃるように、当事者の方がプライベートな部分を公表し、具体的な心理状況を丁寧に解説される機会は珍しく、より身近な問題として参加者の関心を集めました。「友人として出来ることは何か」という質問にもわかりやすくご説明いただきました。 アンケートには、「ご本人からカミングアウトのプロセスや当時の葛藤をリアルにお話いただくことで、SOGI/LGBTについての理解を深めることができた。」「LGBTの人に対する思いが変わった。」「LGBTの方々は、私たちと何も変わらないことを知った。」「知識だけではきっと理解しきれないことも、当事者の方のエピソードや面白い話も交えて講演下さったので、身近に感じ、理解できるものだった。このような講演の機会がますます増えればいいと思う。」「セクシャルマイノリティの人をもっと理解したい、友達作りたい。」など、これまでの見方、考え方、感じ方が変わり、これからの具体的な行動について知る機会となりました。また「今後も多様性やインクルーシブに関するオープン講座を東京キャンパスでもやってほしい。」「大学院の共通科目だけでなく、学類生のころから、こういった機会があったらいいと思う。」といった感想も多くいただき、関心の高さが伺えました。

筑波大学第7回全学FD研修会　主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ

2017年 9月 12日（火）14時00分～15時30分
筑波大学 3B棟 2階 213（プレゼンテーションルーム）※参加費無料

SOGI/LGBT とダイバーシティ

SOGIとは Sexual Orientation（性的指向）とGender Identity（性自認）の頭文字をとり、性的指向・性自認の多様性を示すために使用され始めている呼称です

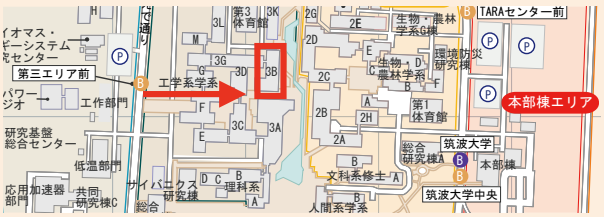
松中 権 氏 認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ 代表

1976年石川県金沢市生まれ。金沢大学附属高等学校、一橋大学法学部卒業後、株式会社電通に就職。海外研修制度にてNYのNPO関連事業に携わった経験をもとに、2010年、グッド・エイジング・エールズを仲間たちと設立。幅広い活動を通して、LGBTが素敵に歳を重ねていける社会づくりを目指す。2017年6月末に電通を退社し、二足のわらじ生活からNPO専任代表に。企業、自治体、教育機関でのLGBTに関する講演実績も多数。第7回若者力大賞ユースリーダー賞受賞。北國新聞アクタスにて連載コラム「となりのゲイリーマン」（2016年1月号～12月号）、著書に「LGBT初級講座　まずは、ゲイの友だちをつくりなさい」（2015年　講談社＋α新書）がある。

「カミングアウトは自分の心を開くきっかけ。心を開くと新しい可能性が飛び込んでくる。人生100年時代に、自分にしかない、自分らしい働きかた、生きかたを、一人一人が見つけられる社会になったらいいなと思っています。みんなで、いっしょに、お話ししましょう。」

申　込：　下記のダイバーシティ部門HPにある申し込みフォーム、QRコードにて
締　切：　9月 6日（水）※要事前予約
対象者：　筑波大学教職員及び学生、SOGI/LGBTに関心のある一般の方
✴ 大学院生は大学院共通科目として受講することも可能です。詳細は大学院共通科目HPを確認してください。

会場までのアクセス例
（詳細は大学HPにてご確認ください）
つくば駅（つくばセンター）より、バス乗り場６番から「筑波大学中央行き」か「筑波大学循環バス（左回り・右回り）」に乗り「第三エリア前」で下車。バス停から へ東へ進んでください。



問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

申し込みフォームへ！

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティセミナーⅣ 「輝く女性の活躍を加速するリーダーの会」「イクボス宣言」セミナー 「自分ごとで考える　ダイバーシティ＆インクルージョン　～自分らしく、一歩前に～」
実施日	2017年11月１日（水）15:00～17:00
場所	筑波大学　総合研究棟　A棟107（プレゼンテーションルーム）
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（懇談会） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般) (研究者) (学生（大学院生）) (教職員)
来場者	人数：25名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース (HP) メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○実施取り纏め者 筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	講師に村松邦子さん（NPO法人GEWEL代表理事、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）理事、日本サッカー協会 社会貢献委員会委員、渋谷区スポーツ推進計画策定委員会委員、日本体育大学・白百合女子大学非常勤講師）をお招きし、「自分ごとで考えるダイバーシティ＆インクルージョン～自分らしく、一歩前に～」についてお話をいただきました。 女性研究者のみならず、男女問わず次世代リーダーの後押しには何が必要であるのか、セミナー参加者自らが、その意義や職場での具体的な行動について学び、考え直す場となりました。参加者は本学の副学長、執行役員、教職員等に加え、県庁や一般企業からの参加もあり、参加者個々人のマイノリティ経験に関するグループディスカッションに参加することで、より「自分ごと」としてダイバーシティ推進を考える機会になりました。 参加者からは、「組織の視点ではなく、個人の視点で考えることができ、新たな気づきがありました」、「組織作り、チーム作りに活かしたい」、「違いから生まれる『健全な対立』が大切で、その先にクリエイティビティが発揮されるという話がわかりやすく、ダイバーシティが生み出すものを明確に示してくださったように思った」「ダイバーシティ＝女性活躍と一般的に言われますが、『個』が自分らしくいられる居場所作りが重要だと改めて感じたので、日々の生活と業務に活かしていきたい」といった感想が寄せられています。

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターFD研修会　　共催：つくば女性研究者支援協議会
筑波大学「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」「イクボス宣言」セミナー

自分ごとで考える
ダイバーシティ＆インクルージョン
～自分らしく、一歩前に～

日時：平成 29年 11月 1日（水）15時～17時
会場：総合研究棟 A棟 107（プレゼンテーションルーム）

講師 **村松邦子**

NPO法人GEWEL（ジュエル）代表理事
(株)ウェルネス・システム研究所代表取締役
(公社)日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)理事

グローバル企業の広報部長、ダイバーシティ推進責任者、企業倫理室長を経て2010年に独立起業。持続的成長可能な社会の土台として、ダイバーシティ、CSR推進、ガバナンス向上の支援に取り組んでいる。2014年、Jリーグ理事に就任。2016年、ダイバーシティ＆インクルージョンを推進するNPO法人GEWEL（ジュエル）代表理事に就任。「自分らしさと違いを活かしあう社会」の実現に向けて活動中。
筑波大学大学院修士課程修了（保健学修士）。

ダイバーシティ推進は「女性活躍」だけに留まりません。本セミナーは、男女問わず、今後の活躍が望まれる次世代のリーダーの後押しには何が必要なのか、「自分ごと」として考えるきっかけとすることを目的としています。

★ 会場までのアクセス例（詳細は大学HPにてご確認ください）
つくば駅（つくばセンター）より、バス乗り場６番から「筑波大学中央行き」か「筑波大学循環バス（左回り・右回り）」に乗り「筑波大学中央」で下車。バス停から案内板に従って西へ進んでください。

申　込： 下記ダイバーシティ部門HPにある申込フォーム、QRコード（右記）にて
締　切： 10月30日（月）当日参加歓迎（資料準備の都合により事前予約をお願いしています）
対象者： 筑波大学教職員、学生、つくば女性研究者支援協議会参加・連携機関、一般の方も歓迎します
※筑波大学輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会やイクボス宣言登録者の方は是非ご参加ください

問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティセミナーⅤ 「オランダ流ワーク・ライフ・バランスに見る＜人生＞と＜仕事＞の関係」 / 第15回筑波大学　FD研修会
実施日	2018年２月23日（金）15:00～17:00
場所	筑波大学　大学会館　国際会議室
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般) (研究者) (学生（大学院生）)　その他（　　）
来場者	人数：60名（内訳　大学院生20名　教職員27名　その他13名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース (HP) (メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	オランダの人々の働き方について、岡山大学副学長の中谷文美先生にご講演いただきました。 働く時間や生活の時間をパーツとして組み合わせながら、時期によって自分に合ったバランスを追求する生き方、そこに至るまでの歴史や女性の就業に対する意識など、その背景と今後の傾向についての解説が行われました。 質疑応答では、現在の雇用制度を実現したオランダの議会の仕組みについてや、自由な働き方が女性だけに限らず様々なマイノリティにもたらす影響についてなど、質問が交わされました。 大学院生からキャリアコンサルタント、子どもを連れての参加者まで、様々な立場の方が参加し、それぞれのワークライフバランスを考える機会となりました。 参加者からは、「決められたバランスでなく、個人が時期によって柔軟に決定を行うことの大切さを学びました」、「自分のこれまでの人生の振り返り、またこれからの人生を考えるうえで参考になった」などの声が寄せられました。

第 15回筑波大学 FD研修会
平成29年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2/23

オランダ流ワーク・ライフ・バランスに見る<人生>と<仕事>の関係

筑波大学大学会館 国際会議室 2018年2月23日（金）15:00-17:00

対象者：筑波大学教職員及び学生、働き方やダイバーシティに関心のある一般の方
＊大学院生は、大学院共通科目として受講することも可能です。詳細は、大学院共通科目HPを確認してください。

男女問わず、結婚・出産・子どもの就学といった人生の節目で、仕事のかたちをどう変えるか？時間をどう振り分けるのか？
オランダにおける長期調査のデータをもとに、「パートタイム大国」オランダに生きる人々のライフスタイルについて、中谷先生にお話いただきます。オランダの例から、日本に生きる私達の働き方や生き方を見つめ直して、「人生のラッシュアワー」を生き抜く方法について一緒に考えましょう！

講師：中谷 文美 氏

1963年、山口県生まれ。オックスフォード大学大学院博士課程修了、人類学博士。
岡山大学副学長、グローバル・ディスカバリー・プログラムディレクター、 大学院社会文化科学研究科教授、日本学術会議連携会員。岡山大学男女共同参画室室員。
専門は文化人類学、ジェンダー論。
主な著書・論文に『オランダ流ワーク・ライフ・バランス――「人生のラッシュアワー」を生き抜く人々の技法』（世界思想社、2015年）、『「女の仕事」のエスノグラフィ――パリ島の布・儀礼・ジェンダー』（世界思想社、2003年）、『仕事の人類学―労働中心主義の向こうへ』（共編著、世界思想社、2016年）など。

問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティー・アクセシビリティ・キャリアセンターダイバーシティー部門
TEL:029-853-6418 Email:diversity@un.tsukuba.ac.jp

申込みはこちらから！

4. 環境整備

①育児等との両立のための研究・業務補助者雇用経費助成制度

筑波大学では平成23年度より、出産・育児等で研究が中断しやすい女性研究者等の研究継続支援事業として、「育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成制度」を実施している。また、平成22年度より、管理運営業務等に携わる男女格差の是正のため、「管理企画業務等の大学運営に参画する女性研究者に対する補助者派遣事業」を実施し、24年度からは、対象者に外国人等を加え、「管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助者雇用経費助成制度」を実施している。

平成29年は研究補助者雇用経費助成として36名の研究者への助成を実施し、管理企画業務等の大学運営に参画する女性研究者に対する業務補助者雇用経費助成として７名の研究者への助成を実施した。本助成を受けた研究者の所属・職階級は下記の通りである。

育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成制度

所属	職名
DACセンター	准教授
DACセンター アクセシビリティ部門	准教授
医学医療系	助教
医学医療系	講師
医学医療系	助教
医学医療系	講師
医学医療系	准教授
医学医療系	助教
医学医療系	助教
医学医療系	准教授
医学医療系	助教
芸術系	助教
芸術系	准教授
芸術系	研究員
芸術系	准教授
システム情報系	助教
システム情報系	助教
システム情報系	助教

所属	職名
システム情報系	講師
システム情報系（兼任） アイソトープ環境動態研究センター	教授
生命環境系	助教
生命環境系	助教
生命環境系	助教
体育系	助教
体育系	准教授
体育系	助教
図書館情報メディア系	助教
人間系	准教授
人間系	助教
人間系	准教授
ビジネスサイエンス系	講師
人文社会系	助教
人文社会系	助教
人文社会系	准教授
生命領域学際研究センター	助教
生命領域学際研究センター	研究員

管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助者雇用経費助成制度

所属	職名
ビジネスサイエンス系	ビジネス科学研究科長
医学医療系	看護学類長
医学医療系	看護科学専攻長
人間系	感性認知脳科学専攻長
人間系	人間総合科学研究科副研究科長、心理専攻長
人間系	教授
図書館情報メディア系	図書館情報メディア研究科長

②ベビーシッター割引券

筑波大学では、内閣府が実施する「ベビーシッター派遣事業」を活用し、ベビーシッター割引券を発行している。仕事と子育ての両立による負担軽減に加え、児童の健全な育成に寄与することを目的とし、サービス利用料金の一部が助成される。年度ごとの利用状況は以下のとおりである。

年度	利用申込者数	申請枚数	利用枚数（利用者数）
平成22年度	7 人	30枚	13枚（5 人）
平成23年度	3 人	15枚	6 枚（1 人）
平成24年度	6 人	50枚	32枚（4 人）
平成25年度	8 人	183枚	147枚（5 人）
平成26年度	7 人	166枚	129枚（6 人）
平成27年度	2 人	20枚	20枚（2 人）
平成28年度	12人	173枚	118枚（12人）
平成29年度	12人	356枚	270枚（12人）

③ライフイベントからの研究復帰支援事業

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門では、平成28年度より、出産、育児、介護等のライフイベントにより研究を中断していた研究者が、円滑に研究現場に復帰するための支援として、必要経費の補助事業を行っている。

必要経費の補助事業では 8 名の研究者への助成を実施した。本助成を受けた研究者の所属・職名は下記の通りである。

ライフイベントからの研究復帰支援事業（必要経費）

所属	職名
ビジネスサイエンス系	講師
医学医療系	講師
医学医療系	講師
医学医療系	助教

所属	職名
システム情報系	助教
体育系	助教
芸術系	准教授
生命環境系	助教

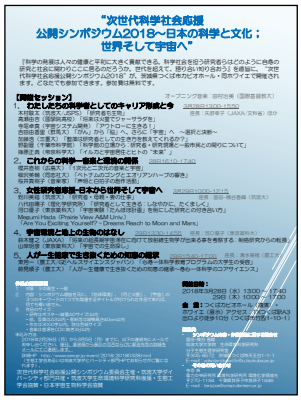
④ダイバーシティ推進関連企画に対する支援事業

これまではダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門で全体向けのイベント等を企画・提供してきたが、今回は新たに、教職員側が各系やセンターなどにおいて、個人やグループで、ダイバーシティ推進に関するイベントやセミナー等の活動を企画・開催する際に、必要経費の補助を行うという、視点を変えた取り組みを行った。

各系の特徴や問題点を考慮した独自のダイバーシティ推進のための企画・立案が寄せられ、以下に示すとおり計８件を採択し補助を行った。実際の利用者からは、自分達のニーズに合った企画を行えることに喜びと感謝の声が寄せられている。

所属	職名
医学医療系　国際看護学	助教
医学医療系　国際看護学	教授
生命環境系	講師
医学医療系　国際看護学	教授

所属	職名
医学医療系　国際看護学	助教
芸術系	准教授
システム情報系	系長
URA研究戦略推進室	チーフURA



⑤不妊治療動画の公開

女性研究者へのヒアリングを通して、キャリアを優先し、出産等のライフイベントを引き伸ばしする決断をされる方が多くいることがわかった。また、そのような決断をすることで、不妊に悩む方もいらっしゃることがわかってきた。

そこで、本学の大学病院産婦人科の先生に不妊症に関する講義を行って頂き、Web上で講義動画を公開し情報発信を行った。

⑥ダイバーシティ推進のための取り組み説明会

実施報告書

実施日	2017年４月25日（火）
場所	筑波大学　総合研究棟Ａ
来場者	人数：16名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	ダイバーシティ部門では、年間を通じ、様々な企画を実施したり、制度を提供しています。しかし、その制度情報や企画情報は、学内の先生方に広く浸透しているとは言い難い状況です。そこで、学内の教職員の方々、特に制度等についてまだ情報にアクセスしていない４月に着任された新任の教職員に向けて、ダイバーシティ推進に関する取り組み説明会を実施しました。説明会の後半部分では、キャリアカウンセラーによる座談会形式の相談会も実施し、制度利用や各自が抱える課題等に関する情報交換が行われました。 利用者に好評な支援制度は引き続き広く利用していただけるよう広報活動を行うとともに、今回把握できた課題等については、今後の施策運用に活かしていきます。

⑦支援制度利用者ヒアリング

実施報告書

実施日	2017年５月10日（水）～６月23日（金）
場所	研究室等
来場者	人数：11名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP　(メール発信) その他（　　）
実施者	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	ダイバーシティ部門では、「育児等との両立のための研究・業務補助者雇用経費助成制度」、「ベビーシッター割引券」、「育児・介護との両立を促進するための研究補助者雇用経費助成制度」等の女性研究者支援制度を設けています。各系の11名の制度利用者の先生方（外国籍の先生も含む）を対象に制度利用の効果や、現在抱えている問題等について、個別ヒアリングを実施しました。 ヒアリングにご協力いただいたほとんどの先生が、「制度利用することによって、育児と研究の両立が利用前に比べ、可能になっている」とおっしゃっていました。 しかし、「制度が年度の切れ目や年の前半・後半で分かれてしまうことによる使いづらさ」、「他の資金（科研費や研究費等）と合算し使用することができないことによる使いづらさ」に関する指摘も、複数の先生方から寄せられました。 制度関係以外の課題については、「研究時間と教育時間以外の会議や事務処理の多さ」、「子育てや学内の制度について相談できる相手がいない」といった点が挙げられました。 個別の課題としては、「任期付きの教員こそキャリアが不安定な中、子育てと研究を両立しなければならず、苦しい思いをしています。任期付き教員でも制度利用が可能になるとより助かる」といった声や、外国籍の先生からは、「学内のほとんどの連絡や書類が日本語で記載されています。事務処理に時間がかかってしまうため、補助員を雇用できるとうれしい」といった要望が挙げられました。 研究と育児の両立に役立っていると思われる支援制度は引き続き広く利用していただけるよう周知を行います。制度の課題点が挙がったものについては、関連部局担当者と改善に向けた協議を行っていきます。それと並行し、今回把握できた個別課題等についても、今後の施策運用に活かしていく予定です。 制度利用者へのヒアリングは今年度初めて実施した試みでしたが、制度利用に関するフィードバックを多く得られるとともに、個々の課題を直接聞き取る貴重な機会にもなりました。来年度以降も引き続き利用の利点や難点、個々が抱えている課題等について、聞き取りを続けていきます。

5. 相談事業

①相談室“あう”

平成22年度に開設したワーク・ライフ・バランス相談室“あう”は、平成29年度で８年目を迎えた。本相談室は、主に教職員を対象として、就業上の問題・課題に関する相談、働き方の見直し、家族や個人に関する相談等を受付ける窓口として運営している。

改訂版リーフレット

平成29年４月１日から平成30年２月28日までの相談利用のべ件数は８件であった。

［利用実態］

月別の相談延べ件数、月次延べ利用者数及び新規利用者数を図１に示し、相談内容別人数及び相談者の属性を図２、図３に示した。

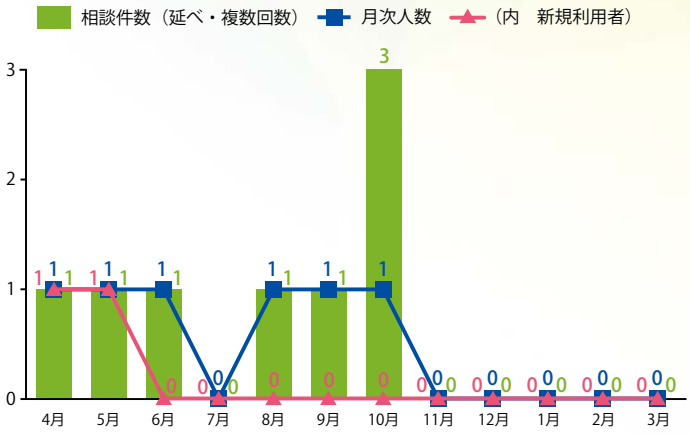


図1　相談月別推移（平成29年度）

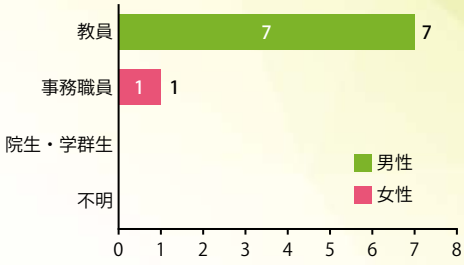


図3　相談者属性別人数

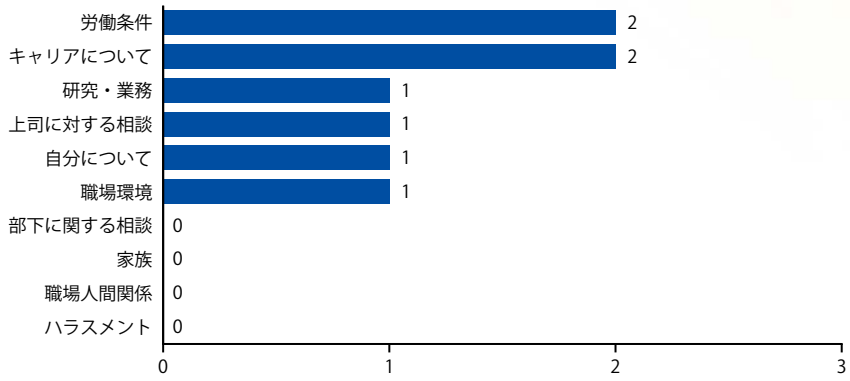


図2　相談内容別人数

［相談内容―総括］

“あう”は、「仕事と生活の調和」の実現のための支援として相談を受け付けており、申し込むにあたって相談者は仕事をする上での支障となる課題（人間関係や自分自身のモチベーション）を明確に意識している状況であることが多い。従って、相談時にも問題を何とかしたいという強い思いがあり、感情的にも複雑さを伴うため、相談場所への案内、相談開始時の守秘義務の説明、また相談内容をどの担当者で扱うのか等の説明を丁寧にしている。

相談者によっては相談に来ていること自体がわからないように昼休憩を利用することもあり細心の注意をはらって対応するようにしている。

［全体傾向］

キャリア相談の内容があうに寄せられる内容とはっきりとして区分けがあるとは言い切れないが、相談者が課題を自分のキャリア形成の阻害要因ととらえているか、働き方そのものととらえているかによって窓口を選んでいるため、相談の進め方の軸をどちらにするか注意して進めている。

本年度は産業医と連携して相談業務を進めていく事案もあった。産業医への相談と並行して自分自身のキャリア開発に話が及んだ時点で、キャリア開発を担当しているDACセンターとの連携が必要と判断され、就職に向けたマインドセット、情報収集の仕方、面接のトレーニングといった具体的なキャリア支援に発展していったが常に産業医が同席して相談が進んだ。本事案は本人の希望する就職に繋がり、今後の相談業務の在り方として相談者のニーズや状態に合わせた新たな方法として進めるべき取り組みとなった。

②キャリア相談

平成27年２月に「キャリア相談」を開設。筑波大学の全教職員および大学院生を対象に、キャリアに関する広範な悩みに対して相談を受け付け、キャリア形成の支援を行う窓口として運営している。

開設にあたり、相談室リーフレットを作成して学内に配布をし、周知活動に努めた。

開設告知リーフレット

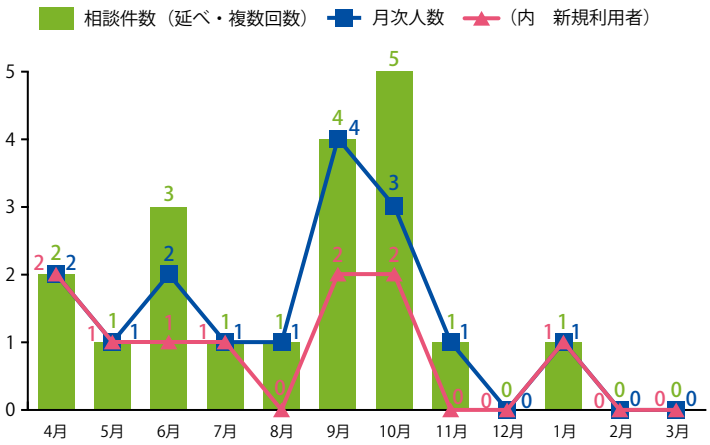


図1　相談月別推移（平成29年度）

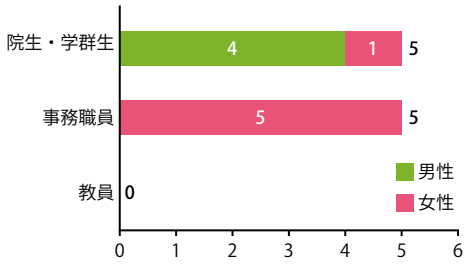


図3　相談者属性別人数

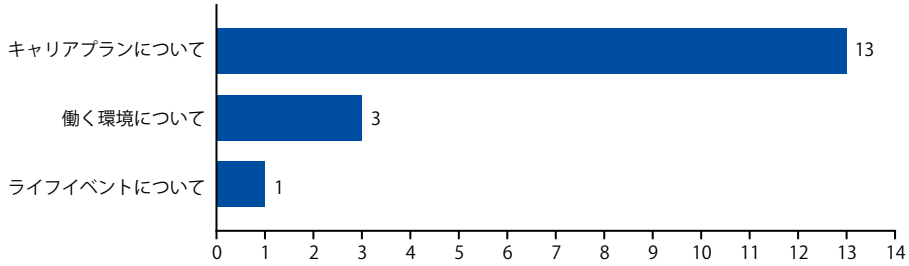


図2　相談内容別人数

［相談内容―総括］

キャリア相談窓口では、自分自身の業務を質の視点から整理するためのサポート、実際のエントリーシートの書き方や面接の方法といったスキルのサポートを目的として来談する方が多い。来談者の目的が多様なため、ニーズを丁寧に聞くことが求められ話を聞くうちにキャリア開発のために解決すべき課題が本人の仕事に対する姿勢と業務との乖離であったり、人間関係によるものが見えてきたり、と相談者による内容の差が大きい。

いずれも本人がありたい姿、即ち働くうえで重要視していることや信念、価値観などを共有してそれに近づけるための方法を考えてもらえるようなサポートをする。

相談者によっては、前回の相談を踏まえて行動をしてみた結果を報告に再来談するかたもおり、職場で相談することが叶わない非正規の職員が多い傾向であった。

［傾向］

自分の能力が存分に発揮されていないことへの不満や相談相手がないことで来談されるケースが多かった。特に非正規の職員は採用時に能力を評価されて職務についた認識であるものの、本人の希望する働き方、内容でないことへの訴えもあり、本窓口では気持ちの持ち方や周囲との関係性の調整についてアドバイスを求められることがあった。来談者によってはその後の変化や変化しない状況を報告に来られることもあり、一人で悩んでいる状況を本窓口に来談することで解消する手段としている様子が見られる。

新しいケースとしては副業支援への希望もあり、働き方の形態の変化が相談内容の変化にも反映されている。

③LGBT相談

平成29年度の相談者は学生からの相談のみで、内訳は学群生３名、大学院生５名からの相談が寄せられた。そのうち、相談内容に関してはセクシュアリティの相談（自分のセクシュアリティが分からない等）が最も多く、ついでセクシュアリティに伴う人間関係（特に恋愛や友人関係）についての相談内容が多かった。一方で就職活動に際しての不安（カミングアウトをすべきか、どういう服装で行くべきか等）も３件、学籍簿の氏名変更に関する相談も２件寄せられた。昨年度は全体で３名11件の相談があったが、今年度は８名９件であり、相談窓口の周知が進んだ結果、利用者が増加したと考えられた。

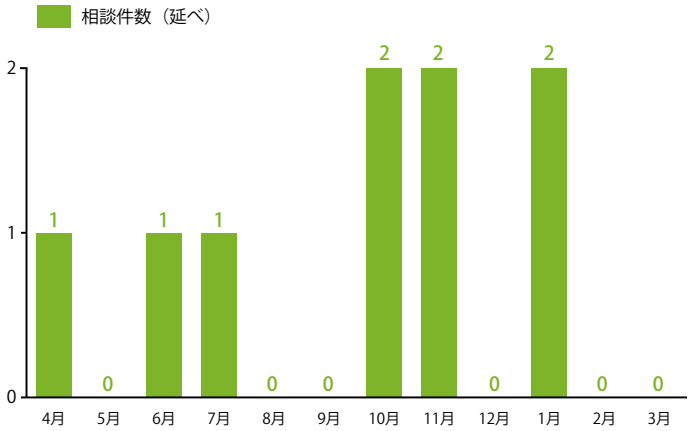


図1　相談月別推移（平成29年度）

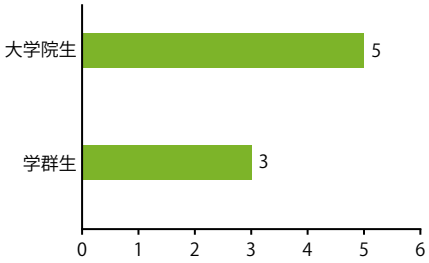


図3　相談者属性別人数

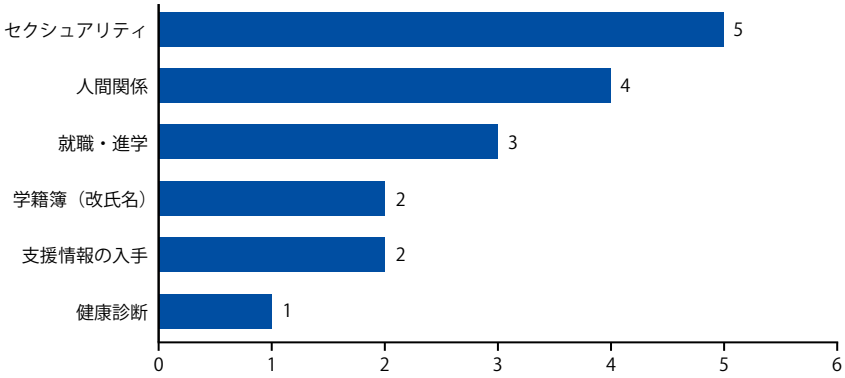


図2　相談内容別人数

* セクシュアル・マイノリティとは、LGB（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル）や、T（トランスジェンダー）および性別に違和をもつ人を含め、多様なセクシュアリティの人を指しています。

セクシュアル・マイノリティ*に関する

筑波大学での学生生活について

相談できます

筑波大学では、平成27年度よりセクシュアル・マイノリティの学生に対して、これまでの個別対応から、大学として支援の取り組みを始めました。

とくにトランスジェンダーや性別に違和を持つ学生には、次のような点についてこれまでも対応しています。

- ○ **氏名の取扱い**
- ○ **使用トイレ**
- ○ **教育実習やインターンシップ**
- ○ **名簿等における性別の取扱い**
- ○ **健康診断**
- ○ **キャリア相談、就職相談　など**

もし何か困ったことや伝えたいことがあれば、下記のダイバーシティ部門の窓口まで相談に来て下さい（電話かメールでの事前受付をしています）

対応可能な内容は個別の状況や大学側の事情にもよるため、必ずしも希望に沿えない場合もありますが、まずはお気軽にご相談下さい。

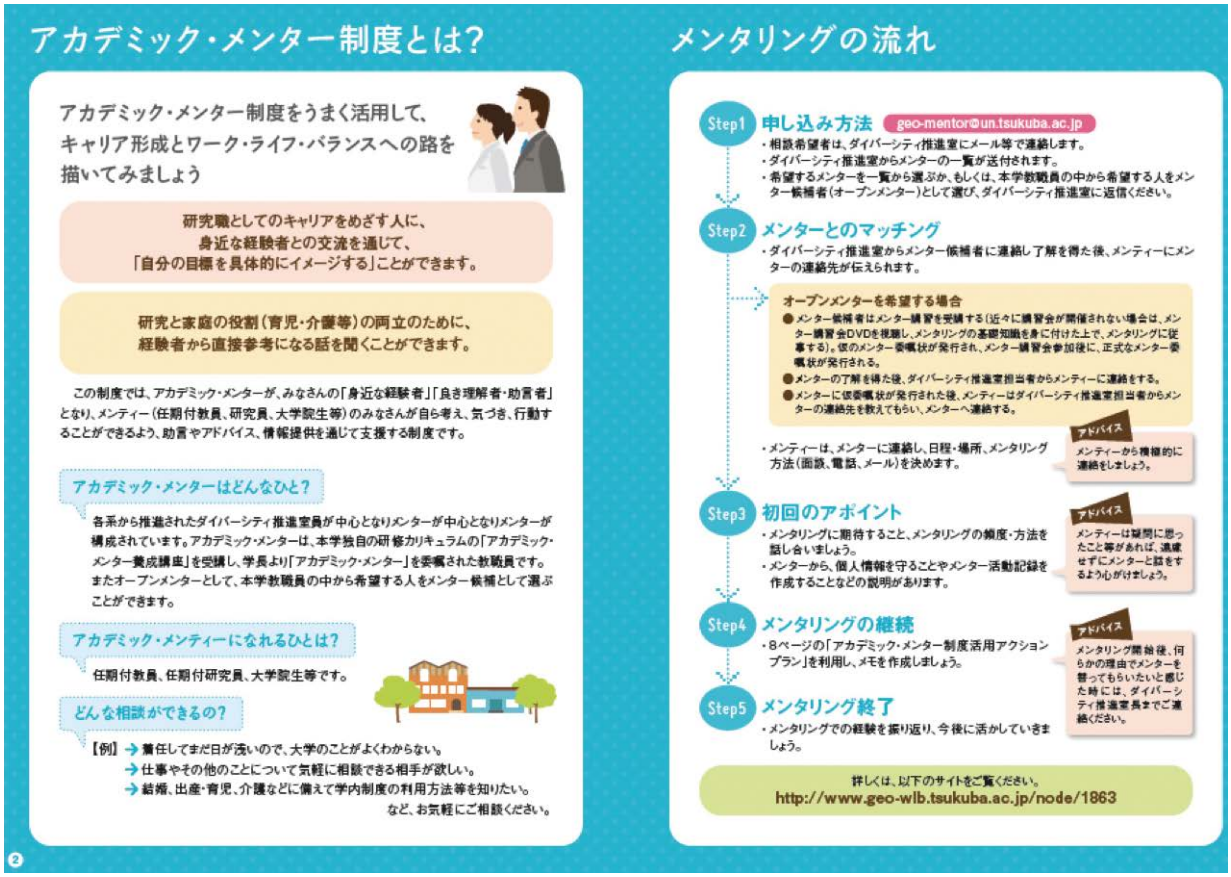
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター **ダイバーシティ部門**

TEL: **029-853-8504**　E-mail: **diversity-au@un.tsukuba.ac.jp**

URL: **https://diversity.tsukuba.ac.jp/**　または「**筑波大学ダイバーシティ**」で検索

④アカデミック・メンター制度

平成22年度より、アカデミック・メンター制度を実施している。各系から推薦されたダイバーシティ推進室室員を中心に、アカデミック・メンター養成講座を受講した教職員が、メンティー（任期付教員、任期付研究員、博士課程学生等）の研究キャリア継続に関する相談、大学における仕事と家庭役割の両立相談について、アドバイスや情報提供を行っている。平成24年度にはアカデミック・メンター・ハンドブックを作成し、本制度の周知とメンタリング希望者のメンターとのマッチングを実施中である。



アカデミック・メンター・ハンドブック

総合相談窓口
General Consultation Service

対象 Recipient
学生・家族・教職員ほか、どなたでも
Students, faculty member, family of students and anyone else

相談内容 Consultation matters
学生生活に関する何でも相談
Consultation on anything about student life

連絡先 Contact information
スチューデントプラザTel: 029-853-8430
春日エリアTel: 029-859-1207
Student Plaza: 029-853-8430
Kasuga Area: 029-859-1207

学生相談室
Student Counseling Room

対象 Recipient
学生・保護者・教職員
Students, faculty member and family of students

相談内容 Consultation matters
学生生活のさまざまな問題や悩み、困りごとに関する相談
（カウンセリングやコンサルテーション）
Consultation on various problems and troubles about student life (Counseling and consultation)

連絡先 Contact information
受付電話: 029-853-2415
電話相談: 029-853-2406
Reception: 029-853-2415
Consultation by telephone: 029-853-2406

キャリア・就職相談（学生）
Desk for career counseling (for students)

対象 Recipient
学生・家族
Students and family members

相談内容 Consultation matters
学生のキャリア・進路・就職相談
Career counseling for students

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-8444
E-mail: syushokuka@un.tsukuba.ac.jp

キャリア相談（教職員）
Desk for career counseling (for faculty and staff members)

対象 Recipient
教職員
Faculty and staff members

相談内容 Consultation matters
教職員のキャリア・進路相談
（博士課程の学生のキャリア・進路・就職相談も可）
Matter of career development

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-8504
E-mail: career-shien@un.tsukuba.ac.jp

相談室「あう」
Work-life balance counseling room "Au"

対象 Recipient
学生・家族・教職員
Students, faculty, staff and family member

相談内容 Consultation matters
ワークライフバランスに関する相談
（ライフイベント等との両立支援や職場環境に関する内容も含む）
Matter of work-life balance and life event support services

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-8504
E-mail: diversity-au@un.tsukuba.ac.jp

We're With You いつでも
相談窓口一覧
University of Tsukuba

精神保健相談
Mental Health Care

対象 Recipient
学生・家族
Students and family members

相談内容 Consultation matters
気分の落ち込み、意欲の低下、不安、不眠などメンタルヘルスに関する相談・治療
Matter of Mental Health

連絡先 Contact information
受付電話: 029-853-2415
電話相談: 029-853-2406
Tel: 029-853-2415
Telephone counseling: 029-853-2406

健康相談
Health Consultation

対象 Recipient
学生・教職員
Students, faculty and staff

相談内容 Consultation matters
からだの健康についての相談・応急診療
Health Consultation, etc.

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-2410

LGBT等の相談窓口
Desk for LGBT and other sexual minorities

対象 Recipient
学生・家族・教職員
Students, faculty, staff and family members

相談内容 Consultation matters
LGBT等に関する相談
Matter of LGBT and other sexual minorities

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-8504
E-mail: diversity-au@un.tsukuba.ac.jp

障害学生支援の相談窓口
Support service for students with disabilities

対象 Recipient
学生・教職員
Students, faculty and staff

相談内容 Consultation matters
障害のある学生への修学上の支援に関する相談
Study support for students with disabilities

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-4584
E-mail: shougai-shien@un.tsukuba.ac.jp

留学生相談室
International Students Consulting Room

対象 Recipient
学生・家族・教職員
Students, their family members, the university staff

相談内容 Consultation matters
留学生に関連するあらゆる問題や悩みごと（留学生の他に受け入れに関わる教職員全般が対象）
Any issues related to international students (open to all staff members as well as international students)

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-6240、6766
E-mail: gc-support@un.tsukuba.ac.jp

ハラスメント相談センター
Harassment Counseling Center

対象 Recipient
学生・教職員
Students, faculty and staff

相談内容 Consultation matters
ハラスメントに関する相談
If you observe or been the target of behavior you perceive as harassment, contact us.

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-8449
E-mail:
stop-harassment@un.tsukuba.ac.jp
or for more information visit university homepage.

6. 裾野拡大・次世代育成事業

①女子中高生向け理系進路選択支援事業

平成29年度、国立研究開発法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の採択を受け、８月に「夏季リケジョサイエンス合宿」、12月に「冬季リケジョサイエンスカフェ」を実施した。茨城県のみならず全国各地からの参加があり、夏季には96名の冬季には29名の参加があった。

企画名	想い描こう、語り合おう、体験しよう、未来を！－悩めるリケジョと家族のために－
タイトル	１．夏季リケジョサイエンス合宿
	２．冬季リケジョサイエンスカフェ
実施日	１．平成29年８月２日（水）13:00 － 平成28年８月４日（金）12:00
	２．平成29年12月27日（水）10:00～17:00
場所	１．筑波大学　筑波キャンパス　体育芸術エリア５Ｃ棟
	２．筑波大学　筑波キャンパス　春日エリア７Ａ棟
参加者	１．女子中高生96名（中学生54名、高校生42名）、保護者・教員
	２．女子中高生29名（中学生10名、高校生19名）、保護者・教員
内容	１．夏季リケジョサイエンス合宿 ・開講式、オリエンテーション ・ロールモデル紹介 ・ラウンドテーブルカフェ ・大学生・大学院生ロールモデル交流会 ・サイエンス実験体験 ・保護者教員対象ダイバーシティ・セミナー、情報交換会 ・グループワーク『リケジョって何だろう？』 ・グループワーク発表 ・閉講式、集合写真
	２．冬季リケジョサイエンスカフェ ・開講式 ・実験施設見学・体験（物質・材料研究機構並木地区、森林総合研究所生物多様性別棟、産業技術総合研究所地質標本館） ・ランチ懇談会 ・ロールモデルの紹介 ・ラウンドテーブルカフェ ・保護者教員対象ダイバーシティ・セミナー、情報交換会 ・閉講式

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門［平成 29 年 8 月 10 日作成］

平成 29 年度「夏季リケジョサイエンス合宿」開催報告

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門では平成 25 年度より「リケジョ合宿」を企画し、女子中高生が多様な理系分野の魅力を知り、体験できるプログラムを実施しております。今年度は、筑波キャンパスにおいて 8 月 2 日（水）～4 日（金）の 2 泊 3 日で開催し、全国各地から 96 名の女子中高生の参加がありました。実施にあたっては、筑波大学の様々な領域の先生方，研究室や大型実験研究施設のスタッフの皆様、学生スタッフの他、近隣の研究所の研究員や教員の皆様を初め多くの方々にご参加いただき，多大なるサポートとご支援をいただきまして盛会裡に終えることができました。誠にありがとうございました。

女子中高生向けプログラム

● ロールモデルの紹介、ラウンドテーブルカフェ

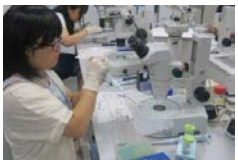
女子中高生に多様なリケジョの将来像を示すことを目的とし、様々な分野で活躍する筑波大学の女性研究者 9 名により、研究内容、理系で働く魅力などについて、ロールモデルの紹介として講演いただきました。その後、女子中高生が希望するロールモデル毎に少人数のグループに分かれて参加する、「ラウンドテーブルカフェ」を実施しました。参加した女子中高生からは、「研究者の方に積極的に質問ができよかった」「理系のことがよくわかった」「進路を決めるうえでぼんやりしていたが、話を聞いてはっきりと見えてきた」などの感想をいただきました。

ﾛｰﾙﾓﾃﾞﾙ紹介の様子

ﾗｳﾝﾄﾞﾃｰﾌﾞﾙカフェの様子

● サイエンス実験体験

女子中高生が研究活動を体験することで理系への気づきや発見を得ることを目的に、筑波大学内の 14 の研究室や研究グループにより、最先端の科学を体験できる実験体験を実施しました。女子中高生からは、「本格的な器具や機械に触れ、専門的な実験を体験できた」「プログラミングに興味があり、偏差値についても楽しく知れて良かった」「実験は楽しく取り組めた。大型の実験装置や大学の実験室の様子を見れて良かった」、「今まで身の回りで気になっていた事の解明ができた。とてもスッキリして楽しかった」等の前向きな感想が寄せられました。


サイエンス実験体験の様子

● 大学生・大学院生による企画の交流会、グループワーク

様々な世代・属性のロールモデルとの交流を図ることを目的に、女子大学生・大学院生企画の交流会、グループワークを行いました。また、女子学生・大学院生と一緒に宿泊することで、女子中高生の悩みや不安の共有や解消につなげ、理系の魅力を伝えられるよう、語り合える機会を作りました。女子中高生からは、「年の近い大学生に、研究や大学生活などの貴重な話が聞けた」、「大学生の方から実際に今やっている事や大学の事を聞くことができて将来を考える参考になった」などの感想が得られ、女子大学生・大学院生が相談相手として心強い存在となったようです。

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸの様子

保護者・教員セミナー

子供の進路選択に悩む保護者や教員に対して、理系の女性はどのような職場で活躍しているのか、そもそもなぜ理系に女性が求められているのかなどの理解を促すことを目的に、保護者教員セミナーを実施しました。セミナーでは、企業、研究機関、筑波大学に所属する 5 名の講師による自己紹介及び質疑応答、座談会形式の情報交換会を行いました。保護者からは、「進路相談の現状を知り、自分の役割の重要性に気づいた」、「よい企画だと思うので是非続けていただきたい」など、様々な感想や意見をいただきました。

リケジョサイエンスカフェ 平成 29 年 12 月 27 日（水）開催！

リケジョサイエンスカフェは、リケジョ仲間やリケジョの先輩と触れ合い、理系の魅力を発見し、リケジョ仲間との絆を深めて、進路の不安を吹き飛ばそうというプログラムです。

今回は、リケジョの先輩が働いているつくば市近郊の企業や研究所などの、より幅広い分野・職場のご協力のもと実施を予定しています。また、筑波大学とつくば近郊の企業や研究所で活躍する女性研究者の方をお招きし、研究や仕事の魅力などに関するお話をお聞きしたり、疑問をぶつける場を設ける予定です。夏季リケジョサイエンス合宿でも好評でした「保護者・教員セミナー」も開催いたします。

この機会に色々なお話を聞いてみませんか？

お問合せ先

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門
〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1 TEL:029-853-8503 FAX:029-853-8505 E-mail: rikejo@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ部門［平成 30 年 1 月 15 日作成］

平成 29 年度「冬季リケジョサイエンスカフェ」開催報告

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ部門では平成 25 年度より「リケジョ合宿」を企画し、女子中高生が多様な理系分野の魅力を知り、体験できるプログラムを実施しております。今年度は 8 月の夏季リケジョ合宿に続き、筑波キャンパス春日エリアにおいて冬季リケジョカフェを 12 月 27 日（水）に開催し、各地から 29 名の女子中高生の参加がありました。実施にあたっては、物質・材料研究機構、森林総合研究所、産業技術総合研究所、筑波大学及び近隣の企業や研究所で活躍している女性研究者、学生スタッフの方々、その他にも多くの方々に多大なるサポートをいただきました。たくさんの方々にご参加いただき、多大なるご支援をいただきまして盛会裡に終えることができました。誠にありがとうございました。

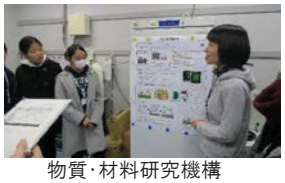
女子中高生向けプログラム

● 研究機関の見学・体験、ランチ懇談会

つくば市内の研究所など多彩な職場をより間近に体験してもらうことを目的に、物質・材料研究機構、森林総合研究所、産業技術総合研究所地質標本館の見学・体験を行いました。見学・体験後は、女性研究者や筑波大学生とのランチ懇談会も行い、女子中高生の抱える様々な不安や迷い、疑問などを話す場を設けました。女子中高生からは、「普段見られない所まで見られて良かった」、「実際に触れることが出来て良かった」「もっとお話を聞きたかった」などの前向きな感想が多く寄せられました。

産業技術総合研究所
地質標本館

森林総合研究所


物質・材料研究機構

大学生とのランチ懇談会

● ロールモデルの紹介、ラウンドテーブルカフェ

ロールモデルの紹介では、女子中高生に多様なリケジョの将来像を示すことを目的とし、様々な分野で活躍するつくば市内の企業、研究所、筑波大学などの女性研究者 7 名により、研究内容、理系で働く魅力などについて、講演いただきました。その後、女子中高生が希望するロールモデル毎に少人数のグループに分かれて参加する、座談会「ラウンドテーブルカフェ」を実施しました。参加した女子中高生からは、「経験談やアドバイスを聞けて良かった」、「理系の企業のイメージが掴めて嬉しかった」、「色々な人と話すことが出来たので視野が広がった」などの感想をいただきました。

ロールモデル紹介

ラウンドテーブルカフェ①

ラウンドテーブルカフェ②

ラウンドテーブルカフェ③

保護者・教員セミナー

子どもの進路選択に悩む保護者や教員に対して、理系の女性はどのような職場で活躍しているのか、そもそもなぜ理系に女性が求められているのかなどの理解を促すことを目的に、保護者教員セミナーを実施しました。セミナーでは、研究所、筑波大学など 6 名の講師による自己紹介や実験、質疑応答、座談会形式の情報交換会を行いました。保護者からは、「理系への印象が変わった」、「女性の活躍の場があり尊重されていると感じられた」「もっと理系の職場が増えて欲しい」など、様々な感想や意見をいただきました。

保護者・教員セミナー

情報交換会

お問合せ先

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ部門
〒305-8577　茨城県つくば市天王台 1-1-1　TEL:029-853-8503 FAX:029-853-8505 E-mail:rikejo@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学 University of Tsukuba

平成29年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム

女子中高生の皆様、保護者・教員の皆様

理系か文系か迷っている　理系に進学するのは不安・心配

\夏季/ …という女子中高生、集まれ!

リケジョサイエンス合宿

に参加しませんか?

リケジョサイエンス合宿とは…

2泊3日筑波大学や筑波山ホテルにて、「サイエンス」環境にたっぷりと浸りながら、仲間や先輩たちとさまざまな企画に参加することで、理系が大好きになるプログラムです!

思い描こう、語り合おう、体験しよう、未来を!
悩めるリケジョと家族のために

女子中高生プログラム

女性研究者に聞いてみよう!
ラウンドテーブルカフェ

要事前申込

女性研究者と研究の面白さや理系の魅力、ライフスタイル、将来像など自由に話し合う企画です。この機会に、憧れの女性研究者にいろいろなことを聞いてみませんか。

- **A** 皆さんの将来の夢について聞かせてください
  秋山 千亜紀先生(地理学、空間情報科学(水環境、流域圏、土地利用))
- **B** 意外な"理系分野"に目覚めるかも!?
  坂口 綾先生(放射化学/環境化学分野)
- **C** 夏のツクバで科学の夢と魅力を見つけよう!
  小川 園子先生(行動神経科学(ホルモン、行動、脳、絆))
- **D** 研究って楽しいですよ。
  岡 瑞起先生(ウェブサイエンス・人工生命)
- **E** LINE 疲れやスマホ依存について議論しましょう。
  叶 少瑜先生(メディア心理学)
- **F** 理系?文系?関係ない!楽しいことを追いかけましょう
  寺澤 洋子先生(音響学・音のデザイン)
- **G** リケジョ+アート=何ができる?考えよう!
  林 みちこ先生(美術館・博物館学、美術史)
- **H** 食べることは生きること!食べてなりたい自分になる。
  麻見 直美先生(運動栄養学・スポーツ栄養学)
- **I** 一括りでは表せないリケジョをご覧アレ!?
  有馬 澄佳先生(生産システム工学、IoTとビッグデータ技術経営と地域振興)

※保護者・教員の方はご参加いただくことができません。
同時開催の「保護者・教員セミナー」(当日参加可)にご参加可能です。

サイエンス実験体験

要事前申込

筑波大学の様々な研究室の実験に参加して、「サイエンス」の楽しさ・面白さを身近に感じてもらう企画です。中学や高校では経験できない最先端の実験を体験してみませんか。

1. 筑波大学発ー面白不思議科学実験工作隊ー
   小林 正美先生(合成・光治療研究室)
2. 環境に優しい無機材料:先端機器分析に挑戦
   鈴木 義和先生(無機系エネルギー環境材料研究室)
3. 自分を測る。自分を知る
   麻見 直美先生(運動栄養学研究室)
4. 脳とホルモンの行動科学ラボラトリー
   小川 園子先生 高橋 阿貴先生(行動神経内分泌学研究室)
5. 見る「DNA」~遺伝子ってなんだ?~
   廣田 恵子先生 松崎 仁美先生(ゲノム情報生物学(深水昭吉研究室))
6. においの感じ方の不思議
   綾部 早穂先生(感覚知覚心理学研究室)
7. 人の認知の理解と支援
   伊藤 誠先生(認知システムデザイン研究室)
8. たくさんの音の中から聞きたい音を聞き分ける
   牧野 昭二先生(マルチメディア研究室)
9. コミュニケーションと脳波の中のリズムを見る
   川崎 真弘先生(脳コミュニケーション研究室)
10. クイズで読み解くデータサイエンス
    佐藤 哲司先生(コンテンツ工学研究室)
11. データに基づく技術経営と地域活性化の体験
    有馬 澄佳先生 石崎 佑莉先生 Huizhen BU先生 他(生産システム工学・技術経営と地域振興)
12. 米の品質を科学する
    林 久喜先生(作物生産システム学研究室)
13. 食べ物に含まれる着色料について調べよう!
    吉田 滋樹先生(食品機能化学研究室)
14. 生物の不思議『なんでだろう?』を化学する
    繁森 英幸(天然物化学研究室)

※宿泊同伴者の保護者・教員のみ、一部の研究室の見学が可能です。

保護者・教員セミナー

現役大学教員と研究者が リケジョの保護者・教員の悩みにお答えします!

事前申込または当日参加OK

筑波大学 体育系 准教授/ダイバーシティ部門長/日本オリンピック委員会理事
山口 香

筑波大学 ダイバーシティ部門 助教
河野 禎之

国立研究開発法人 産業技術総合研究所総務本部 ダイバーシティ推進室長
井出 ゆかり 他

セミナー後に講師と自由に話せる情報交換会を実施します。

※「保護者・教員セミナー」のみのご参加も可能です。

開催日時 平成29年 8月2日(水)13:00 ~ 8月4日(金)12:00

会場 筑波大学 筑波キャンパス 体育芸術エリア5C棟
(宿泊:筑波山ホテル青木屋)

申込締め切り:平成29年7月7日(金)

募集人数 女子中高生 100名 / 同伴者 20名
応募者多数の場合には抽選で決定します。

参加費 女子中高生・同伴者 各16,000円
●宿泊費(朝夕食込)・合宿保険料込
※筑波大学までの交通費は自己負担

主催:筑波大学・つくば女性研究者支援協議会
後 援:茨城県教育委員会、つくば市教育委員会

「思い描こう、語り合おう、体験しよう、未来を!ー悩めるリケジョと家族のために」は、国立研究開発法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の受託事業です。

筑波大学
University of Tsukuba

平成29年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム

女子中高生の皆様、保護者・教員の皆様

理系か文系か迷っている　理系に進学するのは不安・心配

…という女子中高生、集まれ！

冬季 リケジョサイエンスカフェ

に参加しませんか？

思い描こう、語り合おう、体験しよう、未来を！
悩めるリケジョと家族のために

リケジョサイエンスカフェとは…

リケジョ仲間やリケジョの先輩と触れ合い、理系の魅力を発見し、進路の不安を吹き飛ばそうというプログラムです。今回は、筑波大学及び筑波近郊の研究所への見学や、研究所や企業で活躍する女性研究者と交流するカフェを開催します。

共通プログラム 女子中高生 保護者・教員

研究機関の見学・体験

要事前申込

※３つの研究機関のうち１つを見学します。

❶物質・材料研究機構　WPI-MANA棟/MANA棟/超伝導セラミックス棟

電子セラミックス、超分子、医療応用ソフトマターの３人の女性研究者によるラボ紹介を予定しています。

❷森林総合研究所　生物多様性別棟

鳥獣、昆虫、樹木の葉と木材の研究用標本が所蔵されている博物館のバックヤードのような施設です。トキなどの貴重な生物の標本がたくさんあります。

❸産業技術総合研究所　地質標本館

産総研職員による地質標本館の見学ツアー、身近な岩石を薄く磨き上げる薄片製作を体験するプログラムを行います。また、女性研究者とのランチ懇談会も予定しています。

ロールモデルの紹介

ロールモデルである女性研究者／技術者が、研究内容、キャリア形成のプロセス、理系で働く魅力、家庭との両立方法等について「ロールモデル紹介」として講演いただきます。

女子中高生プログラム

ラウンドテーブルカフェ

要事前申込

女性研究者と研究の面白さや理系の魅力、ライフスタイル、将来像など自由に話し合う企画です。この機会に、憧れの女性研究者にいろいろなことを聞いてみませんか。
※２回実施します。合計２名の女性研究者と話すことが出来ます

物質・材料研究機構
構造材料研究拠点　軽金属材料創製グループ
Ⓐ小川 由希子（おがわ ゆきこ）先生
（材料工学（金属材料））
自分の「好き」に正直に突き進んでください！

茨城県立医療大学
保健医療学部看護学科
Ⓑ沼口 知恵子（ぬまぐち ちえこ）先生
（小児看護、災害への備え）
仕事や研究の楽しさをお伝えします。

アサヒグループホールディングス株式会社
グループ食の安全研究所
Ⓒ須賀 啓子（すが けいこ）先生
（分析化学）
少しでも興味がある方、気軽に来てみて下さい。

農業・食品産業技術総合研究機構
本部　経営戦略室
Ⓓ佐藤 恵利華（さとう えりか）先生
（土壌肥料（土壌生物））
気負わず楽しく、たくさんお話しましょう。

日本アイ・ビー・エム株式会社
グローバル・ビジネス・サービス　IoTサービス
Ⓔ大澄 佳織（おおすみ かおり）先生
（ITアーキテクト）
理想の自分をイメージするお手伝いをします！

日本アイ・ビー・エム株式会社
システムズハードウェア事業本部　ソリューション事業部
Ⓕ竹田 千恵（たけだ ちえ）先生
（ITスペシャリスト）
「楽しく仕事する」イメージがついたら嬉しいです！

産業技術総合研究所　総務本部
ダイバーシティ推進室／環境管理研究部門
Ⓖ塚崎 あゆみ（つかさき）先生
（生物地球化学・海洋学）
”理系”をテーマに楽しくお話ししましょう！

保護者・教員プログラム

現役大学教員と企業、研究所職員が **リケジョの保護者・教員の悩みにお答えします！**

事前申込または当日参加OK

保護者・教員セミナー

筑波大学 ダイバーシティ部門長 体育系 准教授 日本オリンピック委員会理事 山口 香	筑波大学 ダイバーシティ部門 助教 河野 禎之	筑波大学 数理物質系 准教授 小林 正美	産業技術総合研究所 総務本部 ダイバーシティ推進室長 井出 ゆかり	日本アイ・ビー・エム株式会社 人事 ダイバーシティ企画 担当部長 梅田 恵

開催日時　平成29年 **12月27日㊌ 10:00 ～ 17：00**

メイン会場　筑波大学 筑波キャンパス 春日エリア 7A 205講義室

締切延長 15日（金）まで！

申込締め切り：平成29年12月8日(金)

主催：筑波大学・つくば女性研究者支援協議会
後 援：茨城県教育委員会、つくば市教育委員会

募集人数　女子中高生 保護者・教員　定員 **90名**

参加費　**無料**

※応募者多数の場合には抽選で決定します。
※ランチ懇談会がありますので、各自お弁当を持参して下さい。

「思い描こう、語り合おう、体験しよう、未来を！－悩めるリケジョと家族のために」は、国立研究開発法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の受託事業です。

②「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」連絡協議会（報告資料）

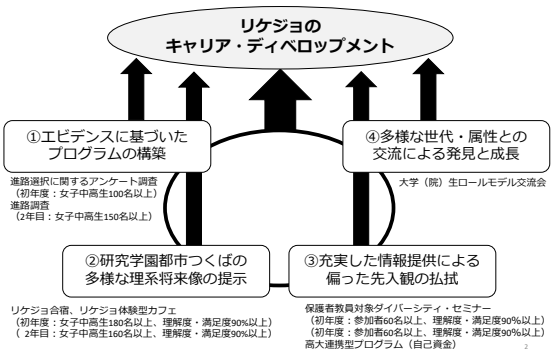
平成29年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム
全体報告会　実施報告（筑波大学）

思い描こう、語り合おう、体験しよう、未来を！
―悩めるリケジョと家族のために―

筑波大学　ダイバーシティ･アクセシビリティ･キャリアセンター
ダイバーシティ部門　河野禎之（Yoshiyuki KAWANO）

平成30年2月4日（日）

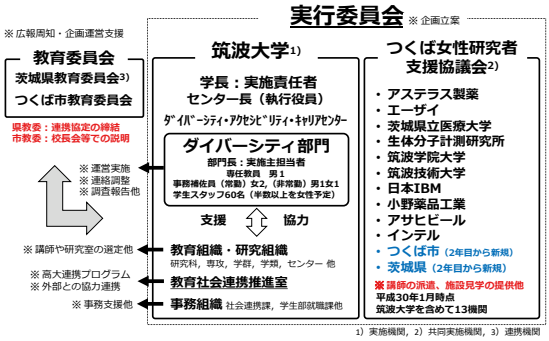
企画の目的・目標



企画の概要（全体像）

- **女子中高生への取組**
  - 進路に関するアンケート調査（参加者100名以上 → 185名に実施済）
  - 進路調査（追跡調査）（参加者150名以上 → 191名に実施済）
  - リケジョサイエンス合宿、リケジョ体験型カフェ
    （1年目：参加者180名以上 → 145名に実施済、理解度・満足度 → 95%以上）
    （2年目：参加者160名以上 → 128名に実施済、理解度・満足度 → 100%）
  - 大学生・大学院生ロールモデル交流会
  - ニュースレターの発行
  - 高大連携型プログラム（自己資金）
- **保護者・教員への取組**
  - 保護者・教員対象ダイバーシティ・セミナー
    （1年目：参加者60名以上 → 38名に実施済、理解度・満足度 → 100%）
    （2年目：参加者60名以上 → 37名に実施済、理解度・満足度 → 100%）

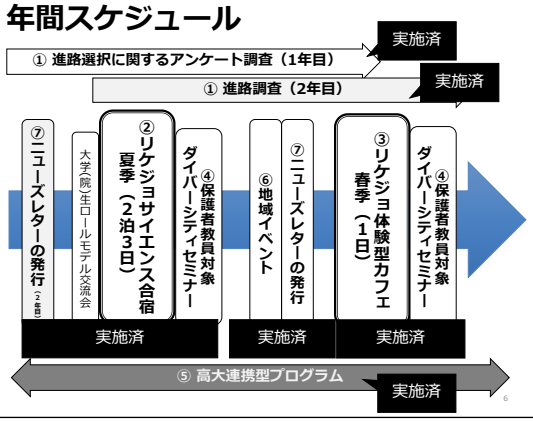
実施体制



実施体制を活用した広報活動と参加必須機関の役割

- **企画情報等が参加者に周知される仕組み・工夫**
  - 筑波大学による全国の学校への郵送周知
  - 支援協議会による周知（商業/公共施設での配布）
  - 校長会や地元中学・高校への訪問説明会の実施
  - Webによる周知と口コミ（HP、Facebook等）
- **成果の普及・展開に関する周知の仕組み・工夫**
  - 他企画との積極的な連携
    - ✓ 県や市主催のリケジョイベントへの協力と周知
  - フィードバックの重視
    - ✓ 校長会や地元中学・高校への訪問説明会の実施
- **教育委員会及び企業の参画内容**
  - 教育委員会：協定に基づく意見交換と広報、後援
  - 企業：ロールモデルの派遣、見学施設・実験の提供

年間スケジュール



特徴的なイベントとその効果

リケジョサイエンス合宿（夏季）

２泊３日合宿形式のプログラム（8月2日～4日）
（参加者：中学生42名、高校生55名、合計97名）

- **本学所属の女性研究者 9名によるロールモデル紹介とテーブルトーク**
- **14分野の研究室による多彩なサイエンス実験体験のメニュー**

→ **多彩な理系の魅力を直に伝える**

特徴的なイベントとその効果

リケジョサイエンス合宿（夏季）

- **合宿中は様々な場面で大学生や大学院生が共に時間を過ごし、中高生同士の交流を促す**

学生スタッフを組織化
（大学生・大学院生ロールモデル交流会）
女子学生がホテルで交流会を主催したり、同室で宿泊しながら学業や生活の相談にのる、等

→ **「タテのつながり」「ヨコのつながり」**
・身近なロールモデルの提示と仲間づくり

（2年目）大学生・院生との交流会を拡大

特徴的なイベントとその効果

リケジョサイエンス合宿（夏季）

1日目	
午後	**ロールモデル紹介**
	9名の女性研究者による研究やキャリア、に関する話題の紹介
	ラウンドテーブルカフェ
	9名の女性研究者とのグループ単位での座談会を実施（事前希望制）
	保護者・教員向けセミナー＆情報交換会
	保護者、中学・高校教員向けにセミナーと情報交換会を実施
夜	**大学生企画のロールモデル交流会**
	宿泊施設にて大学生企画による交流会
2日目	
午前	**サイエンス実験体験（1）**
	14研究室による実験体験（事前希望制）
午後	**サイエンス実験体験（2）**
夜	**大学生企画のグループワーク**
	2日間の体験を通じて得たことを大学生のファシリテートによりグループでまとめる

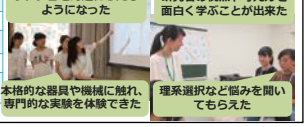
3日目	
午前	**グループワーク発表会**
	グループワークでまとめた成果を発表。保護者も参加
	大学生・大学院生との交流会
	大学生、大学院生と自由に交流。大学生側はファシリテーションの指導を受講済。

ラウンドテーブルカフェ、ロールモデル紹介、実験体験、交流会・・・

発見と交流の場

リケジョを身近に思えるようになった

研究者の視点や考え方を面白く学ぶことが出来た



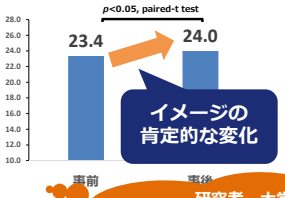
本格的な器具や機械に触れ、専門的な実験を体験できた

理系選択など悩みを聞いてもらえた

特徴的なイベントとその効果

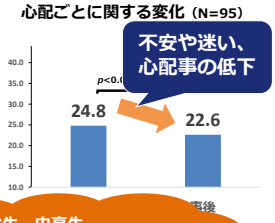
リケジョサイエンス合宿（夏季）

理系の研究や理系の女性研究者に対するイメージの変化（N=91）



イメージの肯定的な変化

文理選択に感じる不安や迷い、心配ごとに関する変化（N=95）



不安や迷い、心配事の低下

研究者－大学生－中高生

多世代を繋ぎ循環する仕組みへ

中高生「大学生になったら」～大学生/大学院生「就職したら」

特徴的なイベントとその効果

リケジョ体験型カフェ（冬季）

日帰りによるプログラム（12月27日）

- **つくば女性研究者支援協議会に参加・連携する研究所や企業による施設見学と女性研究者によるロールモデル紹介/テーブルトーク**
  - ✓ **様々な分野で活躍する女性研究者像の提供**
  - ✓ **研究学園都市つくばの強み**

講師派遣協力機関（順不同）

アサヒグループホールディングス（株）、日本IBM（株）、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、茨城県立医療大学、物質・材料研究機構

特徴的なイベントとその効果

リケジョ体験型カフェ（冬季）

体験型プログラム（施設見学・施設体験）を組み入れ、多彩で最先端の「理系」を体験

森林総合研究所
生物多様性別棟

産業技術総合研究所
地質標本館

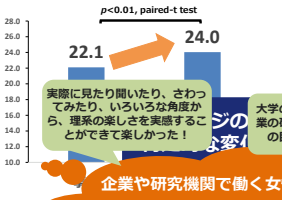
物質・材料研究機構
超電導セラミックス棟

女性研究者や女子大学生・大学院生とのランチ懇談会を実施し、身近にロールモデルを提示

特徴的なイベントとその効果

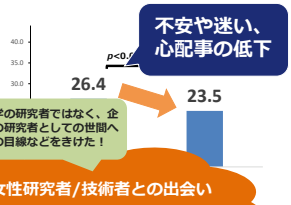
リケジョ体験型カフェ（冬季）

理系の研究や理系の女性研究者に対するイメージの変化（N=28）



実際に見たり聞いたり、さわってみたり、いろいろな角度から、理系の楽しさを実感することができて楽しかった！

文理選択に感じる不安や迷い、心配ごとに関する変化（N=28）



不安や迷い、心配事の低下

大学の研究者ではなく、企業の研究者としての世間への目線などをきけた！

企業や研究機関で働く女性研究者/技術者との出会い

多彩な将来像とキャリアパスを学ぶキャリア教育プログラムに

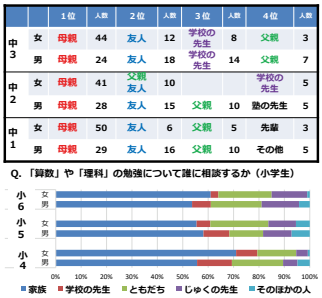
どのような進路で今に至っているのかを丁寧に教えてもらえてとても助かった！

仕事と母の両立の話が聞けてよかった。理系の企業のイメージが掴めて嬉しかった

特徴的なイベントとその効果

進路に関するアンケート調査（1年目）

Q. 進路について誰に相談するか（上位項目）



		1位	人数	2位	人数	3位	人数	4位	人数
中3	女	母親	44	友人	12	学校の先生	8	父親	3
	男	母親	24	友人	18	学校の先生	14	父親	7
中2	女	母親	41	父親 友人	10			学校の先生	5
	男	母親	28	友人	15	父親	10	塾の先生	5
中1	女	母親	50	友人	6	父親	5	先輩	3
	男	母親	29	友人	16	父親	10	その他	5

Q.「算数」や「理科」の勉強について誰に相談するか（小学生）

		1位	人数	2位	人数	3位	人数	4位	人数
高3	女	母親	44	友人	12	学校の先生	8	父親	3
	男	母親	24	友人	18	学校の先生	14	父親	7
高2	女	母親	41	父親 友人	10			学校の先生	5
	男	母親	28	友人	15	父親	10	塾の先生	5
高1	女	母親	50	友人	6	父親	5	先輩	3
	男	母親	29	友人	16	父親	10	その他	5
中3	女	母親	40	友人	16	先輩	5	父親	4
	男	母親	40	友人	10	父親	9	その他	5
中2	女	母親	43	友人	11	父親	10	塾の先生	3
	男	母親	38	友人	14	父親	8	その他	3
中1	女	母親	58	友人	12	父親	3	――	1
	男	母親	39	父親	18	友人	7	その他	3

中高一貫校のデータ（一昨年度実施）

母親（家族）が相談相手で男女・学年問わず最多

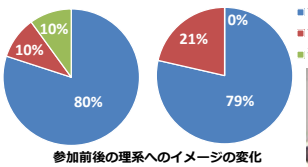
特徴的なイベントとその効果

保護者・教員セミナー（夏季・冬季）

保護者と教員向けに夏季と春季に実施

参加者（夏季）保護者・教員20名、（冬季）17名

- **質疑応答を中心に、特に母親からの不安や疑問に大学教員・研究者が丁寧に対応。**
  - → **子どもの理系への興味を伸ばすよう啓発**



参加前後の理系へのイメージの変化

特徴的なイベントとその効果

保護者・教員セミナー（夏季・冬季）

企業や研究機関での女性研究者の現状を伝える

→ 理系の女性を積極的に求めている理由や仕事と生活を両立させる支援制度等の説明も

保護者や教員向け理科実験の実演

→ **大学研究者視点での実験**

保護者：科学の面白さの発見

（特に文系の場合）

保護者/教員が理系と出会い直すプログラムへ

教員：理科教育の新しい視点の発見

→ 県教委との連携のほか、中学・高校の校長、教頭、理科教員との意見交換（合計10名以上）

委員会コメントに対しての対応状況

「企業の研究所や公立の研究所などと連携し、地域性を活かした運営組織体制のため、継続性が期待できる。更に、大学内・地域内・中学高校関係者に取り組みを定着させていく姿勢を大切にして欲しい。エビデンスを伴った取り組みを進めようとしているが、教育委員会と連携してアンケートの実施校を地元の中学や高校へ広げるなど、信頼性の高いエビデンスとする工夫が必要である。合宿型以外の取り組みや保護者・教員向けのプログラムでは、保護者や教員が集まる場や日程等を教育委員会と調整していくなど、集客数を高めて頂きたい。」

- **学内や地域内、中学高校関係者への浸透度は高く、自治体も正式に参画したため次年度以降も継続実施予定**
- **アンケート項目については他大学へ提供し、より広く活用できるよう工夫**
- **保護者や中学高校教員が集まる場や日程等については県教委・市教委等との調整をもとに12月27日に試行**
  - ✓ 近隣の中高生よりも遠方からのニーズが高い（つくば市近隣は普段から機会がある）→ 次年度以降の参考

17

追跡調査

H25～28年度の合宿・カフェ参加者のうち、高校卒業年齢の
191名に郵送で調査（回答はWEB）

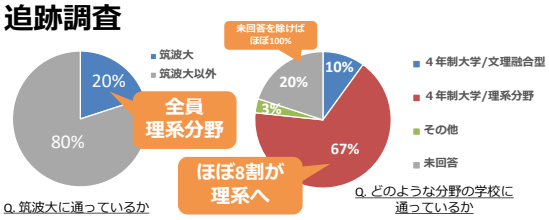
30名（H30.1.15時点、回収率15.7%、全員大学へ）

質問項目

- 現在の状況（働いている／学校に通っている／その他）
- 筑波大に通っているか／筑波大学以外か
- どのような分野の学校／学部に通っているか
- 筑波大のリケジョイベントは進路を考える（あるいは考え直す）きっかけになったか／助けになったか
- 現在の進路にどのような影響を与えたと思うか
- 特に印象に残っているエピソードは何か
- イベントに参加してよかったか　等

18

追跡調査



Q. 筑波大に通っているか

Q. どのような分野の学校に通っているか

Q. 進路を考える（あるいは考え直す）きっかけになったか **80.0**% まあまあ/きっかけとなった

Q. 進路を考える（あるいは考え直す）助けになったか **90.0**% まあまあ/助けとなった

Q.現在の進路にどのような影響を与えたと思うか **83.3**% とても/少し/良い影響を与えた

宿泊で学年関係なく仲良くなれた。同世代の人が刺激になった

理系の内容が自分に合っているのか、確かめられた

大学生との話を通じて明確に自分の未来の姿を描けるようになった

解釈に限界はあるが
期待以上の成果

支援終了後の課題と構想

参加者の確保（特に宿泊型以外）

- 生徒のプレゼン等（例：SSH採択校との連携）による双方向のコンテンツの必要性（→ 県側と検討開始）
- つくば市近隣以外の生徒/保護者/教員の参加ニーズ把握（つくば市は日常的に出前講義等があるため）

事業の継続実施に向けて

- 財源縮小はあるが実施体制は継続するため、合宿に資源を集中させ実施予定（初日をシンポジウム形式へ）
- 学生スタッフの組織化を一層促進し、世代の循環による取組の定着を図る
- 学内の概算要求やエクステンション・プログラムの他、県/市と事業継続に向けた予算等の検討を開始

20

③リケジョ応援カフェ

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	リケジョ応援カフェ
実施日	2017年７月３日（月）11:00～12:00、７月27日（木）13:00～14:00、 ８月31日（木）16:00～17:00、11月30日（木）13:30～14:30、 12月13日（水）15:30～16:30、12月14日（木）10:39～11:00
場所	筑波大学　スチューデントプラザ２Ｆほか
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・(その他（懇談会）) 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	一般　研究者　(学生)　その他（　　）
来場者	人数：延べ76名（内女性：65名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	筑波大学の学生を対象として、女子学生、特に理系の女子学生を応援することを目的とした「リケジョ応援カフェ」を今年度も継続しました。特に、理系に進む女子中高生の後押しをする活動に関わってきた学生を中心に、男女・分野を問わず、参加者を募りました。今年度は６回の集まりを通して延べ76名の参加者が集いました。集まりの中では、なぜこうした活動が必要なのか、活動を通じてどのような変化が期待されるのか等について話し合う機会を設け、学類生から大学院生までのさまざまな領域の学生同士でグループワーク等を重ねました。 次年度以降も、女子中高生に対する次世代育成の活動を継続しながらネットワークを広げることを目指しつつ、今後は、さらに企業を含めたさまざまな女性研究者・技術者と交流する場を設け、参加する学生自身の将来に向けたキャリア形成に役立てられるように取組を進めていく予定です。

④学群総合科目・大学院共通科目

ダイバーシティ部門では、学群生を対象とした学群総合科目を春学期と秋学期にそれぞれ開講しています。また、大学院生を対象とした大学院共通科目を夏期及び春季集中授業として開講しています。いずれの授業においても、男女共同参画のほか、障害や文化、LGBT等といった様々な分野でのダイバーシティ推進に関する課題を学生と共有し、その解決に向けて学生が主体的に考え、行動することを目指しています。

授業科目名	ワーク・ライフ学　－男女共同参画とダイバーシティ－		
科目番号	1226011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	１年次	時間割	春 AB 木 6
授業内容	**第１回［ガイダンスおよび授業概要］** ワーク・ライフ学を学ぶことの意義、授業全体の概要の説明、受講にあたっての注意点等について説明します。 **第２回［ワーク・ライフ・バランスとは何か］** 近年の社会経済構造の変化と共に、人々の働き方や生活のスタイルの変化を考察します。その上で、ワーク・ライフ・バランス概念を軸に、何が議論されているかを学びます。 **第３回［ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画］** 近年の社会経済構造の変化と共に、人々の働き方や生活のスタイルの変化を考察します。その上で、ワーク・ライフ・バランス概念を軸に、とくに男女共同参画の点から考えていきます。 **第４回［ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ］** 近年の社会経済構造の変化と共に、人々の働き方や生活のスタイルの変化を考察します。その上で、とくにLGBTを含めたセクシュアル・マイノリティに関するダイバーシティの観点から考えていきます。 **第５回［ワーク・ライフ・バランス施策の実際１］** 外部講師をお招きし、企業におけるワーク・ライフ・バランス施策の現状と将来展望について学びます。そして、経営戦略という視点から、「ワーク・ライフ・バランス」を理解します。 **第６回［ワーク・ライフ・バランス施策の実際２］** 外部講師をお招きし、企業におけるワーク・ライフ・バランス施策の現状と将来展望について学びます。そして、経営戦略という視点から、「ワーク・ライフ・バランス」を理解します。 **第７回［多様化するライフコース/ワークスタイル］** 外部講師をお招きし、近年の新たな事業活動のキー概念ともなりつつある社会貢献型事業活動を展開する企業や個人の事例を学びながら、多様な働き方の中で生き抜く力を養います。 **第８回～第９回［ワーク・ライフ・バランスの実践に向けて１～２］** これまでの授業を踏まえながら、現代社会のワーク・ライフ・バランスの施策の問題点や、我々のライフコースへの影響についてグループディスカッションを行い、プレゼンテーションとしてまとめます。 **第10回～第11回［ワーク・ライフ・バランスの実践に向けて３～４］** グループディスカッションを通して得られた成果をプレゼンテーションとして発表するとともに、他のグループと積極的な意見交換を行い、さらに議論を深めます。最後に、本授業を経て、自分の考えがどのように変化したのかを中心としたレポートを課します。		

授業科目名	ダイバーシティスタディーズ入門		
科目番号	1B26101	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2年次	時間割	秋 AB 月 2
授業内容	**第1回［イントロダクション＋グローバル化時代のダイバーシティ］** 授業の狙い、ダイバーシティスタディーズの意義などについて概説します。グローバリゼーションの進化に伴って複雑化する、国家や社会の多様性について考察を加えます。 **第2回［ダイバーシティと公共］** 国際的な人の移動の活性化が、どのような公共政策的な課題を生み出しているのかを考えます。 **第3回［実践への導入（2）ダイバーシティと市民社会組織］** ダイバーシティをめぐる諸問題に対する市民社会組織（e.g. NGO）による実践的取り組みを学びます。 **第4回［実践への導入（1）ダイバーシティと企業］** ダイバーシティをめぐる諸問題に対する民間企業の実践的取り組みを学びます。株式会社電通からゲストスピーカーも招きます。 **第5回［ダイバーシティと障害］** ダイバーシティと障害（とくにインクルーシブ教育）との関係、そのための支援や対応のあり方を学びます。 **第6回［ダイバーシティと社会福祉］** ダイバーシティの問題について、社会福祉の観点から、その実践的取り組みを多角的に学びます。 **第7回［ダイバーシティと福祉と経済］** ダイバーシティをめぐる諸問題について、福祉の視点、経済の視点、経営の視点から検討します。 **第8回［ダイバーシティと性］** LGBTなど性に関するダイバーシティの課題について理解を深めます。 **第9回［グループディスカッション］** プレゼンテーションの準備作業の一環として、各グループが設定した課題についてグループごとに討議します。 **第10回〜第11回［総括］** 各回講義の内容を結びつけ、体系的な理解を促します。グループごとにプレゼンテーションを行います。コメンテーターも置きます。試験に代えてレポートを課します。		

平成29年度 大学院共通科目【01ZZ503】

科目名「ダイバーシティと男女共同参画Ⅰ」

ダイバーシティ × インクルージョン

学群生も参加歓迎！

講演部分のみ参加も可！

さまざまな可能性（多様性）の中で働くこと、生きることを知ろう！

※ 要事前申し込み。詳しくは下記参照。なお、学群生及び講演のみの参加の場合は単位は出ません。

9月11日（月）10時～17時30分 @3B棟213

ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティを理解するための講義とグループワーク

9月12日（火）10時～17時30分 @3B棟213

午前：セクシュアル・マイノリティに関する講義とグループワーク

午後：（講演）セクシュアル・マイノリティに関する講演（テーマと講師は下記参照）とグループワーク

講演「SOGI/LGBTとダイバーシティ」

松中 権　**認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ 代表**

履修登録期間：9月6日(水)まで　担当教員：河野禎之（ダイバーシティ部門）

履修の問い合わせ：大学院共通科目事務室　ggec@un.tsukuba.ac.jp

★ 学群生の受講希望や講演部分のみの参加希望はダイバーシティ部門HPより事前申し込みをお願いします。

★ 大学院共通科目の単位履修のためには２日間の出席を前提とします。

「筑波大学　ダイバーシティ」で検索　または　http://diversity.tsukuba.ac.jp/

平成29年度 大学院共通科目【01ZZ520】

ダイバーシティと男女共同参画 II

ダイバーシティ × ワークライフバランス

学群生も参加歓迎！

セミナーのみ参加も可！

さまざまな違いを価値に変え、新たな可能性を拓こう！

※ 要事前申し込み。詳しくは下記参照。なお、学群生及びセミナーのみの参加の場合は単位は出ません。

2月22日（木）10時～17時 @大学会館 マルチメディアルーム

ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティの基礎を理解するための講義とグループワーク1

2月23日（金）10時～14時 @大学会館 マルチメディアルーム

ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティの基礎を理解するための講義とグループワーク2

2月23日（金）15時～17時 @大学会館 国際会議室

＜セミナー＞　講師：**中谷 文美** 氏（岡山大学副学長）

オランダ流ワーク・ライフ・バランスに見る、＜人生＞と＜仕事＞の関係

履修登録期間：2月16日(金)まで　担当：河野禎之、秋保さやか（ダイバーシティ部門）

履修の問い合わせ：大学院共通科目事務室　ggec@un.tsukuba.ac.jp

★ 学群生の受講希望やセミナーのみの参加希望はダイバーシティ部門HPより事前申し込みをお願いします。

★ 大学院共通科目の単位履修のためには2日間の出席を前提とします。

「筑波大学　ダイバーシティ」で検索　または　http://diversity.tsukuba.ac.jp/

⑤次世代キャリア支援セミナー

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	次世代キャリア支援プログラム 研究者という職業～わくわくを仕事に～
実施日	2017年 9 月11日（月）15:00～17:00
場所	筑波大学　3B213
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	一般　研究者　(学生（大学院生))　その他（　　）
来場者	人数：39名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　メール発信
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	学類生、大学院生を対象に、第一線で活躍する研究者の方々を招いて次世代キャリア支援セミナー【研究者という職業～わくわくを仕事に～】を開催しました。 社会人経験を積んでから研究を行っている方や、海外での生活経験がある方など、様々な連携大学院や筑波大学の研究者にご登壇いただき、働き方やキャリアパスについて講演を行いました。 後半、ラウンドテーブル形式で自由に意見交換を行う時間帯には、活発な質疑応答が交わされ、時間終了後にもフリートークが続くなど、日頃中々接することの無い研究者と直接対話の時間が好評でした。 参加者からは、「研究者や社会人としてのキャリアパスの多様性を知る事ができた」、「自分の進路について考えるキッカケになった」、「様々な研究者の方からのお話を聞く機会が少なかったのでとても貴重な経験となった」などの声が寄せられました。 「もっと多くの方から話を聞きたかった」という意見と、「少数の方の話をもっとじっくり聞きたかった」という対照的な感想が寄せられ、今後は別イベントとして企画する事も検討しています。

学内イベント
全学年対象！

次世代キャリア支援セミナー
研究者という職業
-わくわくを仕事に-

Career × life
Balance

研究者ってどんな職業だろう？
第一線で活躍する研究者のキャリアパスや働き方について話を聞き、キャリアデザインについて考えてみよう！

研究職に関心がある学生、大学院進学に興味がある学生、将来のライフイベントとキャリアの両立について先輩研究者に相談したい学生、大歓迎です！

◆プログラム内容◆
・社会工学、ナノサイエンス、国際政治経済等の研究者による
　研究・キャリア・生活に関するプレゼンテーション
・個別相談会・座談会（キャリアや進学の質問・相談等）

9月11日（月） 15:00～17:00

場所	3B213
対象者	学類生、大学院生
申込み	ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門 TEL 029-853-8504 当日参加も可　事前登録はこちら（QRコード）から

女子学生の皆さんの
キャリアに対する疑問や
お悩みにもお答えします！

⑥博士・ポスドクのためのキャリアデザインイベント

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	博士・ポスドクのためのキャリアデザインイベント 第１回「納得のいく進路選択・キャリアデザインを考える」 第２回「博士人材の多彩な働き方について知る ～アントレプレナーシップ・マインドのすすめ～」 第３回「インターンシップ説明会と企業との交流会」
実施日	第１回　2017年12月８日（金）18:00～19:40 第２回　2018年１月16日（火）16:00～18:00 第３回　2018年２月21日（水）13:00～16:30
場所	第１回、第２回　筑波大学総合研究棟Ａ棟110公開講義室 第３回　オークラフロンティアホテルつくば
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・(講演会)・ワークショップ・(その他（ポスター発表）) 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般) 研究者 (学生（大学院生)) その他（　　）
来場者	第１回　61人（内訳：学群生９名、大学院生51名、卒業生１名） 第２回　25人（内訳：学群生１名、大学院生23名、その他１名） 第３回　29人（内訳：学群生２名、大学院生27名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース (HP) (メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容 効果	博士・ポスドク及び研究者支援のためのキャリア形成支援に資することを目的に３回に分けてイベントを実施しました。 第１回、第２回では現在活躍中の方々にご講演いただき、多様なキャリアパス（就職、進学、博士、アカデミック、ノンアカデミック等）の現状や可能性を知り、納得のいくキャリアを描くための知見を得る機会とし、インターンシップへの参加への促進も行いました。 第３回では３部構成とし、第１部では企業からのプレゼンテーション、第２部では学生によるポスター発表、第３部では企業と学生の交流会を実施しました。学生からは「今まで知らない世界をみることができた」等、ポスター発表した学生からは「有益な情報交換ができ、自分の専門とマッチングする企業を見つけた」等、満足も高い結果となりました。一方、企業様からは「一見すると別分野と思われる研究の中に、当方の研究分野につながる研究をされていることに気づかせていただいた」「非常に効率的にマッチングが行えた」等の感想をいただくことが出来ました。

博士・ポスドクのための キャリアデザインイベント

自分の専攻や研究はどう社会で役に立つ？？
今後の進路は？就職？進学？博士？アカデミック？ノンアカデミック？？
自分自身にぴったりなキャリアを描くために、ぜひご参加ください！
大学院進学を考えている学群生にもオススメです。
事前申込で書籍プレゼント！！

学群生・修士学生も歓迎！

＜第１回：納得のいく進路選択・キャリアデザインを考える＞

日時：　２０１７年１２月８日（金）１８：００～１９：４０
場所：　総合研究棟A棟110
【第１部】18：05～18：25　アカリク講演「納得のいく進路選択をするために」
【第２部】18：25～19：00　吉田塁 氏講演「自分のキャリアは自分で切り拓く」
19：00～19：20　質疑応答
【第３部】19：20～19：40　中長期インターンシップのすすめ・その１
対象：　全学生、ポスドク、教職員

★予約期間：11/17～12/4★　★事前予約された方限定！書籍プレゼント！★
A：アカリク『大学院生、ポスドクターのための就職活動マニュアル 改訂新版』
B：東田佳代子監修『博士になったらどう生きる？』　※数量限定　※AかBどちらか選択

≪株式会社アカリク≫
博士人材や研究者と産業界をつなぐパイオニア。
高度研究機関である大学院・その他研究機関において日々産み出される「知恵」を広く社会・産業界につなぐことで価値を創出し、「知恵の流通」の最適化に貢献していくことを目指している。

≪吉田　塁 氏≫ 東京大学教養学部特任助教
東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了、博士（科学）。アメリカでの留学を経験。2015年より現職。専門分野は教育工学、高等教育開発（生体医工学から教育学へ専門を大きく変更）。
著書：「博士になったらどう生きる？」「スーパープログラマーに学ぶ 最強シンプル思考術」

申込先：就職情報提供システム（ http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/ ）
※就職情報提供システム内の「ガイダンス等及び模擬試験登録・申請」より入力。
システム使用できない方は、イノベーション人材開発室（E-mail: career@un.tsukuba.ac.jp ）までメールにて申請してください。

問合せ先：ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（029-853-8503）

博士・ポスドクのための キャリアデザインイベント

博士人材の多彩な働き方について知る

学群生 修士学生も歓迎！

～ アントレプレナーシップ・マインドのすすめ ～

2018年 1月16日(火) 16:00~18:00　@総合研究棟A110

プログラム

講演1 (16:05~)　「だから博士はおもしろい!?　『博士世界』の編集から見えたリアル」
「博士世界」編集長　大上真礼氏
東京大学理科Ⅱ類に入学、教育学部を卒業。現在は同大学院博士課程に所属し、和洋女子大学の助手を務めている。専門は臨床心理学。2016年より、リーディング大学院などで出会ったメンバーと共に博士課程についての情報収集・発信を目的とした雑誌「博士世界」の編集・発行を行っている。

講演2 (16:35~)　「企業で活かす研究力を磨くには　~社会人博士という選択~」
KDDI 技術企画本部 技術開発戦略部　茂木信二氏
筑波大学第三学群基礎工学類、同大学工学研究科物理工学専攻修了（工学修士）後、1999年4月にKDDI株式会社（現KDDI株式会社）入社。社会人博士として大阪大学大学院情報科学研究科情報ネットワーク学専攻修了（情報科学博士）。プラットフォーム開発本部、コンシューマ事業企画部などを経て現在に至る。

講演3 (17:05~)　「筑波大発アカデミックベンチャー　“日本で唯一！”への挑戦」
株式会社塚原牧場取締役　塚原昇氏
千葉大法経学部卒業後、ベンチャーキャピタルに入社。実家が経営する養豚業のブランド豚「梅山豚」部門の子会社を買い取り独立。ブランド豚での成功を目指し、筑波大学環境科学研究科に入学し、リサイクル飼料を学ぶ。ブランド豚「梅山豚」の飼育・販売に日本で唯一成功。同大学大学院ビジネス科学研究科単位取得退学。

17:35~　中長期インターンシップのすすめ・その2

事前申込期間 11/17 ~ 1/10　★★事前申込特典 雑誌「博士世界」1~5号プレゼント★★

申込先：就職情報提供システム（http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/）
※就職情報提供システム内の「ガイダンス等及び模擬試験登録・申請」より入力。
システム使用できない方は、イノベーション人材開発室（E-mail: career@un.tsukuba.ac.jp）までメールにて申請してください。
問合せ先：ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(TEL 029-853-8503)

自らの手で
チャンスをつかんでみませんか？

参加者募集中

インターンシップ説明会と企業との交流会

2018年 2月 21日（水）　13:00~17:00

会場：オークラフロンティアホテルつくば

産業界や自分自身について知る絶好のチャンスです！

- ☑ 各分野のリーディング企業の研究者や人事担当者と直接話すチャンス
- ☑ インターンシップに参加するチャンス
- ☑ ポスター制作過程において自己理解を深めるチャンス
（DACセンターが万全の体制でポスター制作をサポート！）
- ☑ ポスター発表で企業に自分を売り込むチャンス
- ☑ 女性活躍推進企業の情報を得るチャンス

プログラム（受付開始）
第１部（13:00~）　企業によるプレゼンテーション
第２部（14:20~）　学生による自己PR(ポスター発表)
第３部（15:35~）　企業と学生の交流会（各社ブースにて）
※軽食付き

参加対象
◆第１部・第３部：学群生、大学院生（前期・後期）、ポスドク　70名
◆第２部：学群４年生、大学院生（前期・後期）、ポスドク　30名
※事前申込制です。申込時に参加希望の部をお知らせください。

参加企業　産学協働イノベーション人材育成協議会会員企業、ダイバーシティ推進企業（日本IBM、産総研など）から10社程度

＜産学協働イノベーション人材育成協議会会員企業＞
花王（株）、京セラ（株）、JNC（株）、シスメックス（株）、（株）島津製作所、清水建設（株）、住友化学（株）、住友電気工業（株）、住友電装（株）、住友理工（株）、住友林業（株）、ダイキン工業（株）、大日本印刷（株）、（株）竹中工務店、（財）電力中央研究所、東レ（株）、（株）巴川製紙所、（株）日本触媒、日本ゼオン（株）、（株）日本総合研究所、日本電信電話（株）、パナソニック（株）、日立化成（株）、富士フイルム（株）、三菱重工業（株）、三菱電機（株）、（株）村田製作所、ヤフー（株）、楽天（株）、（株）リコー、ロート製薬（株）、（株）ソニー、
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

事前申込の締切、延長しました！

申込み方法　第１部、３部　2/14 予約〆切
第２部　1/31 予約〆切
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/
筑波大学キャリアサポート部門・就職課ＨＰ「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録

＜ポスター発表に対するサポート＞
作成にあたっての個別相談
印刷はDACセンターが担います

問合せ先：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
電話：029-853-8503　E-mail：career@un.tsukuba.ac.jp

7. LGBT等への対応

筑波大学では、平成27年度よりLGBT等[1]のセクシュアル・マイノリティの学生に対して、これまでの個別対応から、大学として支援の取組を始めました。

具体的には下記のような取組を開始しています。

●相談窓口の設置
●授業やセミナー、学内FD等での啓発
●基本理念と対応ガイドラインの作成
●アライ（ALLY）グッズの作成　等

とくにトランスジェンダーや性別に違和を持つ学生には、次のような点についてこれまでも対応しています。
○氏名の取扱い　○名簿等における性別の取扱い
○使用トイレ　　○健康診断
○教育実習やインターンシップ　○キャリア相談、就職相談など

■授業・セミナー・FD実績

授業として、学群総合科目「ワーク・ライフ学　－男女共同参画とダイバーシティー」（春学期）や学群総合科目「ダイバーシティスタディーズ入門」（秋学期）、大学院共通科目「ダイバーシティと男女共同参画Ⅰ」（夏期集中）、大学院共通科目「ダイバーシティと男女共同参画Ⅱ」（春季集中）を実施しました。

そのほか、平成29年３月に策定・公表した「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」の周知のため、学生生活関係教職員研修会（９月20日）、体育センター（１月10日）、学生部／DACセンター（２月14日、27日）、学生相談室（３月１日）にて説明会を実施しました。また、ダイバーシティ Awareness Week 2017では、学生企画の意見交換会「Blending Colors」と、認定NPO法人グッド・エイジング・エールズとの共催で「OUT IN JAPAN @ 筑波大学」を開催しました。さらに学外での活動として、IBM ALLY FORUM 2017（６月16日）、DSO（Diversity Support Office）総会（９月７日）、RAINBOW CROSSING TOKYO 2017（10月21日）、法政大学ダイバーシティ推進シンポジウム（10月27日）、森林総合研究所エンカレッジ推進セミナー（２月15日）にて本学の取組について講演を行い、積極的な情報発信と情報共有に努めました。

[1] LGBT等とは、Lesbian（レズビアン）・Gay（ゲイ）・Bisexual（バイセクシュアル）・Transgender（トランスジェンダー）及び性別に違和をもつ人を含め、多様なセクシュアリティの人を指しています。

実施報告書

プログラム	筑波大学第３回全学FD研修会
課題名	LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドラインの策定について
実施日	2017年５月９日（火）15:15～17:15
場所	筑波大学　総合研究棟Ａ　110公開講義室
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	(一般)　(研究者)　(学生（大学院生）)　(教職員)
来場者	人数：89名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門長　山口　香
内容	永田恭介学長の挨拶から始まり、基調講演では、虎井まさ衛氏（立教大学文学部兼任講師、東京学芸大学非常勤講師）をお招きし、「大学内の多様な性～トランスジェンダーを中心に～」をご講演いただきました。 虎井先生からは、LGBTの基本的な知識のほか、当事者としてまた立教大学での学生対応を通じて得られた知見を、わかりやすくお話しいただきました。LGBTと一口にまとめてしまう事への抵抗感や言葉掛けの注意点などを含め、対応に際してのアドバイスをいただき、組織としての心構えに繋がりました。 後半は、五十嵐浩也ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長より「LGBT等に関する筑波大学の基本理念」について、続けて「対応ガイドライン」については河野禎之ダイバーシティ部門助教より説明がありました。 参加者は教職員・学生だけでなく、学外からも90名程度の参加がありました。また学長、副学長を初め上層部や人事担当者も出席したことで、組織として本気で取り組んで行く課題である事を再確認する良い機会となりました。 更に質疑応答の時間では、学生と直接対応する教員や、事務手続きを担当する窓口の職員などから、対応等について積極的な質問があり、関心の高さが伺えました。 当部門では引き続きSOGI/LGBT等に関する啓発活動を実施していきます。

筑波大学第3回全学FD研修会　主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

LGBT等に関する
筑波大学の基本理念と対応ガイドラインの策定について

2017年５月９日（火）15時15分～17時15分
筑波大学　総合研究棟A 110公開講義室　※参加費無料

基調講演　「大学内の多様な性～トランスジェンダーを中心に～」

虎井 まさ衛 氏 立教大学文学部兼任講師・東京学芸大学非常勤講師

著述業。性同一性障害当事者・研究者・支援者のためのミニコミ誌『FTM日本』を16年間主宰。幼児期より性同一性障害に悩み、大学卒業後、渡米して性別適合手術を受け、その後1987年より、著述・講演など啓発活動を始める。『3年B組金八先生』第6シリーズへの協力以降、若い当事者とのかかわりが増え続けている

15:15～15:20　開会挨拶　　永田恭介　学長
15:20～16:10　基調講演　　虎井まさ衛 氏　立教大学文学部兼任講師・東京学芸大学非常勤講師
16:10～16:25　基本理念について　　五十嵐浩也 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア（DAC）センター長
16:25～16:55　ガイドラインについて　　河野禎之 DACセンター ダイバーシティ部門 助教（ガイドライン策定メンバー）
16:55～17:10　質疑応答
17:10～17:15　閉会挨拶　　玉川 信一　副学長（学生担当）

申　込：　下記のダイバーシティ部門HPにある申し込みフォーム、QRコードにて
締　切：　5月2日（火）当日参加歓迎（資料準備の都合により事前予約をお願いしています）
対象者：　筑波大学教職員、大学院生、大学生、学外関係者（**学外者は締切までにご登録をお願いします**）

★ 会場までのアクセス例（詳細は大学HPにてご確認ください）
つくば駅（つくばセンター）より、バス乗り場６番から
「筑波大学中央行き」か「筑波大学循環バス（左回り・右回り）」に乗り
「筑波大学中央」で下車。バス停から案内板に従って西へ進んでください。

問い合わせ先

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

申し込みフォームへ！

実施報告書

プログラム	筑波大学第７回全学FD研修会
課題名	SOGI/LGBTとダイバーシティ
実施日	2017年９月12日（火）14:00～15:30
場所	筑波大学　3B棟213（プレゼンテーションルーム）
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（　　）
対象者	(一般) (研究者) (学生（大学院生）) (教職員)
来場者	人数：57名
内容	松中権氏（認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ代表）を講師にお招きし、SOGI/LGBTの当事者の視点からお話しいただきました。当事者として具体的な心理状況を丁寧に解説いただいたことで、より身近な問題として参加者の関心を集めたようです。「友人として出来ることは何か」という質問にもわかりやすくご説明いただきました。アンケートの回答からは「ご本人からカミングアウトのプロセスや当時の葛藤をリアルにお話しいただくことで、SOGI/LGBTについての理解を深めることができた」「LGBTの人に対する思いが変わった」「LGBTの方々は、私たちと何も変わらないことを知った」など、これまでの見方、考え方、感じ方が変わり、これからの具体的な行動について知る機会となったことがうかがえました。

筑波大学第7回全学FD研修会　主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ

2017年 9月 12日（火）14時00分～15時30分
筑波大学 3B棟 2階 213（プレゼンテーションルーム）※参加費無料

SOGI/LGBT とダイバーシティ

SOGIとは Sexual Orientation（性的指向）とGender Identity（性自認）の頭文字をとり、性的指向・性自認の多様性を示すために使用され始めている呼称です

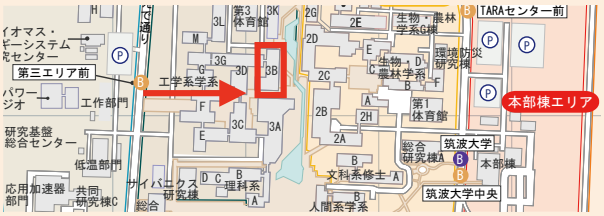
松中 権 氏 認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ 代表

1976年石川県金沢市生まれ。金沢大学附属高等学校、一橋大学法学部卒業後、株式会社電通に就職。海外研修制度にてNYのNPO関連事業に携わった経験をもとに、2010年、グッド・エイジング・エールズを仲間たちと設立。幅広い活動を通して、LGBTが素敵に歳を重ねていける社会づくりを目指す。2017年6月末に電通を退社し、二足のわらじ生活からNPO専任代表に。企業、自治体、教育機関でのLGBTに関する講演実績も多数。第7回若者力大賞ユースリーダー賞受賞。北國新聞アクタスにて連載コラム「となりのゲイリーマン」（2016年1月号～12月号）、著書に「LGBT初級講座　まずは、ゲイの友だちをつくりなさい」（2015年　講談社＋α新書）がある。

「カミングアウトは自分の心を開くきっかけ。心を開くと新しい可能性が飛び込んでくる。人生100年時代に、自分にしかない、自分らしい働きかた、生きかたを、一人一人が見つけられる社会になったらいいなと思っています。みんなで、いっしょに、お話ししましょう。」

申　込：　下記のダイバーシティ部門HPにある申し込みフォーム、QRコードにて
締　切：　9月 6日（水）※要事前予約
対象者：　筑波大学教職員及び学生、SOGI/LGBTに関心のある一般の方
✳ 大学院生は大学院共通科目として受講することも可能です。詳細は大学院共通科目HPを確認してください。

会場までのアクセス例
（詳細は大学HPにてご確認ください）
つくば駅（つくばセンター）より、バス乗り場６番から「筑波大学中央行き」か「筑波大学循環バス（左回り・右回り）」に乗り「第三エリア前」で下車。バス停から へ東へ進んでください。



問い合わせ先

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

申し込みフォームへ！

LGBT等*に関する
筑波大学の基本理念と対応ガイドライン

平成29年3月
国立大学法人 筑波大学

＊LGBT等とは、Lesbian・Gay・Bisexual・Transgender及び他のセクシュアリティを含む総称とします。

目 次

Ⅰ．筑波大学におけるLGBT等の性自認及び性的指向を理由とした差別の禁止及び解消に関する基本理念 …… 1
Ⅱ．現状での具体的対応と方針 …… 1
1 相談について …… 2
① 相談窓口 …… 2
② 相談後の流れ …… 2
＜コラム1＞ ～こんなことも相談できます～ …… 2
2 氏名・性別の情報とその管理について …… 3
① 氏名の変更 …… 3
② 性別の変更 …… 3
③ 性別情報の取扱い …… 3
④ 大学の発行する証書の性別記載 …… 4
＜コラム2＞ ～卒業・修了後の証明書発行における氏名の変更について～ 4
⑤ 大学に提出する諸書類における性別情報の記入 …… 4
＜コラム3＞ ～マイナンバーについて～ …… 5
3 授業について …… 5
① 体育実技の履修、更衣室、用具の配慮 …… 5
② 学外実習（教育実習等）の履修 …… 6
③ 授業におけるグループ分け …… 6
④ 外国語授業における呼称 …… 6
4 学生生活について …… 6
① 定期健康診断 …… 6
② 宿舎 …… 6
③ 多目的トイレ …… 6
④ 入学式・卒業式の服装と身なり …… 7
5 就活について、その他 …… 7
① 就職活動・インターンシップ …… 7
② 保健管理センター（精神科）及び学生相談等との連携 …… 7
Ⅲ．おわりに …… 8
Ⅳ．巻末資料（相談窓口一覧・LGBT等の相談窓口ポスター） …… 9

FD研修会開催のお知らせ

昨今、社会的課題として認識されているセクシュアル・マイノリティに関する問題について、その背景となる基本的事項を概説いただくとともに、平成29年3月に策定・公表した本学の基本理念と対応ガイドラインについて説明いただきます。

SOGI/LGBTに関する
筑波大学の基本理念と
対応ガイドライン

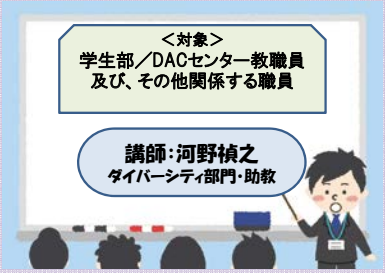
講師 **河野禎之（カワノ ヨシユキ）先生**
（ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門 助教）

2018年 1月10日（水）15:00-15:45
体育センター2階会議室

※ 本研修会は、体育センター教員を対象に開催いたします。
体育センター会議は，同日同場所で16:00～です．

問合せ先： 木内敦詞 内線2641 kiuchi.atsushi.fw@u.tsukuba.ac.jp

LGBT等に関する研修会



◇第1回：平成30年2月14日（水）
14:00～15:00 1C306教室
◇第2回：平成30年2月27日（火）
10:30～11:30 1D201教室

◇LGBTについて、本学のガイドラインに基づいた学生への対応等について説明します◇
※同内容を2回開催します。
いずれかにご参加ください。

担当：就職課／ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
企画調整係 中泉（内線5948）

TOKYO 2020 応援プログラム

ダイバーシティ Awareness Week 2017

OUT IN JAPAN @筑波大学

2017年 10月 6日（金）10時00分～17時00分
筑波大学 第三エリア食堂となりのラウンジ

- **認定NPO法人グッド・エイジング・エールズと共催**
- **プロジェクトを担当した写真家レスリー・キーによる写真のうち、30枚の当事者の写真とメッセージを展示**
- **多様なセクシュアリティの当事者の「姿」と「思い」に触れることのできる機会です**

問い合わせ先

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

Web動画も配信中

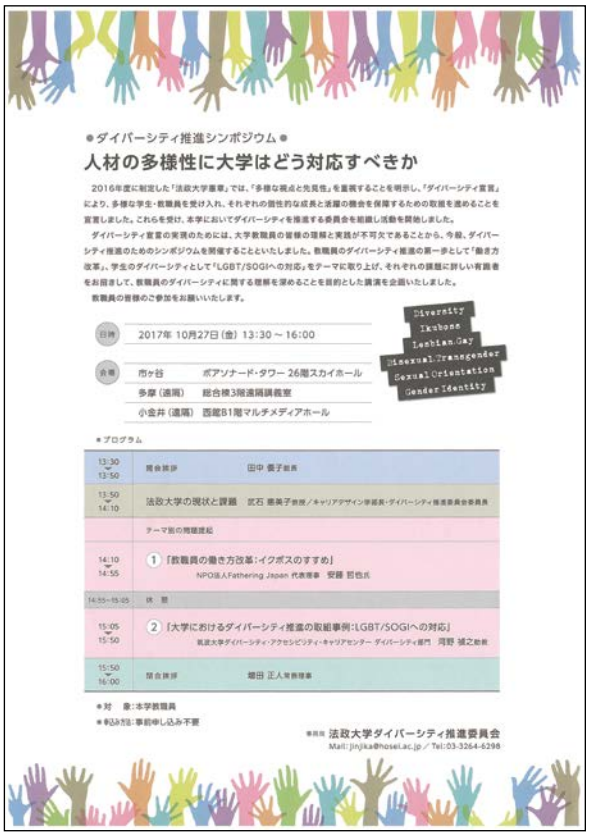
主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ

Blending colors

LGBTサークルによる意見交換会

2017年10月1日 (Sun)
@Biviつくば筑波大学サテライトオフィス
13:00-17:00 (12:30開場)

主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：筑波大学LGBTQAサークルにじひろ



●ダイバーシティ推進シンポジウム●

人材の多様性に大学はどう対応すべきか

2016年度に制定した「法政大学憲章」では、「多様な視点と先見性」を重視することを明示し、「ダイバーシティ宣言」により、多様な学生・教職員を受け入れ、それぞれの固性的な成長と活躍の機会を保障するための取組を進めることを宣言しました。これらを受け、本学においてダイバーシティを推進する委員会を組織し活動を開始しました。

ダイバーシティ宣言の実現のためには、大学教職員の皆様の理解と実践が不可欠であることから、今般、ダイバーシティ推進のためのシンポジウムを開催することといたしました。教職員のダイバーシティ推進の第一歩として「働き方改革」、学生のダイバーシティとして「LGBT/SOGIへの対応」をテーマに取り上げ、それぞれの課題に詳しい有識者をお招きして、教職員のダイバーシティに関する理解を深めることを目的とした講演を企画いたしました。

教職員の皆様のご参加をお願いいたします。

Diversity
Ikubosu
Lesbian.Gay
Bisexual.Transgender
Sexual Orientation
Gender Identity

日時　2017年 10月27日 (金) 13:30 ~ 16:00

会場　市ヶ谷　ボアソナード・タワー 26階スカイホール
多摩 (遠隔)　総合棟3階遠隔講義室
小金井 (遠隔)　西館B1階マルチメディアホール

●プログラム

13:30 ▼ 13:50	開会挨拶	田中 優子 総長
13:50 ▼ 14:10	法政大学の現状と課題	武石 恵美子 教授／キャリアデザイン学部長・ダイバーシティ推進委員会委員長
	テーマ別の問題提起	
14:10 ▼ 14:55	①「教職員の働き方改革：イクボスのすすめ」 NPO法人Fathering Japan 代表理事　安藤 哲也氏	
14:55~15:05	休　憩	
15:05 ▼ 15:50	②「大学におけるダイバーシティ推進の取組事例：LGBT/SOGIへの対応」 筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門　河野 禎之 助教	
15:50 ▼ 16:00	閉会挨拶	堀田 正人 常務理事

●対　象：本学教職員
●申込方法：事前申し込み不要

主催：法政大学ダイバーシティ推進委員会
Mail：jinjka@hosei.ac.jp／Tel：03-3264-6298

森林総合研究所 第25回エンカレッジ推進セミナー&DSO懇話会

日時　2018.2.15(木)
講演会13:30~14:30

会場　森林総合研究所2階 大会議室
（TV会議にて支所等に中継あり）

講師　河野 禎之 氏
筑波大学ダイバーシティ部門・助教

「LGBT」という言葉が広く知られるようになった現在でも、セクシュアル・マイノリティに関する理解は、「言葉を聞いたことがある」「テレビで見たことがある」という程度の人が大多数であり、十分なものではありません。誤解や偏見も未だ根強くあるのが現状です。しかし、一人ひとりの顔や考えが異なるように、本来人間は多様性を持った存在であり、セクシュアリティ（性の在り様）もまた多様です。今回は、セクシュアル・マイノリティに関する基礎知識を共有して、その誤解や偏見を払拭するとともに、多様な属性を持った一人ひとりが自分の力を発揮できる環境を作るために何が必要なのかを考えるきっかけとなることを目指します。

LGBT/SOGIとダイバーシティ

参加無料

～セクシュアル・マイノリティに関する基礎へ～

講師プロフィール：河野 禎之 (かわのよしゆき)氏
博士（障害科学）。臨床心理士。筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門助教。一貫して認知症の人と家族の支援に関する研究に関わるが、近年ではLGBT等のセクシュアル・マイノリティに関する支援をはじめ、社会的マイノリティにおけるダイバーシティとソーシャル・インクルージョンに関する取組も展開している。全国の大学に先駆けて筑波大学が公表した「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」のとりまとめを担当した。World Young Leaders in Dementiaメンバー。平成23年度日本老年精神医学会奨励賞、平成28年度日本認知症ケア学会石崎賞を受賞。

ダイバーシティ推進室

問合せ先　森林総合研究所 ダイバーシティ推進室
Tel 029-829-8360 / Email：geneq@ffpri.affrc.go.jp

筑波大学
University of Tsukuba

平成29年10月26日
筑 波 大 学

本学の LGBT に関する取組が、任意団体 work with Pride が策定した「PRIDE 指標 2017」において大学初の「GOLD」を受賞し、さらにベストプラクティス（5 社）に選出

＜概要＞

平成 29 年 10 月 11 日（水）午後、経団連会館で開催された「work with Pride2017」にて、本学の LGBT に関する取組が、「PRIDE 指標 2017」において大学初の GOLD を受賞し、さらに 5 社のみとなるベストプラクティスに選出されました。

○PRIDE 指標について

任意団体 work with Pride（以下、wwP）により策定された、2016 年に日本で初めてとなる、企業・団体等における LGBT などの性的マイノリティ（以下、LGBT）に関する取組みの評価指標。

LGBT の人々が誇りを持って働ける職場の実現を目指して指標の名称を「PRIDE 指標」とし、「企業・団体等の枠組みを超えて LGBT が働きやすい職場づくりを日本で実現する」ために、以下の 5 つの領域において取組を評価する。

・Policy（行動宣言）
・Representation（当事者コミュニティ）
・Inspiration（啓発活動）
・Development（人事制度・プログラム）
・Engagement/Empowerment（社会貢献・渉外活動）

○本学のゴールド受賞について

上記 5 つの指標について、各指標内で 2 項目以上の要件を満たし 1 点が付与される。筑波大学の取組は、この 5 つ全ての指標を満たし 5 点満点となったため、GOLD を受賞した。

○ベストプラクティス選出について

本学の取組は特に P（Policy：行動宣言）においてベストプラクティス（ゴールド受賞企業のうち 5 つの指標それぞれにおいて 1 社のみ、合計 5 社が選出）として選出された。

これは平成 29 年 3 月に策定・公表した「LGBT 等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」について「大学の方針を明文化しインターネットで公開していること、方針の対象者は学生教職員を問わず全構成員としていて、大学から見た顧客である学生に対する方針も明示されていること」が高く評価されたことによる。

本学は、建学の理念である「開かれた大学」を掲げ、様々な属性を持った多様な人材の活躍こそがイノベーションの創出の源泉であると強く認識しており、今後も引き続き LGBT を含むダイバーシティ推進に取り組んでいきます。

＜参考情報＞ ※ work with Pride ホームページ（http://www.workwithpride.jp/）より抜粋

work with Pride（wwP） について

企業などの団体において、LGBT 、すなわちレズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーなどの性的マイノリティに関するダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援する任意団体です。2012 年に日本アイ・ビー・エム株式会社が、国際 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチと共同で日本での LGBT 従業者支援に関するセミナーを企画したことから始まりました。後に、LGBT 当事者が中心になって活動している認定特定非営利活動法人であるグッド・エイジング・エールズと特定非営利活動法人虹色ダイバーシティが加わりました。

work with Pride の目的

work with Pride の目的は、日本の企業内で「LGBT」の人々が自分らしく働ける職場づくりを進めるための情報を提供し、各企業が積極的に取り組むきっかけを提供することです。

この目的を達成するために、work with Pride では年に一回協力企業に場所をお借りし、企業の人事・人権・ダイバーシティ担当者を主な対象に、LGBT に関するセミナーを開催しています。

work with Pride
wwP Gold 2017

Work with Pride ゴールド表彰マーク

＜参考リンク＞

Work with Pride（http://www.workwithpride.jp/）
「work with Pride 2017」（メインセッション）の開催について
（https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000011.000019571.html）
PRIDE 指標 2017 の結果レポート（http://www.workwithpride.jp/pride/report2017.pdf）

＜本件に関する問い合わせ先＞

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門
TEL：029-853-8504　E-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp

8. 他機関・他部局との連携

ダイバーシティ部門では、常に学内外の機関・部局との連携を図りながら活動を展開しています。学内では、他部局が実施する活動への協力やFD研修での情報提供等を行いました。また、学外で開催されるシンポジウム等についても積極的に参加し、講演やポスター展示を実施することで、情報交換とともに積極的な情報発信に努めています。具体的には、下記のような取組を実施しました。

6月14日　Web of Science講習会（URA研究戦略推進室）
6月16日　ALLY FORUM 2017（日本IBM）話題提供（前掲）
7月24日　科研費改革2018（URA研究戦略推進室）
8月25日～27日　男女共同参画推進フォーラム（国立女性教育会館）ポスター発表
9月7日　DSO総会（Diversity Support Office）話題提供（前掲）
9月20日　学生生活関係教職員研修会（学生部）話題提供（前掲）
9月27日　TGSW 2017（Tsukuba Global Science Week）シンポジウム「Workstyle and AI」
10月2日～6日　ダイバーシティawareness week（DACセンター）
　2日　学生企画「Blending Colors～LGBTサークルによる意見交換会～」（前掲）
　5日　ダイバーシティ上映会 シネマ＆トークHAFU
　6日　OUT IN JAPAN @ 筑波大学（認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ）（前掲）
10月11日　work with Pride 2017「Pride指標2017」授賞式（前掲）
10月14日　茨城県理工系女子応援シンポジウム（茨城県）
10月21日　Rainbow Crossing Tokyo 2017　話題提供
10月27日　法政大学ダイバーシティ推進シンポジウム　話題提供（前掲）
11月6日　平成29年度看護科学専攻国際共同セミナー「LOVE MAKES A FAMILY」（看護科学専攻）
11月25日　つくば男・女（みんな）のつどい 2017（つくば市）ポスター発表
1月10日　体育センターFD研修会（体育センター）講演（前掲）
1月31日～2月6日　看護研究セミナーシリーズ（看護科学専攻）（前掲）
2月15日　DSO懇話会／森林総研エンカレッジ推進セミナー　講演（前掲）
2月16日　女性職員活躍セミナー（組織・職員課）
2月28日　研究とライフイベントの両立を考えるワークショップ（芸術系）
3月1日　学生相談室講演会（学生相談室）講演（前掲）
3月2日　平成29年度科学技術人材費補助事業フォーラム（文部科学省）話題提供
3月9日　研究成果発表会／女性研究者ネットワーキング・キックオフ（システム情報系）（前掲）
3月13日　URAファシリテーション講座（URA研究戦略推進室）（前掲）
3月28日～29日　次世代科学社会応援シンポジウム2018（前掲）

①男女共同参画推進フォーラム（国立女性教育会館）、つくば男・女の集い2017

ダイバーシティ推進室
Office of Diversity

筑波大学とつくば女性研究者支援協議会における女子中高生の理系進路選択支援の取り組み

筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ部門（ダイバーシティ推進室）

目的

筑波大学や近隣の研究所、企業で働く女性研究者との交流や実験体験を通じて、

① 女子中高生に理系の魅力を伝え、理系への進路選択の悩みや不安を減らす

② 女子中高生が身近に「リケジョの未来」をイメージできる 等を目的とする

❖ 平成25年度より５年間継続的に実施*

概要

I. リケジョサイエンス合宿（夏季）

- ２泊３日の合宿形式によるプログラム
- 豊富な体験型メニューを用意することにより、多彩な理系の魅力を直に伝える（表1）
- 大学生スタッフとの「タテのつながり」を作り、身近なロールモデルを提示する
- 女子中高生同士の「ヨコのつながり」を促し、理系を目指す仲間を作る

表1 リケジョサイエンス合宿プログラム（2017年度）

	1日目
午後	**ロールモデル紹介**
	✓ ９名の女性研究者による、研究や生活との両立に関する話題の紹介
	ラウンドテーブルカフェ（女子中高生）
	✓ ９名の女性研究者とグループ単位での座談会による交流
	保護者・教員向けセミナー&情報交換会
	✓ 保護者や学校の教員向けにセミナーを実施。筑波大学や企業・研究所の研究者と直接意見を交換
夜	**大学生企画の交流会**
	✓ 宿泊施設にて大学生が企画したゲーム（理系要素を盛り込んだ内容）にて学生同士・大学生と交流
	2日目
午前	**サイエンス実験体験（1）**
	✓ 多彩な理系分野（数理系、理工系、医学系、情報系等）の14研究室が企画したサイエンス実験を体験
午後	**サイエンス実験体験（2）**
	✓ 午前と異なる研究室にて実験を体験
夜	**大学生企画のグループワーク**
	✓ 2日間の体験を通じて得たことを大学生とともにグループでまとめ
	3日目
午前	**グループワーク発表と大学生との交流会**
	✓ グループワークでまとめた成果を発表した ✓ 合宿を通じての疑問や進学後の大学生活、受験等について大学生と交流しながら相談できる時間とした

＊筑波大学は平成25年度より国立研究開発法人科学技術振興機構より助成を受け、女子中高生の理系進路選択支援プログラムを実施している

概要（続き）

II. リケジョサイエンスカフェ（春季）

- 午前は施設見学等の体験プログラムを実施
- 午後は大学、研究所、企業で活躍する女性研究者との座談会による交流プログラム
- 女性研究者から研究の魅力を聴くとともに、女子中高生の理系への進路選択や、将来のキャリア形成についての不安や悩みを相談・共有できるよう促す

表2 リケジョサイエンスカフェプログラム（平成27年度）

施設見学・体験プログラム
✓ 産業技術総合研究所の地質標本館、筑波大学エンパワーメント情報学プログラム（Large Space）の見学と体験プログラムを実施した
ランチ懇談会
✓ 女性研究者や大学生・大学院生と昼食を囲みながら自由に交流できる時間とした
ロールモデル紹介
✓ 9名の女性研究者が研究やキャリア、ワークライフバランスに関する話題等の紹介をした
サイエンスカフェ
✓ ５名の女性研究者と、理系の進路選択への理解を深め、具体的な将来のイメージが持て、理系進路選択が身近なものになるようグループ毎の座談会形式で実施した

III. その他（保護者・教員セミナーや調査研究）

- 保護者や教員にサイエンス合宿及びカフェへの参加を促すとともに、セミナーを実施
- 保護者や教員同士で理系の進路選択に関する情報交換が可能となるよう促した
- 中高生の進路選択に関する調査研究の実施

実績

I. リケジョサイエンス合宿（夏季）

実際の様子

- **ロールモデル紹介とラウンドテーブルカフェ**

実績（続き）

I. リケジョサイエンス合宿（夏季）

サイエンス実験体験

運動栄養学研究室

無機系エネルギー・環境材料研究室

ゲノム情報生物学研究室

作物生産システム学研究室

認知システムデザイン研究室

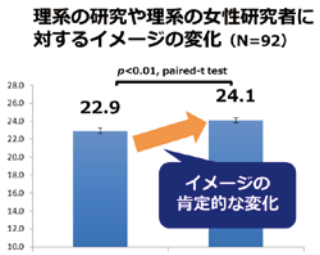
食品機能化学研究室

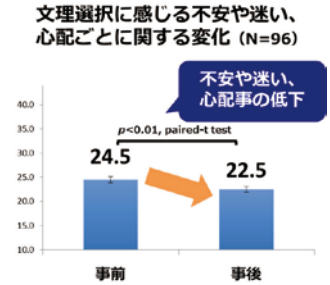
生産システム工学研究室

光合成・光治療研究室

グループワークと発表

合宿のアンケート結果（例：平成28年度）





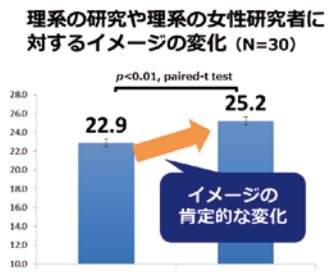
II. リケジョサイエンスカフェ（春季）

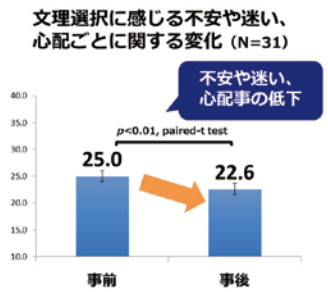
カフェ

サイエンス・カフェ

保護者・教員セミナー＆情報交換会

カフェのアンケート結果（例：平成28年度）





※ 質問項目

理系の研究や理系の女性研究者に対するイメージの変化

7項目４件法　合計28点
（とても当てはまる：4点～全く当てはまらない：1点）

1. 理系の研究者にあこがれを感じる
2. 自然や科学、技術に興味はあっても理系の研究者になろうとは思わない*
3. 理系の女性研究者には女性ならではの視点があると思う
4. 理系の女性研究者は社会に貢献していると思う
5. 理系の研究は高度な科学技術だけでなく、日常生活にも関係している
6. 自分が興味を持っていることは、理系の研究と関係しているかもしれない
7. 理系の研究では、新しい技術や事実を発見することができる

*逆転項目

文理選択に感じる不安や迷い、心配ごとに関する変化

11項目４件法　合計44点
（とても当てはまる：4点～全く当てはまらない：1点）

1. 理系と文系のどちらにも興味があり選べない
2. 理系は女子学生が少なく友達が作りにくいのではないか不安
3. 理系を選ぶと自由な時間が持てなくなるのではないか不安
4. 理系を選択すると友達と離れるのが辛い
5. 将来の夢がはっきりせず選択できない
6. 誰に相談してよいか分からない
7. 理系を選んだ後の進路が分からない
8. 理系は大学で何を学ぶのか分からない
9. 苦手科目があっても理系を選んでよいか分からない
10. 理系の実験で何をするのか分からない
11. 進路を変更したくなると不安

筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ部門
〒305-8577　茨城県つくば市天王台1-1-1　筑波大学スチューデントプラザ2階
E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp　URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505

②学生支援FDの開催

森林総合研究所 第25回エンカレッジ推進セミナー&DSO懇話会
日時 2018.2.15(木)
講演会13:30~14:30
会場 森林総合研究所2階 大会議室
（TV会議にて支所等に中継あり）
講師 河野 禎之 氏
筑波大学ダイバーシティ部門・助教
「LGBT」という言葉が広く知られるようになった現在でも、セクシュアル・マイノリティに関する理解は、「言葉を聞いたことがある」「テレビで見たことがある」という程度の人が大多数であり、十分なものではありません。誤解や偏見も未だ根強くあるのが現状です。しかし、一人ひとりの顔や考えが異なるように、本来人間は多様性を持った存在であり、セクシュアリティ（性の在り様）もまた多様です。今回は、セクシュアル・マイノリティに関する基礎知識を共有して、その誤解や偏見を払拭するとともに、多様な属性を持った一人ひとりが自分の力を発揮できる環境を作るために何が必要なのかを考えるきっかけとなることを目指します。
LGBT/SOGIと
ダイバーシティ
参加無料
~セクシュアル・マイノリティに関する基礎へ~
講師プロフィール：河野 禎之 (かわの よしゆき)氏
博士（障害科学）。臨床心理士。筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門 助教。一貫して認知症の人と家族の支援に関する研究に関わるが、近年ではLGBT等のセクシュアル・マイノリティに関する支援をはじめ、社会的マイノリティにおけるダイバーシティとソーシャル・インクルージョンに関する取組も展開している。全国の大学に先駆けて筑波大学が公表した「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」のとりまとめを担当した。World Young Leaders in Dementiaメンバー。平成23年度日本老年精神医学会奨励賞、平成28年度日本認知症ケア学会石崎賞を受賞。
ダイバーシティ推進室
問合せ先 森林総合研究所 ダイバーシティ推進室
Tel 029-829-8360 / Email：geneq@ffpri.affrc.go.jp

Center for Diversity, Accessibility and Career Development
University of Tsukuba
Work style ×
Tsukuba Global Science Week 2017
基調講演 吉田 晴乃 氏 BTジャパン 代表取締役社長 日本経済団体連合会審議員会副議長
パネリスト 行木 陽子 氏 日本アイ・ビー・エム株式会社 コラボレーション&タレントソリューション事業部 技術理事
吉岡 てつを 氏 総務省大臣官房審議官（情報流通行政局担当）
五十嵐 浩也 教授 筑波大学大学執行役員／ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長
オーガナイザー 庄司 一子 教授 筑波大学 学長特別補佐／人間系
人工知能が人の働き方に与える影響とは？
その時、社会に何が起きるのか？
真のダイバーシティの実現、共生社会に
向けた変革は生まれるのか？
AI
平成29年9月27日（水）14時～17時
つくば国際会議場 大会議室101

日本は多様化している Japan is Changing
HAFU
ハーフ
筑波大学ダイバーシティAwareness Weekにて
シネマ＆トーク開催![10/5(木)] (詳細は裏面を参照)
主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：Shake-Hands.org
www.hafufilm.com
CAAM
JAPANFOUNDATION

ダイバーシティ
Awareness Week 2017
応援プログラム
2017年 10月 2日（月） ~ 6日（金）
【主催】筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
【場所】筑波大学筑波キャンパス 中央図書館前 石の広場ほか
※学内の皆様はもちろん、地域の皆様もぜひご参加ください
詳細はDACセンターのホームページをごらんください http://dac.tsukuba.ac.jp/
プレイベント・学生企画 10月 1日（日）
①13:00-17:00「Blending colors ~LGBTサークルによる意見交換会~」
場所：サテライトオフィス・つくば総合インフォメーションセンター（BiVi つくば 2階）
共催：筑波大学 LGBTQAサークル にじいろ
※ LGBTの問題や実情について、学生と多角的に考えます。
10月 2日（月）
②11:35-12:10「自転車の防犯・駐輪マナー向上キャンペーン」
場所：第 三エリア食堂前（雨天時 至日曜延）
共催：学生生活支援室
※ 誰もが安心して歩けるインクルーシブキャンパスを目指して呼びかけを行います。
10月 3日（火）
③11:35-12:10「だれでも気軽に！アダプテッド・スポーツ」
場所：中央図書館前 石の広場（雨天時 一部内容変更あり）
共催：アダプテッド体育・スポーツ学研究室、スポーツ・デ一学生委員会
※ 東京2020パラリンピック目前！
10月 4日（水）
④11:25-12:30「東京2020パラリンピックに向けて ~筑波大学ができること~」
場所：中央図書館前 石の広場（雨天時 総合研究棟A110公開講義室）
共催：オリンピック・パラリンピック総合推進室、エンパワーメント情報学プログラム
※ 筑波大学の研究や人材育成が東京 2020 パラリンピックにどのように貢献できるか、オリンピックメダリストの山口香先生がファシリテーターとして、本学の現役パラリンピック選手とともにディスカッションします！
10月5日（木）
⑤11:35-12:10「人工知能研究からみた身体障害者支援の未来」
場所：中央 図書館前 石の広場
共催：システム情報系 鈴木健嗣研究室
※ 身体障害のある学生からの質問に人工知能の研究者が答えます！
⑥11:30-13:30「おいしい！ つくば美味展」
場所：中央図書館前 石の広場
共催：社会 福祉法人創志会 つくば障害者就業・生活支援センター
認定特定非営利活動法人つくばアグリチャレンジ
※ 本学 の学生への支援やインターンシップ先として お世話になっている団体による、無農薬野菜やお弁 当などの販売を行います！
今日のランチはこれで決まり！
10月 5日（木）
⑦16:30-18:00 シンポジウム「外国人も日本でいきいきと働く！」
+「外国人留学生のための情報提供コーナー」
場所：大学会館 国際会議室
共催：グローバルコミュニケーション教育センター、グローバル・コモンズ機構、学生部、国際室
※日本で働いている外国人OBOG、企業人事担当者、研究者のリアルな話が聞けます。
外国人留学生のための情報提供コーナーもあります！
⑧17:30-19:40「ダイバーシティシネマ&トーク『ハーフHAFU』」
場所：サテライトオフィス・つくば総合 インフォメーションセンター（BiVi つくば 2 階）
共催：Shake-Hands.org
※ 上映会の後にディスカッションを行います！
10月 6日（金）
⑨10:00-17:00「セクシュアルマイノリティ写真展 『OUT IN JAPAN @ 筑波大学』」
場所：第三エリア食堂となりのラウンジ
共催：認定NPO法人グッドエイジング・エールズ
※ レスリー・キー撮影の写真が観覧できます
⑩15:30-17:00「ダイバーシティ推進研修会 ~国籍、性別、障害を越えた多様性がもたらすもの~」全学FD研修会）
場所：第 二エリア2H101講義室
※特別企画として、企業でダイバーシティ推進に取り組んでいる外部講師をお招きし、今後あるべき大学・社会の姿について考えます。
【常設展示・企画】
⑪ダイバーシティAwareness Week「ポスター公開 WEB投票」
協力：筑波大学附属聴覚特別支援学校
※ Awareness Week のポスターを募集しWEB上で公開投票を行います。
⑫ダイバーシティAwareness Week スタンプラリー
共催：筑波大学発達障害学生支援プロジェクト
※ 右側のQRコードからスタンプラリー用アプリを ダウンロード！たくさんの企画に参加して、景品をもらおう！
⑬修学支援情報配信サービス「Learning Support Book」一般公開
共催：筑波大学発達障害学生支援プロジェクト
※ アクセシビリティ部門で運用している修学に役立つ情報を配信するサービスを Awareness Weekの期間限定で一般公開します。

TOKYO 2020 応援プログラム
ダイバーシティ Awareness Week 2017
OUT IN JAPAN
@筑波大学
2017年 10月 6日（金）10時00分～17時00分
筑波大学 第三エリア食堂となりのラウンジ
・認定NPO法人グッド・エイジング・エールズと共催
・プロジェクトを担当した写真家レスリー・キーによる写真のうち、30枚の当事者の写真とメッセージを展示
・多様なセクシュアリティの当事者の「姿」と「思い」に触れることのできる機会です
問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門
TEL: 029-853-8504 FAX: 029-853-8505 E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp または「筑波大学 ダイバーシティ」で検索
Web動画も配信中
主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ

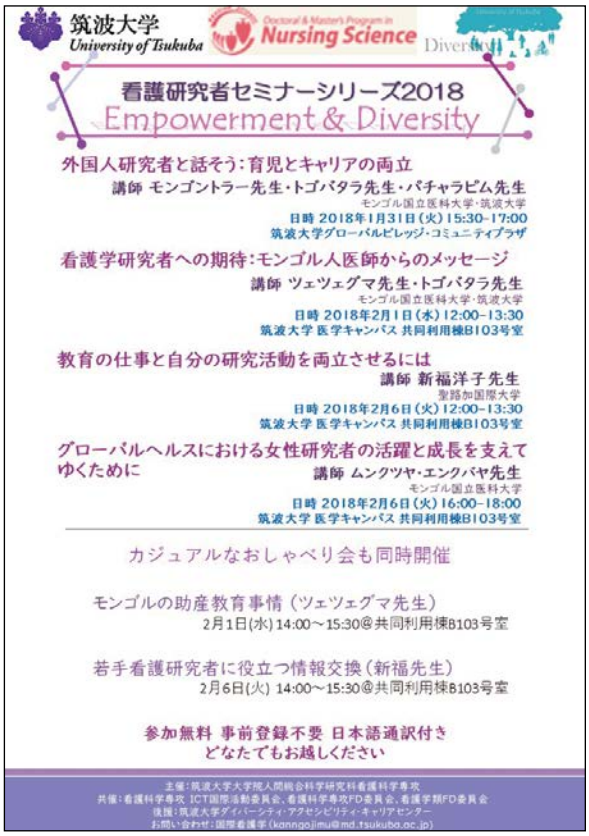
筑波大学 University of Tsukuba
Nursing Science
Diversity Division
H29年度看護科学専攻国際共同セミナー
International Collaborative Nursing Seminar 2017
特別講義 Special Lecture
LOVE MAKES A FAMILY
講師：チャールズ・インリン先生
イリノイ大学シカゴ校（米国）
Guest Speaker: Charles Yingling, DNP, APN, FNP-BC
University of Illinois at Chicago
同性婚をしているチャールズ先生と夫のヘクターさんはジェームス君を養子縁組（オープンアダプション）によって息子として迎え、素晴らしい家庭を築いています。彼らのライフストーリを伺いながら、人として生きること、家族とはなにかを共に考えてゆきましょう。
日時：平成29年11月8日（水）16時45分～18時00分
Date: Wednesday, November 8 2017. 16:45-18:00
場所：筑波大学医学キャンパス４B棟209号室
Venue: Rm 209, 4B building, Medical campus
★無料★日本語通訳あり★
☆事前申し込み不要☆どなたでもお越しください☆
Free, No pre-registration required . Everyone is welcome
交通案内：つくば駅で「筑波大学循環（右回り）」「筑波大学中央」行きバスに乗車、「追越学生宿舎前」で下車 駐車場あり（医学エリアゲート付きを開放）
主催：看護科学専攻、ICT国際活動委員会、FD自己点検委員会
共催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
お問合せ：看護科学専攻事務室（成田・狩野） メール kanngojimu@md.tsukuba.ac.jp

特許、化合物構造、引用情報も検索できます！
WEB OF SCIENCE™
研究者向け講習会
Web of Science® は、国際的に、あるいは特定の地域や分野において最も影響力の高いジャーナル、学術書、会議録、研究データ、特許情報、化合物データなどを収録する世界随一の学術研究情報データベースです。論文検索に利用したことがある人は多いと思いますが、特許情報、化合物の構造、引用に基づく指標を対象とした検索も可能です。広大な情報の海から研究者が本当に必要とする、価値のある情報を効率よく発見するために役立つ使用法の習得を目指し、サテライト室 PC を使った実践的な講習会を開催します。
INNOVATION
INTELLECTUAL PROPERTY
JOURNALS
WEB OF SCIENCE
IMPACT FACTOR
CITATION
論文検索だけじゃもったいない！
CHEMICAL COMPOUND
RESEARCH IMPACT
AUTHORSHIP
IDEA
Background Designed by Freepik
2017年
日時: 6月14日（水）13:30 - 15:30
場所: 学情サテライト B205（学術情報メディアセンター）
↓申込はこちらから↓
http://ura.sec.tsukuba.ac.jp/archives/11598
先着 50 名！
学術情報メディアセンター
ペデストリアン
平塚線
大学会館
大学会館前（バス停）
西ループ
外国語センター
○プログラム
13:30 - 13:45 研究開始時の特許検索の重要性について
筑波大学国際産学連携本部 技術移転マネージャー 和氣 泉
13:45 - 15:30 WEB OF SCIENCE™を使った効率的な情報検索
クラリベイト・アナリティクス・ジャパン（旧トムソン・ロイター IP&Science）
アカウントマネージャー 増田 智子
共催：筑波大学URA研究戦略推進室, 筑波大学附属図書館、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
平成 28 年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

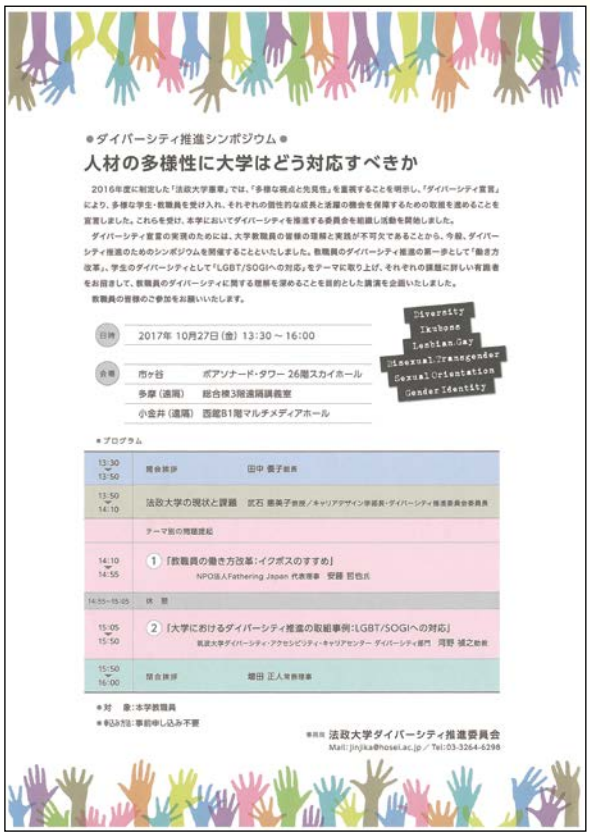
科研費獲得支援イベント
科研費改革2018説明会
初夏からはじめる科研費応募！
科研費改革の最新情報を知って
科研費獲得、
ランクアップの波に乗ろう！
日時 平成29年7月24日 月
14:30 - 16:30
会場 2H201講義室
（筑波大学 中地区 第２エリア）
プログラム
14:30-14:40 開会挨拶 木越 英夫 筑波大学研究担当副学長
14:40-15:30 「科研費審査システム改革2018」背景とポイント 永原 裕子 学術システム研究センター副所長／東京工業大学地球生命研究所フェロー
15:40-16:15 科研費改革2018：対応から先制へ 馬場 忠 筑波大学URA研究戦略推進室長 学長特別補佐
16:15-16:25 つくばリポジトリの活用について 関戸 麻衣 筑波大学附属図書館 学術情報部 情報企画課 機関リポジトリ担当
16:25-16:30 閉会挨拶 大城 功 筑波大学研究推進部長
〈講演者について〉
永原 裕子氏（学術支援システム研究センター副所長）
学術システム研究センター主任研究員（当時）として、科研費改革２０１８の検討に深く関与。当日は、審査システム改革の背景、ポイントについてのご講演に加え、新たな応募書類（研究計画調書）についてもご紹介いただく予定です。
お申し込みについて
右のQRコード、または、筑波大学研究ポータル「COTRE（コトリ）」内、本イベント告知ページにあるフォームからお申し込みください。
※当日参加可。来場者多数の場合は事前申込者を優先します。
筑波大学 University of Tsukuba
http://ura.sec.tsukuba.ac.jp/
主催：筑波大学URA研究戦略推進室・研究推進部外部資金課・研究推進部研究企画課 お問い合わせ：URA研究戦略推進室（新道 029-853-4545）
共催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

理工系女子応援シンポジウム
どうする？進路選択
RIKEJO SYMPOSIUM
日時 平成29年10月14日[土] 14:00～17:00 (開場13:30)
会場 つくば国際会議場 つくば市竹園 2-20-3
(中ホール 300/多目的ホール)
進路選択、それはあなたの将来に関わる大事な選択。
でも、どう選んだらいいのかわからない・・・、
そんなみなさんに理系選択の場合の未来像を
イメージしていただくためのイベントです。
開催プログラム PROGRAM
■開会挨拶 14:00～14:10
■基調講演 14:10～14:50
「『未来の私』は私が創る」
株式会社リーツ 代表取締役
門奈 理佐 氏
■パネルディスカッション 15:00～15:50
テーマ「先輩の話を聴こう」
●モデレーター 科学ジャーナリスト 東嶋 和子 氏
●パネリスト
茨城大学大学院 理工学研究科 准教授 飯沼 裕美 氏
アステラス製薬(株) ドラッグリパーパシング部 部長 齋藤 みのり 氏
産業技術総合研究所 ダイバーシティ推進室 企画主幹 武仲 能子 氏
筑波大学 システム情報系 准教授 藤井 さやか 氏
宇宙航空研究開発機構 HTV フライトディレクタ 前田 真紀 氏
■交流会 16:00～17:00
「理系の仕事を知ろう」
森林総合研究所、物質・材料研究機構、土木研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、アサヒグループホールディングス、筑波技術大学 他
参加費無料 先着申込順 300名
会場案内MAP
つくば国際会議場
事前申込が必要です。
詳しい内容・申込はこちら ▶ http://www.rikejo-ibaraki.jp
[問い合わせ] 茨城県企画部科学技術振興課（担当：石川）
TEL：029-301-2532 / FAX：029-301-2498 / E-mail：kikaku10@pref.ibaraki.jg.jp
主 催：茨城県 協 力：つくば市、講談社「Rikejo」、筑波研究学園都市交流協議会

平成29年度
男女共同参画推進フォーラム
つなぐ、あらたな明日へ
～女性も男性もともに暮らしやすい社会を創る～
2017 8.25 Fri > 27 Sun
女性のキャリア形成支援、男女共同参画の地域づくり、企業や大学における女性の活躍推進など、様々なテーマのワークショップも開かれ、どなたでもご参加いただけます。皆様のご参加をお待ちしております。
特別講演 8.25 Fri 13:30-14:40
変わる勇気、変えるアクション
～女性も男性もともに暮らしやすい社会を創る～
筑波大学体育系准教授
山口 香 氏
長年、男性が中心的存在であり、指導的地位の女性が少なかった柔道界で、自ら選手として、指導者として、道を切り拓いていらしたソウルオリンピック柔道銅メダリスト山口香氏をお迎えします。様々なエピソードを交えながら、一人ひとりが勇気を持ち社会に声を発し、具体的に行動することの大切さと、若者にかかわらず全ての人が能力を発揮できる社会のあり方について、会場のみなさんと共に考えます。
参加申込・受付 参加費無料
会場
URL:https://www.nwec.jp
会場・主催
独立行政法人 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728 TEL:0493-62-6724・6725
https://www.facebook.com/NWECJapan
progdiv@nwec.jp


筑波大学 University of Tsukuba
Doctoral & Master's Program in Nursing Science
看護研究者セミナーシリーズ2018
Empowerment & Diversity
外国人研究者と話そう：育児とキャリアの両立
講師 モンゴントラー先生・トゴバタラ先生・パチャラピム先生
モンゴル国立医科大学・筑波大学
日時 2018年1月31日（火）15:30-17:00
筑波大学グローバルビレッジ・コミュニティプラザ
看護学研究者への期待：モンゴル人医師からのメッセージ
講師 ツェツェグマ先生・トゴバタラ先生
モンゴル国立医科大学・筑波大学
日時 2018年2月1日（木）12:00-13:30
筑波大学 医学キャンパス 共同利用棟B103号室
教育の仕事と自分の研究活動を両立させるには
講師 新福洋子先生
聖路加国際大学
日時 2018年2月6日（火）12:00-13:30
筑波大学 医学キャンパス 共同利用棟B103号室
グローバルヘルスにおける女性研究者の活躍と成長を支えてゆくために
講師 ムンクツヤ・エンクバヤ先生
モンゴル国立医科大学
日時 2018年2月6日（火）16:00-18:00
筑波大学 医学キャンパス 共同利用棟B103号室
カジュアルなおしゃべり会も同時開催
モンゴルの助産教育事情（ツェツェグマ先生）
2月1日(水) 14:00～15:30@共同利用棟B103号室
若手看護研究者に役立つ情報交換（新福先生）
2月6日(火) 14:00～15:30@共同利用棟B103号室
参加無料 事前登録不要 日本語通訳付き
どなたでもお越しください
主催：筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻
共催：看護科学専攻 ICT国際活動委員会、看護科学専攻FD委員会、看護学類FD委員会
後援：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
お問い合わせ：国際看護学（kanngojimu@md.tsukuba.ac.jp）

システム情報系若手融合研究プロジェクト
2017 年度研究成果発表会
2018 年度研究テーマ提案会
本企画はダイバーシティ推進に賛同し、女性教員・研究者（院生含）のネットワークづくりも兼ねております。ご参加をお待ちしております！
プログラム
1、挨拶 岡部 豊（システム情報系長）
2、2017 年度研究成果発表会（各テーマ 15 分程度）
● 川崎 真弘、日野 英逸、安東 弘泰、呂原 一究
「脳磁気刺激を用いたマインドフルネス誘発システムの開発ー生理学、数理モデル、情報工学の融合アプローチー」
● アランニャ・クラウス、山本 亨輔
「機械学習ベースの画像認識を用いたひび割れ検知およびひび割れ原因同定技術の基礎的検討」
＜継続課題＞
● 今倉 暁、保国 惠一、高安 亮紀
「精度保証および耐障害技術に基づく局回積分型固有値解法のリスク回避」
● 新宅 奏一、高橋 徹、高安 亮紀
「高性能・高寿命モータの開発のための総合評価シミュレーション」
● 橋本 悠希、山口 佳樹、志築 文太郎、高橋 徹、嶋村 耕平
「漆をベースとする電子回路構成技術の開発とその応用」
● 山口 友之、八十島 章、溢谷 長史
「コンクリート構造物の統合的な安全性診断技術の研究」
3、2018 年度研究テーマ提案会（一人あたり 10～15 分程度）
日時：2018年 3月 9日（金） 15：00～18：00
場所：総合研究棟 A107 プレゼンルーム
対象：筑波大学の方ならどなたでも
美味しいコーヒーもあります
問い合わせ先：morimoto.yukihito.gn#un.tsukuba.ac.jp
システム情報エリア支援室 URA 森本 （メール送信時は#を@に変えて下さい）
協賛：ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門
TIDE：Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environment
Office of Diversity University of Tsukuba
TIDE


●ダイバーシティ推進シンポジウム●
人材の多様性に大学はどう対応すべきか
2016年度に制定した「法政大学憲章」では、「多様な視点と先見性」を重視することを明示し、「ダイバーシティ宣言」により、多様な学生・教職員を受け入れ、それぞれの個性的な成長と活躍の機会を保障するための取組を進めることを宣言しました。これらを受け、本学においてダイバーシティを推進する委員会を組織し活動を開始しました。
ダイバーシティ宣言の実現のためには、大学教職員の皆様の理解と実践が不可欠であることから、今般、ダイバーシティ推進のためのシンポジウムを開催することにいたしました。教職員のダイバーシティ推進の第一歩として「働き方改革」、学生のダイバーシティとして「LGBT/SOGIへの対応」をテーマに取り上げ、それぞれの課題に詳しい有識者をお招きして、教職員のダイバーシティに関する理解を深めることを目的とした講演を企画いたしました。
教職員の皆様のご参加をお願いいたします。
日時 2017年 10月27日（金）13:30～16:00
市ケ谷 ボアソナード・タワー 26階スカイホール
多摩（遠隔） 総合棟3階遠隔講義室
小金井（遠隔） 西館B1階マルチメディアセンター
Diversity
Ikubon
Lesbian.Gay
Bisexual.Transgender
Sexual Orientation
Gender Identity
●プログラム
13:30 ▼ 13:50 開会挨拶 田中 優子総長
13:50 ▼ 14:10 法政大学の現状と課題 武石 恵美子教授／キャリアデザイン学部長・ダイバーシティ推進委員会委員長
テーマ別の問題提起
14:10 ▼ 14:55 ①「教職員の働き方改革：イクボスのすすめ」 NPO法人Fathering Japan 代表理事 安藤 哲也氏
14:55～15:05 休 憩
15:05 ▼ 15:50 ②「大学におけるダイバーシティ推進の取組事例：LGBT/SOGIへの対応」 法政大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門 河野 禎之教授
15:50 ▼ 16:00 閉会挨拶 増田 正人常務理事
●対 象：本学教職員
●申込方法：事前申し込み不要
法政大学ダイバーシティ推進委員会
Mail: jinjka@hosei.ac.jp／Tel:03-3264-6298

RAINBOW CROSSING TOKYO 2017
LGBT就活
LGBTも「自分らしくはたらく」を考える1日
企業担当者・就労支援者向け
10/21 (Sat.)
同性愛者や性同一性障害者などのLGBTは、約13人に1人とも言われています。
職場でどのような対応が望ましい？就労支援者としてどのように支援をしたらいい？
そんな疑問を、企業・就労支援者とLGBTが一緒に考えるイベントを開催します。
日時：2017年10月21日（土）10:30～13:15（入退場自由）
会場：ベルサール飯田橋ファースト（東京都文京区 後楽2-6-1 住友不動産飯田橋ファーストタワーB1）
参加対象：企業・団体の人事／ダイバーシティ担当者、キャリアセンターやハローワークなど就労支援者
参加費：無料（要事前申込） お申し込み：http://lgbtcareer.org/rainbowcrossing/corp
●RAINBOW CROSSING TOKYO 2017 でできる4つのこと●
①企業の情報を知る・交流をする
LGBTへの取り組みやダイバーシティに取組む企業が多数出展！各社の取り組みについて聞いたり、交流することで、今後の職場内での取組みの指針を考える機会を提供します。
②国内での取り組みを知る
職場でのLGBTへの取り組みや、企業の動向について、調査報告をしていただきます！
基調講演：一般社団法人 日本経済団体連合会、日本労働組合総連合会、他
③就労支援機関や支援者の取り組みを知る・交流する
LGBTの就労支援を行う上での心がけや、就労支援機関の事例などを聞き、今後の支援機関での取り組みの指針を考える機会を提供します。
④LGBTの就活生や社会人のニーズを知る
LGBTが就活時や職場で感じる困りごとや望ましい対応について知るパネルディスカッションや、日頃の疑問を聞ける質問ブースも！
●出展企業●
NTT Group
accenture ハイパフォーマンスの実現へ
Google
MARUI GROUP
LGBT FINANCE
SHISEIDO
NOMURA
Orchestrating a brighter world NEC
Unilever
Gap Japan
SONY
IBM
JAPAN AIRLINES
LUSH
KIRIN
EY
Microsoft
後援：文京区、一般社団法人 日本経済団体連合会、日本労働組合総連合会
主催：特定非営利活動法人 ReBit

RAINBOW CROSSING TOKYO 2017
LGBT就活
LGBTも「自分らしくはたらく」を考える1日
年齢・セクシュアリティ不問
10/21 (Sat.)
LGBTへの対応やダイバーシティに取り組んでいる企業は、どんなことをしているの？
LGBTの人たちはどんな風に働いているんだろう？企業や先輩社会人とともに、「自分らしくはたらく」について考える1日を開催します。
日時：2017年10月21日（土）14:30～19:00（入退場自由）
会場：ベルサール飯田橋ファースト（東京都文京区 後楽2-6-1 住友不動産飯田橋ファーストタワーB1）
参加対象：自分らしくはたらくことに興味のある就活生・学生・求職者・社会人（年齢・セクシュアリティ不問）
参加費：無料（要事前申込） お申し込み：http://lgbtcareer.org/rainbowcrossing/
●RAINBOW CROSSING TOKYO 2017 でできる4つのこと●
①企業の情報を知る・交流をする
LGBTへの対応やダイバーシティに取り組む企業が多数出展！講演で取り組みについて聞いたり、ブースで担当者と交流できます！
②LGBTの社会人の働き方を知る・交流する
LGBTの先輩たちとの交流を通じて、どのように働いているかを知り、これからのキャリアの描き方について考えよう！
③共に考える仲間と出会う
LGBTやアライの就活生／学生／社会人と交流し、「自分らしくはたらく」ことについて、共に考える仲間と出会おう！
④自分らしくはたらくスタイルを探す
スーツ探け・メークアップ講座など、あなたの「自分らしくはたらくスタイル」を各分野のプロフェッショナルがお手伝いします！
●出展企業●
NTT Group
accenture ハイパフォーマンスの実現へ
Google
MARUI GROUP
LGBT FINANCE
SHISEIDO
NOMURA
Orchestrating a brighter world NEC
Unilever
Gap Japan
SONY
IBM
JAPAN AIRLINES
LUSH
KIRIN
EY
Microsoft
後援：文京区、一般社団法人 日本経済団体連合会、日本労働組合総連合会
主催：特定非営利活動法人 ReBit

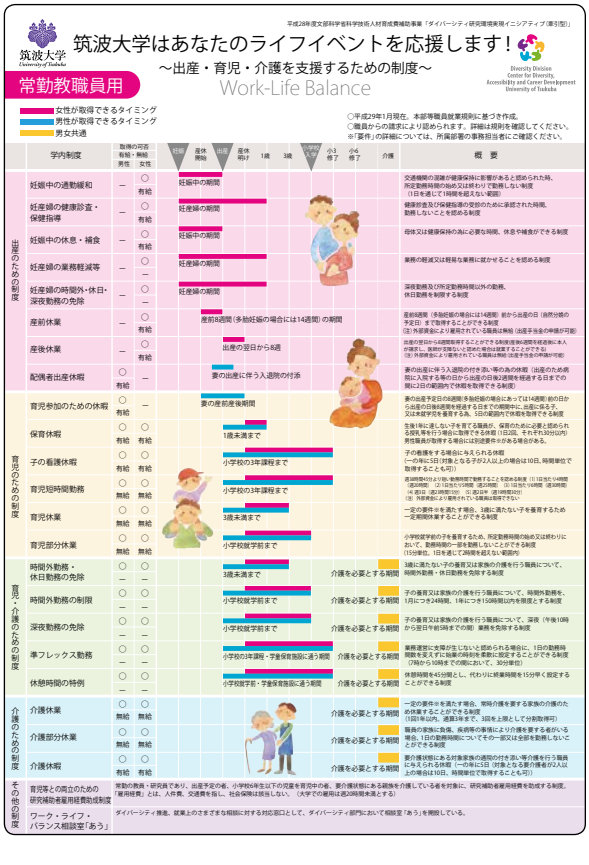
主催：筑波大学ＵＲＡ研究戦略推進室 協力：ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
HEY
WOW!
oH..
SMILE!
COOL!
もっと生産的・効率的な会議運営を目指すあなたに
ファシリテーション講座
～問いが変われば、会議が変わる～
OOPS!
株式会社フューチャーセッションズ／セッション・プロデューサー
講師：芝池 玲奈 RENA SHIBAIKE
学生時代から開発教育ワークショップの企画やファシリテーションに取り組み、卒業後は研修会社にて講師を勤める。IT系／ビジネス系／新人研修／海外研修員向け研修など、幅広く講習会を実施するかたわら、問題解決などの研修を開発。2013年6月より、新しい未来を創っていくために、株式会社フューチャーセッションズに参画。まちづくり案件と研修案件を担当。
つくりたい未来は、私たち一人ひとりの「自分ごと」が引き出され、表現され、実現され、響きあう世界。
Background image designed by freepik
2018年
日 時：3月13日（火）
13：30～17：00
場 所：筑波大学本部アネックス棟1
対 象：筑波大学関係者（先着20名）
本講座では、会議参加者一人ひとりの主体的な態度と意見を引き出すためのフューチャーセッションにおける問いづくりとファシリテーションについて学び、実践します！
お申込み：
http://ura.sec.tsukuba.ac.jp/archives/15184
お問合せ：
ura_tsukuba[at]un.tsukuba.ac.jp
※[at]を@に変更してください

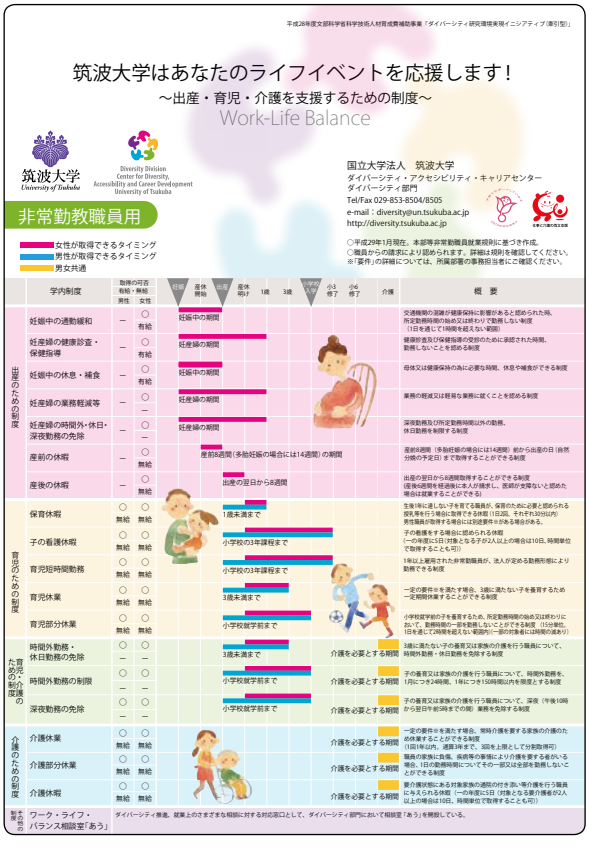
Ⅲ

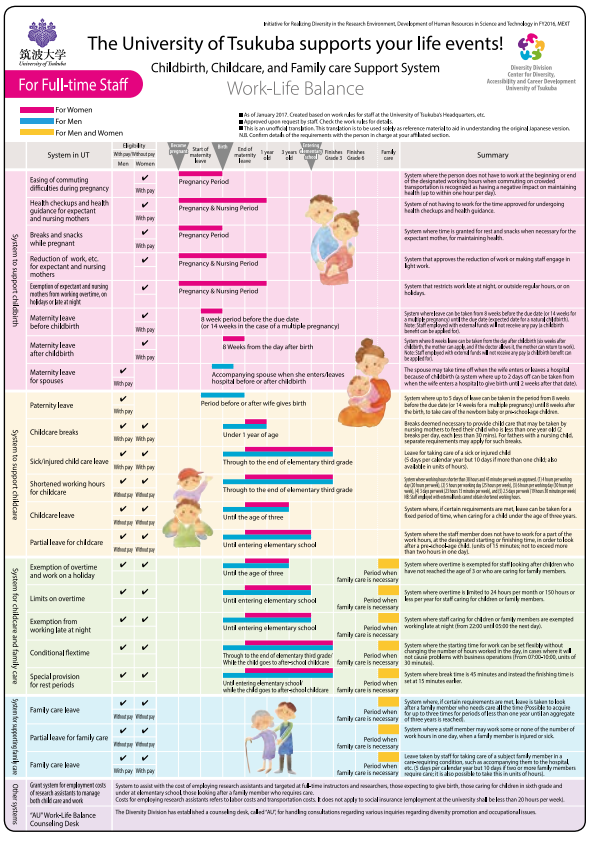
参考資料

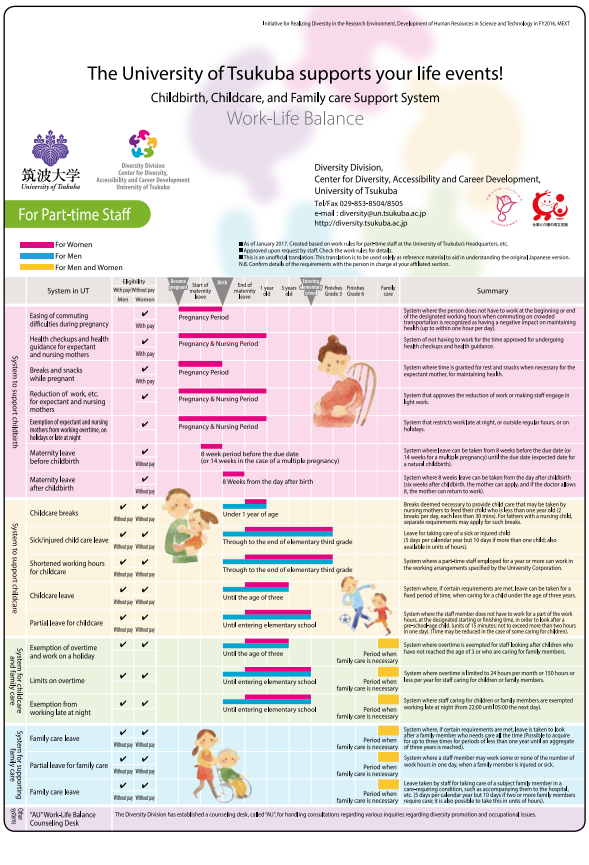
参考資料

①ワークライフ支援ガイド（下敷き形）









②女子中高生の理系進路選択支援プログラム追跡調査の結果概要

調査開始日	平成29年12月18日	回答数	34名
回答締切日	平成30年２月18日	回収率	17.8%
対象者	191名 平成25年度から実施している女子中高生の理系進路選択支援プログラム（リケジョサイエンス合宿、リケジョサイエンスカフェ）参加者のうち、平成29年４月時点で高校卒業年度を越えている参加者		

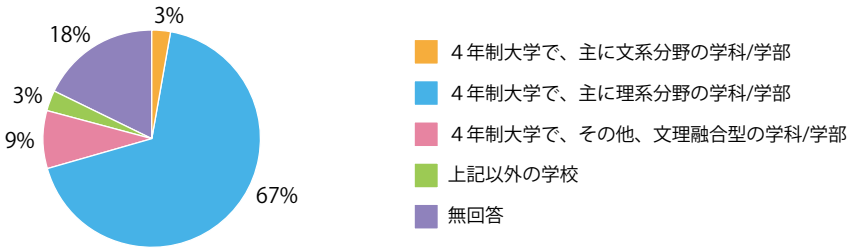
Q1．あなたの今の状況を教えてください	回答数	34
主に学校（大学・短大・高専・専門学校）に通っている	割合	100%

Q2．あなたは筑波大学に通っていますか？	回答数	6
はい	割合	17.6%

Q2-2．筑波大学の内訳

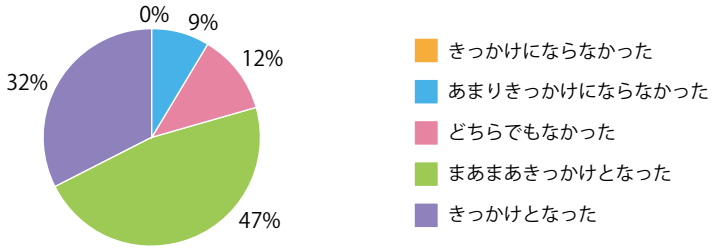
人間学群障害科学類、生命環境学群地球学類、生物学類、生物資源学類、理工学群応用理工学類、物理学類

Q3．どのような分野の学科/学部/学校に通っていますか？
（※４年制大学には医学、歯学、獣医学などの６年制課程も含みます）

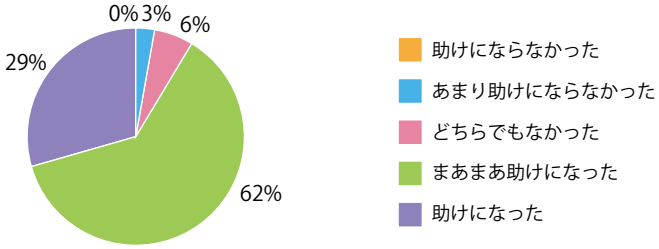


※短大、高等専門学校、専門学校への進学と回答した人数は０人であった。

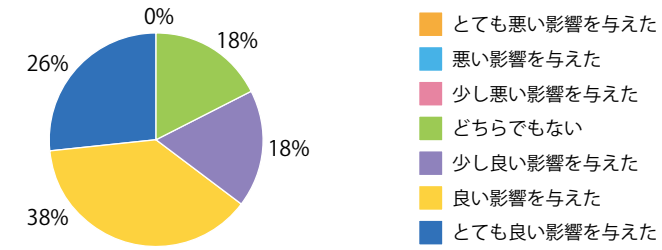
Q4．あなたが参加した筑波大学のリケジョイベントは、当時、進路を考える（あるいは考え直す）きっかけになりましたか？



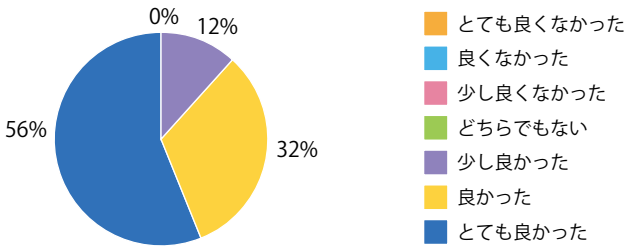
Q5．あなたが参加した筑波大学のリケジョイベントは、当時、進路を考える（あるいは考え直す）助けになりましたか？



Q6. あなたが参加した筑波大学のリケジョイベントは、現在の進路にどのような影響を与えたと思いますか？



Q7. 今のあなたが振り返ってみて、筑波大学のリケジョイベントに参加したことは良かったと思いますか？



Q8. 特に印象に残っているエピソード

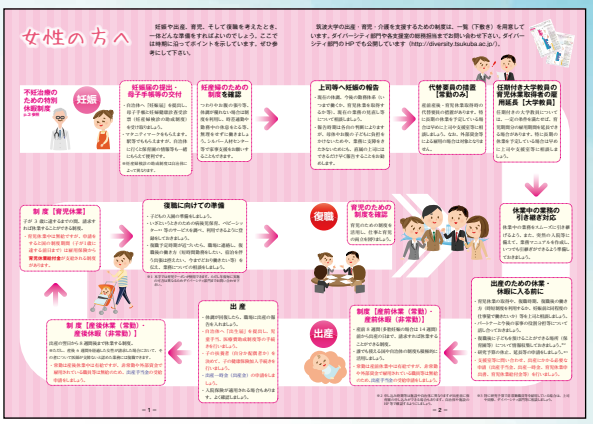
- この体験をしていなかったら、理系に進むのはとても不安で挫折していたかもしれません。良い体験と、きっかけになりました。ありがとうございました。
- 宿泊で学年関係なく仲良くなれた。同学年の人との話が刺激になった。
- 大学生と実際のキャンパスライフについて聞けた。当時、大学生活について全く想像も出来ていなかったが、話を通じて明確に自分の未来の姿を描けるようになった。
- 大学病院の緊急治療室で赤ちゃんが集中治療を受けていたところを見て、とても胸を打たれました。今でも記憶に残っています。進路以外にも、学べたものがありました。
- 知り合いがいないところで様々なことを体験することで自立性や協調性が磨けたと思いました。今後もこのリケジョ合宿で感じたことを忘れずにいきたいと思います。
- 高３で参加し、４年間大学生スタッフとして、長い間大変お世話になりました。この活動のおかげで進路も就職先も決まったと言っても過言ではございません。いつまでもリケジョを応援しています！！
- 他学年の人とも一緒に楽しく過ごせた。大学の研究の見学や、体験ができて楽しかった。理系の内容が自分に合っているのか、確かめられた。

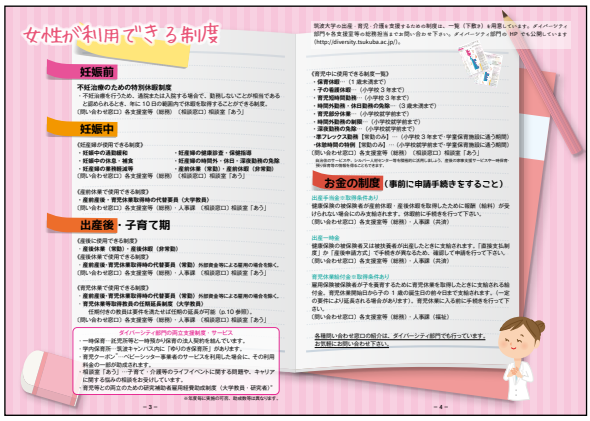
追跡調査の結果、回答率は低かったものの、ほぼすべての参加者が理系の進路に進んだことが示されました。

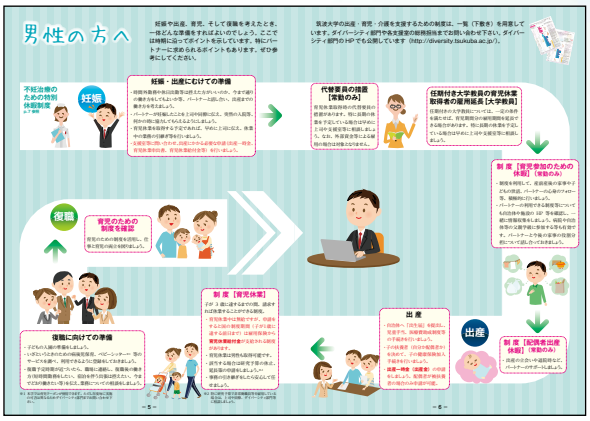
特にリケジョサイエンス合宿やサイエンスカフェが、進路を考える（あるいは考え直す）なんらかのきっかけや助けになったと答えた人は８割を超え、現在の進路にポジティブな影響を与えたと答えた人も８割を超えていました。

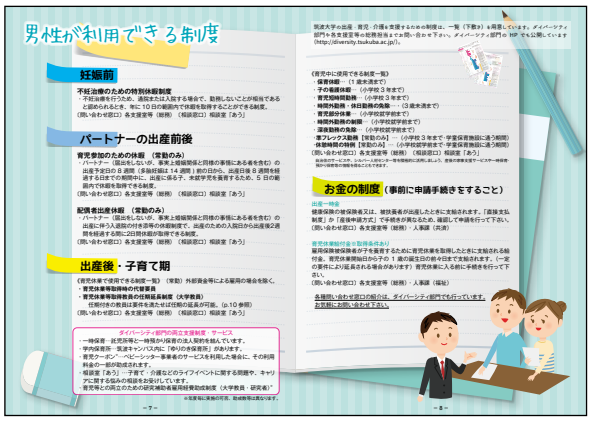
さらに、参加したこと自体は回答者の全員がポジティブな評価をしていることからも、５年間の女子中高生の理系進路選択支援プログラムが十分な成果に結びついていることが明らかにされました。

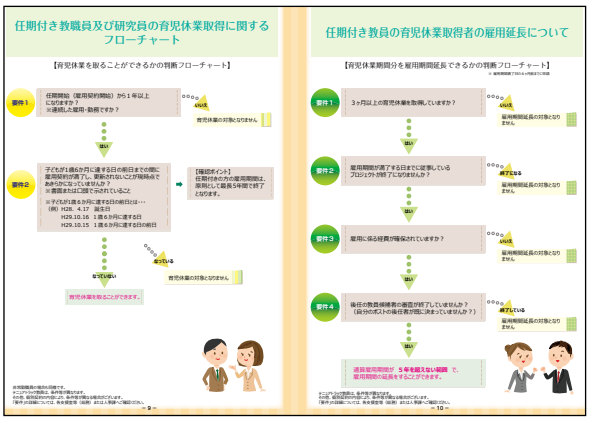
③育児休業制度利用の手引き

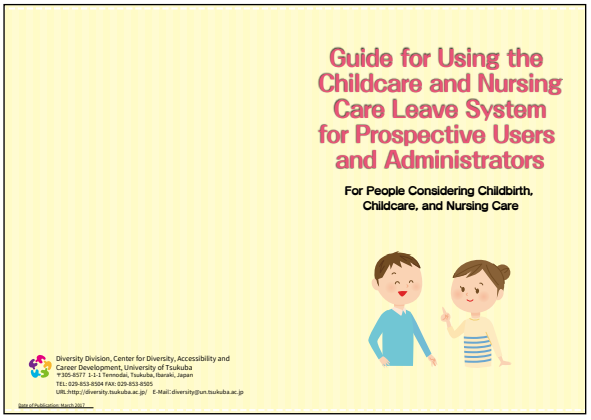


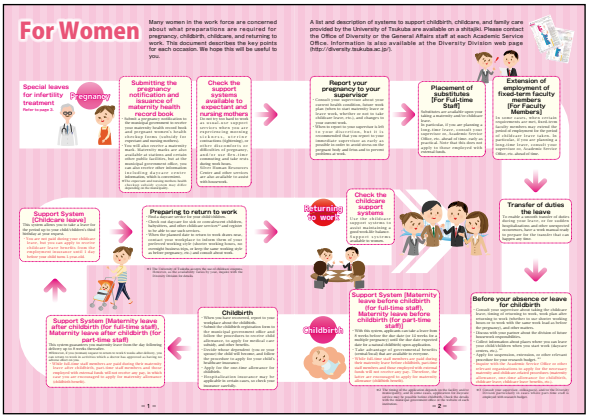


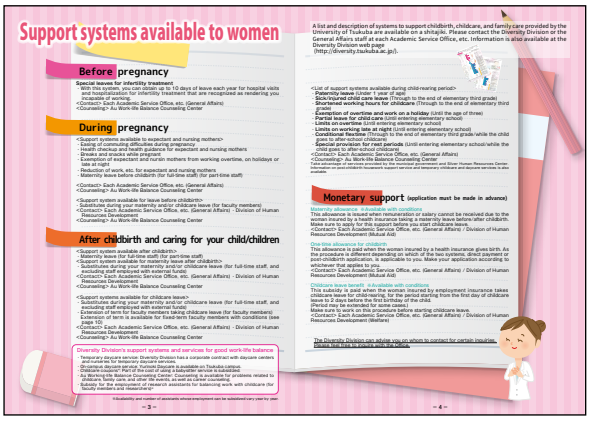


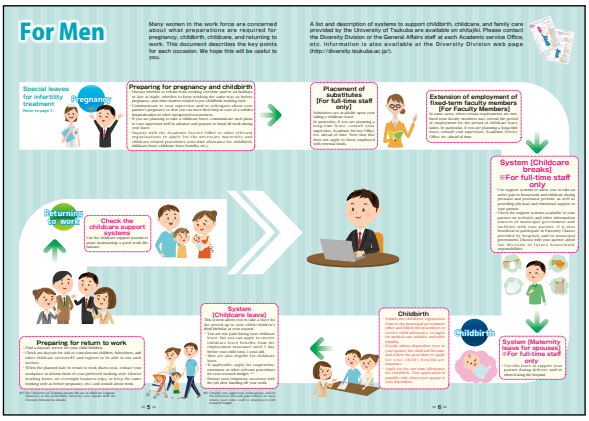


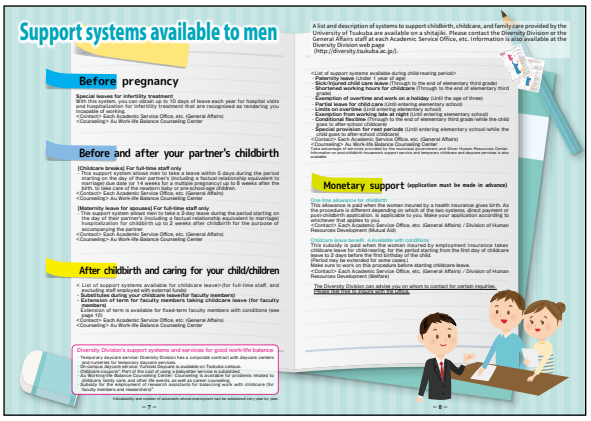


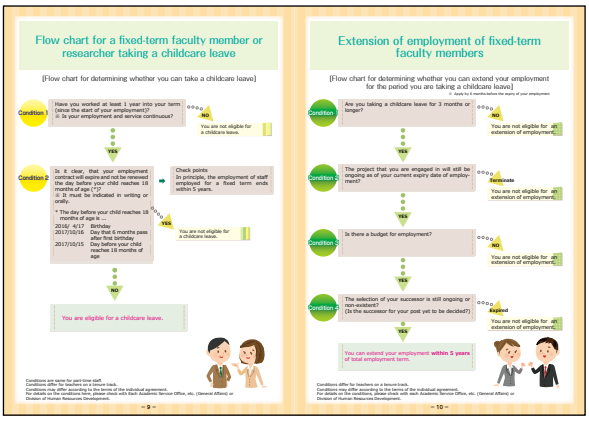

Guide for Using the Childcare and Nursing Care Leave System for Prospective Users and Administrators
For People Considering Childbirth, Childcare, and Nursing Care
Diversity Division, Center for Diversity, Accessibility and Career Development, University of Tsukuba
〒305-8577 1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki, Japan
TEL: 029-853-8504 FAX: 029-853-8505
URL:http://diversity.tsukuba.ac.jp/ E-Mail:diversity@un.tsukuba.ac.jp
Date of Publication: March 2017


For Women
Many women in the work force are concerned about what preparations are required for pregnancy, childbirth, childcare, and returning to work. This document describes the key points for each occasion. We hope this will be useful to you.
A list and description of systems to support childbirth, childcare, and family care provided by the University of Tsukuba are available on a shitajiki. Please contact the Office of Diversity or the General Affairs staff at each Academic Service Office. Information is also available at the Diversity Division web page (http://diversity.tsukuba.ac.jp/).
Special leaves for infertility treatment
Pregnancy
Submitting the pregnancy notification and issuance of maternity health record book
Check the support systems available to expectant and nursing mothers
Report your pregnancy to your supervisor
Placement of substitutes [For Full-time Staff]
Extension of employment of fixed-term faculty members [For Faculty Members]
Support System [Childcare leave]
Preparing to return to work
Returning to work
Check the childcare support systems
Transfer of duties the leave
Childbirth
Childbirth
Support System [Maternity leave before childbirth (for full-time staff), Maternity leave before childbirth (for part-time staff)]
Before your absence or leave for childbirth
Support System [Maternity leave after childbirth (for full-time staff), Maternity leave after childbirth (for part-time staff)]
– 1 –
– 2 –

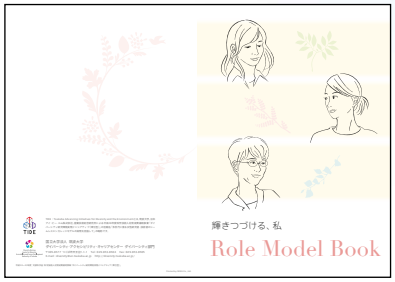

Support systems available to women
A list and description of systems to support childbirth, childcare, and family care provided by the University of Tsukuba are available on a shitajiki. Please contact the Diversity Division or the General Affairs staff at each Academic Service Office, etc. Information is also available at the Diversity Division web page (http://diversity.tsukuba.ac.jp/).
Before pregnancy
Special leaves for infertility treatment
During pregnancy
After childbirth and caring for your child/children
Monetary support (application must be made in advance)
Diversity Division's support systems and services for good work-life balance
– 3 –
– 4 –


For Men
Many women in the work force are concerned about what preparations are required for pregnancy, childbirth, childcare, and returning to work. This document describes the key points for each occasion. We hope this will be useful to you.
A list and description of systems to support childbirth, childcare, and family care provided by the University of Tsukuba are available on a shitajiki. Please contact the Diversity Division or the General Affairs staff at each Academic Service Office, etc. Information is also available at the Diversity Division web page (http://diversity.tsukuba.ac.jp/).
Special leaves for infertility treatment
Pregnancy
Preparing for pregnancy and childbirth
Placement of substitutes [For full-time staff only]
Extension of employment of fixed-term faculty members [For Faculty Members]
System [Childcare breaks] ※For full-time staff only
Returning to work
Check the childcare support systems
System [Childcare leave]
Childbirth
Childbirth
System [Maternity leave for spouses] ※For full-time staff only
Preparing for return to work
– 5 –
– 6 –


Support systems available to men
A list and description of systems to support childbirth, childcare, and family care provided by the University of Tsukuba are available on a shitajiki. Please contact the Diversity Division or the General Affairs staff at each Academic Service Office, etc. Information is also available at the Diversity Division web page (http://diversity.tsukuba.ac.jp/).
Before pregnancy
Special leaves for infertility treatment
Before and after your partner's childbirth
After childbirth and caring for your child/children
Monetary support (application must be made in advance)
Diversity Division's support systems and services for good work-life balance
– 7 –
– 8 –


Flow chart for a fixed-term faculty member or researcher taking a childcare leave
[Flow chart for determining whether you can take a childcare leave]
Condition
Have you worked at least 1 year into your term (since the start of your employment)?
※ Is your employment and service continuous?
NO
You are not eligible for a childcare leave.
YES
Condition
Is it clear, that your employment contract will expire and not be renewed the day before your child reaches 18 months of age (*)?
※ It must be indicated in writing or orally.
* The day before your child reaches 18 months of age is ...
2016/ 4/17 Birthday
2017/10/16 Day that 6 months pass after first birthday
2017/10/15 Day before your child reaches 18 months of age
Check points
In principle, the employment of staff employed for a fixed term ends within 5 years.
YES
You are not eligible for a childcare leave.
NO
You are eligible for a childcare leave.
Extension of employment of fixed-term faculty members
[Flow chart for determining whether you can extend your employment for the period you are taking a childcare leave]
※ Apply by 6 months before the expiry of your employment
Condition
Are you taking a childcare leave for 3 months or longer?
NO
You are not eligible for an extension of employment.
YES
Condition
The project that you are engaged in will still be ongoing as of your current expiry date of employment?
Terminate
You are not eligible for an extension of employment.
YES
Condition
Is there a budget for employment?
NO
You are not eligible for an extension of employment.
YES
Condition
The selection of your successor is still ongoing or non-existent?
(Is the successor for your post yet to be decided?)
Expired
You are not eligible for an extension of employment.
YES
You can extend your employment within 5 years of total employment term.
– 9 –
– 10 –

④ロールモデル集


輝きつづける、私
Role Model Book

女性研究者・技術者支援が
拓く未来に向けて
Role Model Book
Contents

大鹿 綾さん
自分の手術をきっかけに
医薬品の可能性に着目
岡 宏樹さん

坂口 綾さん
放射性核種で
地球を観る
三好 由華さん

永田 純子さん
仕事と家庭と趣味の
ベストバランス
子どもがそばにいる
全力で働く!
浦水 理恵さん

井出 里咲子さん
役割と位置を明確に、
支えられて生きる
文 連子さん

馬 冬梅さん
研究成果を役立てたい
研究はクリエイティブ、
楽しくなければ!
國久 美由紀さん

三橋 薫さん
目標を持って
学び、働きたい
小野 恭子さん

山本(前田)万里さん
商品開発にチャレンジ
夢は広げて花開く!
管理職だからこそ、
自分らしく楽しめる
浅川 恵理さん

山岸 裕美さん
国際的プレゼンスを
あげるために
研究マネジメントのステージへ
キャロライン・ベントンさん

御手洗 容子さん
たくさんの目標に
向かって邁進
研究以外の仕事も
いつか自分の糧に立つ
福島 尚美さん

大島 慶子さん
日本と自分を知るために
若いときに世界へ出よう
福田 博子さん

イノベーション創出へ
女性研究者・技術者の潮流を起こす

自分らしく生き生きと

⑤新聞掲載記事

2017年４月７日　筑波大学新聞

国立大で初

性的少数者への指針作成

大学全体での対応定める

筑波大学は3月27日、LGBTなど性的少数者への、具体的な対応や基本理念を記載したガイドラインを発表し、大学公式のホームページで公開した。このような性的少数者に向けた全学的な取り組みは、国立大で初めて。（越智小夏、写真も）

筑波大は平成27年度から、性的少数者に対する取り組みを開始してきた。昨年度には、性的少数者への対応を行ってきたダイバーシティ部門内に、相談窓口を開設。昨年5月には全教職員へ向けて学生のプライバシーを守ることを目的に、学生の性別を名簿などの配布資料などに記載しないよう通知を行った。

プライバシーに配慮し、壁で囲まれた相談室（3月29日、スチューデントプラザで）

今回作成されたガイドラインでは、「少数者を差別しないなどの基本理念を記載。また、これまで各部署が対応してきた事例が一つのガイドラインにまとめられたことで、性的少数者に対する大学全体の方針が定められた。

ガイドラインには、▽大学発行の証書の中身や氏名変更などの情報管理の在り方▽体育や学外実習などの授業での対応方法▽更衣室やトイレなどの施設の利用方法▽就職活動の支援の仕方……など、さまざまな事例への対応策について記載した。

しかし、今回のガイドラインでは、トランスジェンダーの学生に関する内容が中心。過去、大学への相談が多かったためで、今後同部門は「他の性的少数者や、学生だけでなく教職員を含めた内容も検討し、改訂していく予定だという。

同部門の河野禎之助教は、「少数派だからという理由で、個人が能力を発揮できないことはあってはならない。今回のガイドラインの制定で、性的少数者への理解が広がり、現状改善への第一歩になってほしい」と話した。

このガイドラインは、大学と同部門のホームページ上で詳しい内容が公開されるほか、同部門の窓口などに設置される。

同部門はスチューデントプラザ2階。相談窓口への連絡先は、電話番号・029・853・8504、メールアドレスdiversity・au@un.tsukuba.ac.jp

◆

ガイドラインに記された基本理念は、以下の3点。

「性自認や性的指向は本人の能力とは無関係であり、少数者ということで差別や嫌がらせがあってはなりません」

「性自認や性的指向に関わる情報やその開示・非開示、またそれらの表現は、当事者の意思でコントロールされるものであり、他者から不当に侵害されることがあってはなりません」

「LGBTなどの少数者にとって修学・服務の妨げとなる事柄は、適切な過程による合意形成を経て、合理的な範囲で取り除かれなければなりません」

2017年８月３日　毎日新聞

女子中高生が筑波大で合宿

理系進学や研究の不安を解消
交流や実験体験など２泊３日

理系に関心がある女子中高生が、女性研究者から研究生活について聞いたり、実験を体験したりする２泊３日の「リケジョサイエンス合宿」が２日、筑波大で始まった。

初日は９グループに分かれ、同大の女性研究者や院生と交流する場が設けられた。参加者からは「苦手科目をどうやって克服したか」「理系を選んでよかったことは何か」などの質問が挙がった。

この合宿は、女子学生が少ない理系への進学や研究生活への不安を解消してもらおうと、同大が2013年から毎年夏休み期間中に実施。今年は岩手県や宮崎県など全国各地から中学１年～高校３年の96人が参加した。

岡山県玉野市の高校１年、藤原有沙さん(15)は「理系志望だが、どの学部や専攻がいいか迷っている。先輩の話を聞いて、進みたい分野を決めるヒントをもらいたい」と話していた。【大場あい】

筑波大の女性研究者を囲み、研究の魅力などについて話を聞く中高生ら

育児と研究を両立

筑波大の支援

制度充実、家族の理解も

けんなん女子鼎談

はたらく――4

大学や研究機関が多いつくば市では、たくさんの女性研究者が働いています。8月2日から4日までの3日間、筑波大で開かれた「リケジョサイエンス合宿」。リケジョとは、理系女子のことです。女子中学生や高校生に、女性研究者の仕事と魅力を知ってもらおうという企画です。主催したのは、同大ダイバーシティ・キャリアセンターのダイバーシティ部門。女性研究者が働きやすい環境を目指して、ワークライフバランスの推進、次世代の女性研究者を育成する試みを行っています。

同センターの河野禎之助教(37)が「筑波大には子育てと研究を両立する研究者がたくさんいますよ」と2人の研究者ママを紹介してくれました。

女子中高生に「研究の面白さを伝えたい」と、合宿の講師を務めていた生命環境系・TARAセンター、広田恵子助教(44)。小学1年生の男の子のママですが、産後6カ月という早さで職場に復帰しました。保育所に預け始めた当初は「お昼休みに保育所へ行って授乳して、また研究室へ戻る」毎日だったと、6年前を振り返ります。

筑波大には研究者を支援するさまざまな制度があります。多く利用されているのが「育児・介護との両立のための研究補助者雇用経費助成制度」です。

1歳4カ月の子どもがいるシステム情報系社会工学域の佐野幸恵助教(39)は、この制度を活用。ソーシャルメディアなどの社会現象を数学や物理の手法で解析する研究をしています。膨大なデータを扱い、整理に時間を要するため、研究補助者としてプログラミングに詳しい大学院生に作業を依頼し、その経費の助成を受けています。

佐野さんも産後4カ月半で子どもを大学内の「ゆりのき保育所」に預け、職場復帰しました。早めに復帰した理由は「大好きな研究をやめたくなかった」のと「結果を求められる世界なので休んでいられない」から。愛媛県出身で、首都圏でシステムエンジニアとして働いた後、研究者の道へ進みました。

夫も筑波大の研究者で、佐野さんが学会のため泊まりがけで出張するときには、夕食から寝かしつけ、朝の保育所の準備まで1人でこなします。週末、夫婦共に出張が入ったときは、夫の両親が預かります。

「家族の理解、大学の制度、両方あるおかげで研究に集中できます」と生き生きと語る姿は、同じ女性としてすてきだなと感じました。復帰後に心掛けているのが「早めの仕事」で、採点や授業の準備など、できることは早めに済ませています。「休日は息子との時間を大切にしたいです」

今回の取材を通して、研究者ママならではの復帰の早さに驚きつつ、いろいろな働き方を認め合える社会になったら良いなと思いました。「一生、研究を続けたい」と話す女子学生もいて、将来が楽しみになりました。

（NPO法人子連れスタイル推進協会・神原十恵）

（次回は9月1日掲載）

学生の発表にアドバイスする佐野幸恵さん（左から3人目）＝筑波大

2017年10月４日　北陸中日新聞

金大が性的少数者に配慮

在学証明書など性別欄削除

性的少数者（ＬＧＢＴ）への配慮から、金沢大（金沢市）が今月中に六種類の証明書の性別欄を削除する。同大関係者によると、同様の試みは北陸地方の大学では珍しい。（田中美知生）

新しく発行される在学証明書㊤と性別欄のある旧証明書㊦＝金沢市内で

性別欄を無くすのは、在学、在寮、成績、卒業、卒業見込み、免許等取得見込みの各種証明書。就職活動をしていた学生から「（心と体の性が異なる）トランスジェンダーの自分を会社に認めてもらえるか…」と、悩みを打ち明けられた同大人文学類の岩本健良准教授らが、証明書発行のシステムが更新される八月を見据え、昨年末から学務担当者に働きかけていた。

全国の性的少数者支援団体でつくる「ＬＧＢＴ法連合会」によると、証明書に性別欄があることで、面接などで性別と見た目が違うことを追及され、採用されないケースもあるという。性別欄を削除したことで、岩本准教授は「企業には性別ではなく、中身を評価してほしい」と話す。

同大は本年度から「ハラスメント防止・対策指針」に、性の多様性について差別的な言動の禁止を盛り込むなど、ＬＧＢＴに配慮する取り組みを進める。北陸では、高岡法科大（富山県高岡市）も本年度から学生や教員を対象にＬＧＢＴへの理解を深めるセミナーを始めた。

全国の取り組み

個別の更衣室、支援ガイドブック…

全国の大学でも、ＬＧＢＴに配慮する取り組みが広がっている。

金沢大と同様に証明書から性別欄を無くす取り組みを進める国際基督教大（東京都三鷹市）では、同大の研究機関「ジェンダー研究センター」が二〇一二年四月からガイドブックを発行。性別に関係なく個別に利用できる更衣室、ＬＧＢＴ同士が悩みを話し合うイベントの開催など、支援につながる情報が得られる。

筑波大（茨城県つくば市）は今年三月に「ＬＧＢＴ等に関する基本理念と対応ガイドライン」を作成。ＬＧＢＴへの差別禁止などの方針を盛り込み、一部証明書に性別欄がないことを明記した。担当の河野禎之助教は「その場その場の対応になってしまわないよう方向性を示した」と話す。

2017年10月31日　毎日新聞

性的少数者問題に取り組む団体など表彰

「PRIDE指標」

筑波大が最高賞

LGBTなど性的少数者の問題に取り組む団体・企業を表彰する「PRIDE指標」で、筑波大が今年の最高賞に選ばれた。名簿から性別欄自体をなくしたり、当事者が選択できるよう男女別に行う体育の実技をあらかじめ例示するなど、LGBT対応の指針をいち早く策定したことなどが評価された。

【大場あい、加藤栄】

名簿から性別欄なくすなど…いち早く指針

この表彰制度は、当事者らが参加する任意団体「ワーク・ウィズ・プライド」が昨年開始した。対応方針を明文化・公開しているか▽性的少数者に配慮した人事制度などが評価する。同大は全ての要件を満たした。

同大は2015年から性的少数者の支援について本格的な検討を開始。今年3月にはLGBTに特化した対応の指針を策定した。

指針は「性的少数者であることと、大学が重視する本人の能力とは無関係」と打ち出したうえで、学生、教職員を問わず差別禁止▽カミングアウトや服装は当事者の自己決定を尊重▽学業・仕事の妨げを除去――とする3項目の基本理念を掲げた。

具体的な対応法として、心と体の性が異なるトランスジェンダーの場合、本人の意図に反し戸籍上の性別が他人に知られることがないよう、通称を使用できることや、学生に配布する名簿では性別欄をなくすことなどを明記した。

また通常は男女で一律に分けられる体育の実技などについて、カリキュラムを事前に示して選択できるよう配慮するほか、学内に設置された身体障害者対応の「多目的トイレ」を使用できるとした。

2015年に一橋大の男子学生が同性愛者であることを同級生に暴露され、転落死した問題をきっかけに対応を検討する大学は増えている。

筑波大の永田恭介学長は「性的少数者への対応については、『どうしたら公平になるか』という心構えをうたうことが最も大事だと考えた。第三者に認められるのはうれしいことで、他の大学や組織が取り組みを考えるきっかけにもなってほしい」と話した。

LGBT　レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（性同一性障害など心と体の性が一致しない人）の英語の頭文字を取った用語。性的少数者の総称として使われることが多い。

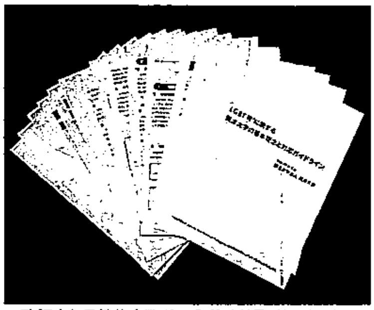
2017年12月11日　筑波大学新聞

筑波大の性的少数者への対応

大学初の最高評価受賞

筑波大学は、LGBTなど性的少数者に向けた取り組みを評価する「work with Pride 2017」（性的少数者支援のNGOなどが構成する任意団体主催）で、大学で初めて、最高評価のGOLDを受賞した。またGOLDのうち、性的少数者に対する優れた取り組みを実施している5団体が選ばれる、ベストプラクティス（最も優良な実践状況）としても選出された。筑波大は今回の受賞の大きな理由となったガイドラインについて、今年度末に向けて改訂を進める方針だ。

（越智小夏＝比較文化学類2年、4面に記者の声）



改訂される性的少数者へのガイドライン（12月5日、筑波大学新聞編集室で）＝秋田耕平撮影

同賞は、「企業内で性的少数者の人々が自分らしく働ける職場づくりを進める」ことを目的に、「work with Pride」が2016年から主催。企業や団体の性的少数者対応に関するものでは全国で唯一で、今年度は全国から110の団体が応募、日産自動車（横浜市西区）やソフトバンク（東京都港区）などがGOLDを受賞した。

筑波大は27年度から、性的少数者への取り組みを本格化した。昨年度からは、性的少数者への対応を行う大学の「ダイバーシティ部門」に、相談窓口を開設。昨年5月には、気が付かないうちにアウティング＝＝することを防ぐために、学生の性別を名簿などに記載しないよう全教職員へ向けて通知した。また氏名の変更や更衣室の利用などへの対応方法を定め、今年3月には、大学では初となる性的少数者に関する基本理念とガイドラインを制定した。

同賞では、このような取り組みに加え、ガイドラインで大学としての方針を公開したことを評価。ガイドラインの対象者が学生や教職員含む全構成員となっている点が特に評価された。

受賞を受け、ダイバーシティ部門の河野禎之助教は、「筑波大全体が、性的少数者に限らず多様化が進んでいる。その中で評価されたのは良いことだ」と話した。

同部門はガイドラインの改訂版を今年度末に発表する予定。改訂版では、周囲の人がどう対応すればよいか事例ごとに説明するほか、カミングアウト＝＝に備え、気持ちを整理できる記入欄なども記載される予定だ。

アウティング＝本人の了解を得ず、性的指向や性自認を暴露すること。

カミングアウト＝これまで公にしていなかった自らの出生や、性的指向などを表明すること。

2018年１月　TSUKU COMM［ツクコム］vol.38

TSUKU COMM

TOPICS

ダイバーシティ

多様性を考える機会に ダイバーシティ Awareness Week 2017

パネルディスカッション、東京2020パラリンピックに向けて〜筑波大学ができること〜

10月2日から6日、社会における人の多様性について、楽しみながら考えるきっかけにしようと、本学初の試みとなる「ダイバーシティ Awareness Week 2017」を開催しました。

プレイベント「Blending colors〜LGBTサークルによる意見交換会〜」から、最終日のファカルティ・ディベロップメントを目的とした講演会「ダイバーシティ推進研修会〜国籍、性別、障害を超えた多様性がもたらすもの〜」まで、学内外16組織の協力で13のプログラムを実施。「東京2020パラリンピックに向けて〜筑波大学ができること〜」ではバーチャルリアリティの研究者とパラリンピアンが、「人工知能研究からみた身体障害者支援の未来」では人工知能の研究者と障害のある在学生が公開ディスカッションするなど、多彩な研究者・学生を抱える本学ならではの情報発信や意見交換が行われました。

本学は、年齢、性別、国籍、文化の違い、障害の有無に関わらず、人の可能性と多様性を尊重し学びあえる大学、そして個性と能力が発揮できる社会の実現を目指しています。そのために、このような活動を継続していきます。

だれでも気軽に！アダプテッド・スポーツ／車いすポートボール体験

セクシュアルマイノリティ写真展「OUT IN JAPAN@筑波大学」

受賞表彰

松本正幸教授が「つくば奨励賞（若手研究者部門）」を受賞 「2つのドーパミン神経システムとその神経回路基盤」に関する研究が評価

医学医療系の松本正幸教授が、「第28回つくば奨励賞（若手研究者部門）」を受賞しました。この賞は、茨城県内において顕著な研究成果を収め、今後の活躍が期待される40歳以下の研究者に贈られるものです。11月21日につくば国際会議場で茨城県科学技術振興財団主催の授賞式典が開催され、江崎玲於奈賞、つくば賞とあわせた表彰式、および受賞者による記念講演が行われました。

ドーパミン神経細胞は「報酬」を得るための学習や意欲に重要な役割を担っていますが、そのメカニズムは不明でした。そこで松本教授は、中脳に分布するドーパミン神経細胞から前頭前野に伝達される神経シグナルに注目しました。その結果、報酬が得られない時にドーパミン神経細胞活動が抑制されるのは、脳の中心部にある外側手綱核という部位が興奮することによる、すなわち、外側手綱核がドーパミン神経の抑制性応答の起源であることを突き止めました。

さらに、ドーパミン神経細胞が、「報酬」に加えて「運動・認知機能」に関連した情報も伝達することを見いだし、報酬シグナルと運動・認知シグナルを伝達するドーパミン神経細胞は、それぞれ中脳の異なる領域に分布していることを明らかにしました。これらの成果が、「2つのドーパミン神経システムとその神経回路基盤」として、この度の受賞の対象となりました。

本学のLGBTに関する取り組みが 大学初、ゴールド受賞&ベストプラクティス選出

企業・団体等における性的マイノリティ（以下、LGBT）に関する取り組みを評価する「PRIDE指標2017」において、本学が大学として唯一、最高評価のゴールドを受賞しました。

この指標は、企業などの枠組みを超えてLGBTの人々が誇りをもって働ける職場の実現を目指す国内の任意団体 work with Pride が2016年に策定し、企業・団体がLGBT関連の施策を行う上での参考となるものです。評価指標には、PRIDEの各頭文字に合わせて、Policy（行動宣言）、Representation（当事者コミュニティ）、Inspiration（啓発活動）、Development（人事制度・プログラム）、Engagement／Empowerment（社会貢献・渉外活動）の5項目があります。本学は「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」を2017年3月に作成し、LGBTに関する相談窓口、氏名・性別の情報とその管理、学生生活・就活などについて対応と方針を示しています。このガイドラインの具体性、インターネットで公開していることや学生教職員を問わず全構成員を対象にしていることなどが評価され、特に優れた取り組みとしてベストプラクティスにも選出されました。

16 TSUKU COMM　　TSUKU COMM 17

2018年２月12日　茨城新聞

女性研究者の活躍を

筑波大・リーダー育成講座

女性研究者の活躍を目指し、筑波大は産業技術総合研究所（産総研）、日本IBMと共に、女性リーダーを育てる講座を開いている。3者の研究者が参加し、女性活躍の壁になる職場の課題や解決策について提言するとともに議論を行う。第3講座の成果報告会がつくば市の同大で開かれ、女性研究者のほか経営陣ら約40人が参加し、「評価方法を変えるべき」「管理者側の支援が必要」といった意見が出た。

女性の働きやすい多様な職場づくりを話し合った成果報告会＝つくば市天王台

多様な人材を生かす「ダイバーシティー」をテーマにした「ダイバーシティー・リーダー育成講座」は、三つの過程に分けて昨年7～12月に開いてきた。女性研究者の積極採用や上位職への登用といった環境や組織づくりを目指し、現場でのリーダーを育てるのが目的。

成果報告会で、同大の高屋敷明由美氏は「研究職は男性中心社会。女性リーダーでも孤立し不安を感じる。女性が入ることでいい意味で組織をリノベーション（革新）したい」と強調。「女性でもいい仕事をしている人はいるが、頑張っても（子育てとの両立で）疲れて結果的に辞めていく。失敗しても再チャレンジできる風土をつくり、忙しさにかまけず次の一歩を生み出すために汗をかき、何かしらのムーブメントにつなげられれば」と期待した。

評価や登用法考える

同大ダイバーシティ部門は、ダイバーシティー推進活動を人事評価や表彰の対象とするほか、同大と日本IBMの人の交流を促し、IT活用により業務生産性を高めるよう提言した。

報告を受け上層部も意見を述べ、同大の永田恭介学長は「女性のリーダー育成に必要なことは男性にも共通の部分がある。仕事への精神論は知った上で、システム面など具体的な制度をつくる必要はある」と見据えた。加藤一実産総研理事は「多様な人材を評価する評価軸を考えて実践している。女性が活躍できる最初の評価をきちんとできるようにしたい」、日本IBMの倉島菜つ美理事は議論について「アイデアを提供する価値は、企業や大学、社会の価値だ。課題の多くは女性だけでなく多くの人にとって価値がある。管理側が関与し支援して初めてコミュニティーは作動する」と語った。

山口香ダイバーシティ部門長は議論や報告を踏まえ「いかに実効性あるものにしていくかが大事。個人でできること、組織としてシステムに落とし込んでいくことをさらに進めていきたい」と方向性を示した。

（綿引正雄）

⑥プレスリリース「輝く女性の活躍を加速する　男性リーダーの会」行動宣言の賛同

平成 29 年 3 月 1 日

筑波大学ニュース＆トピックス

永田恭介学長が「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しました

国立大学法人筑波大学学長の永田恭介は、内閣府が支援する「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しましたので、お知らせいたします。

本学学長の永田恭介は、この「行動宣言」に賛同し、筑波大学の学生及び教職員を含めた全ての女性の活躍のさらなる推進を通じて、あらゆる面で「開かれた大学」という建学の理念のもと、世界が直面する問題の解決に主体的に貢献する人材の創出を目指した教育研究を充実･強化していくことを、改めて表明します。

■「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言について

平成 26 年 3 月 28 日に首相官邸で開催された「輝く女性応援会議」を契機に、輝く女性・輝こうとする女性たちを応援する各界のリーダーたちによるムーブメントが拡がっています。

このような中、女性の活躍推進に積極的に取り組んでいる企業の男性リーダーによる「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言が取りまとめられました。

※「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言ホームページ
http://www.gender.go.jp/policy/sokushin/male_leaders.html

■国立大学法人筑波大学の女性活躍推進施策について

筑波大学では、平成 9 年に女性研究者の有志による「筑波大学女性教官懇話会（仮称）」が発足し、学内保育所や男女共同参画推進室の設置、育児・介護支援、各種相談体制の確立等を進めるとともに、平成 20 年に「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念・基本方針」、平成 24 年には「ダイバーシティ基本理念・基本方針」を策定する等、これまで一貫して女性活躍のための環境整備・意識啓発等の支援に取り組んできました。平成 28 年、これらの取組は多様化する学生及び教職員への包括的な支援を目的とした「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター」に引き継がれ、さらなる女性の活躍を後押しするべく、現在も取組を加速させています。

■本学の施策に関する詳細

・ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ部門 HP
・女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

※筑波大学は、平成 28 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択を受け、一層の女性活躍推進に取り組んでいきます。

■本件問い合わせ先

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ部門
TEL: 029-853-8504　E-mail : diversity@un.tsukuba.ac.jp

IMAGINE THE FUTURE.

国立大学法人　筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ部門

〒305-8577 つくば市天王台1-1-1
Tel/Fax：029-853-8504/8505
e-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp
https://diversity.tsukuba.ac.jp

Diversity Division
Center for Diversity,
Accessibility and Career Development
University of Tsukuba